

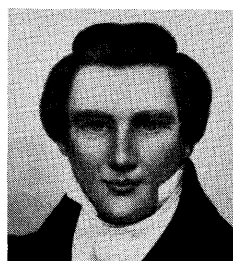
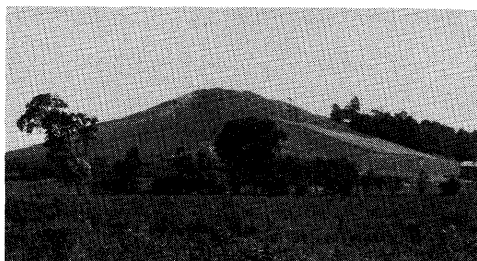
聖徒の道

4 1980



150年前にニューヨーク州北部の田舎町に誕生したこの教会は現在、全世界に広がる大教会へと発展している。
このイラストはその成長の姿を描いたものである。ジェリー・ハーストン作。





末日聖徒イエス・キリスト教会

大管長会

スペンサー・W・キンボール
N・エルドン・タナー
マリオン・G・ロムニー

十二使徒評議員会

エズラ・タフト・ベンソン
マーク・E・ピーターセン
リグランド・リチャーズ
ハワード・W・ハンター
ゴードン・B・ヒンクレー
トーマス・S・モンソン
ボイド・K・パッカー
マービン・J・アシュトン
ブルース・R・マッコンキー
L・トム・ペリー
デビッド・B・ヘイト
ジェームズ・E・ファウスト

顧問

M・ラッセル・バラード・ジュニア
レックス・D・ピネガー
チャールズ・A・ディディエ
ジョージ・P・リー

国際機関誌

編集人：M・ラッセル・バラード・ジュニア
編集主幹：ラリー・A・ヒラー
編集副主幹：キャロル・D・ラーセン
子供頁編集：コニー・ウィルコックス
デザイナー：ロジャー・ギリング

も く じ

はじめに	2
地の果てまで	スペンサー・W・キンボール 3
救い主はこの時満ちたる神権時代をどのように見ておられるか	10
現在の神権時代についての ジョセフ・スミスの言葉	13
教会 150 年史	17
こじんのきろくをつけましょう	41
キリストの福音を恥としない	N・エルドン・タナー 42
りっぱなジェイソン	サンディ・L・ブレッドソー 44
天からの教え	49
赤いオーバー	アイリス・シンダーガード 50
勇気ある行ない	キース・クリステンセン 53
おもちゃばこ	56
輝かしき福音	ブルース・R・マッコンキー 82
ローカル・ニュース	92

聖徒の道 4 月号

発行所	末日聖徒イエス・キリスト教会 東京都港区南麻布 5—10—30
印刷所	株式会社 精興社
配 送	東京ディストリビューション・センター 東京都世田谷区上用賀 4—9—19
定 価	年間予約 1,700円 1 部 150円 海外予約 1,700円

INTERNATIONAL MAGAZINE PBMA 0449 JA Printed in Japan

郵便振替口座番号 東京 0—41512

口座名 ^{まつじつ} 末日聖徒イエス・キリスト教会
東京ディストリビューション・センター

はじめに

私たちは、昔から個人として、あるいは社会人として、私たちの生活に何らかのかかわりを持つ出来事の記念日を祝うようにしてきました。

その意味で、今年教会の回復 150 周年を祝うことは、回復された福音の祝福にあずかっている教会員にとって特に意義あることであると思われます。

世界に目を転じて見ると、宗教や哲学の中には 1,000 年以上経っているものが多くあり、150 年など大した長さではないかもしれません。しかし、教会員は、この福音がこの地球の存在する以前からあり、アダムを初めとする数多くの予言者の時代にも存在したものであること、またこの教会が救い主の時代に主御自身によって組織された教会とまったく同一のものであることをよく知っています。

この 150 年間に、教会の基は非常に堅固なものとなってきました。振り返ってみると、この王国を築くために、数限りない犠牲と勇敢な人々の闘いがありました。中でも、予言者たちの模範、カートランドやノーヴーで聖徒たちが受けた訓練、開拓者の苦難などは特筆すべきことでしょう。かといって、私たち一般の教会員が自分と家族を罪から守り、什分の一と献金を納め、教会堂や神殿を建て、宣教師を援助するために精一杯努力してきたことも決して忘れることはできません。これらすべての汗と努力の結晶が、今日の教会の発展をもたらしたのです。1979 年 4 月の総大会で、スペンサー・W・キンボール大管長は次のように語っています。「教会はすでに成長と円熟の域に突入し、私たちがさらに前進を遂げるために最後の準備をする時に来ている。」（『聖徒の道』1979 年 10 月号, p. 116）

将来、全世界の人々が 1830 年 4 月 6 日の出来事に注目する日が必ずやってくるはずです。そこで私たちに課せられた責任は、今後も引き続き神の王国を築き、この福音を世の人々に知らせるために、「歩みを速める」ことではないでしょうか。

今月の『聖徒の道』教会設立 150 周年特集号では、この福音の最後の神権時代を概観してみることにしました。すなわち、過去 150 年間の出来事とその重要性、時満ちたる神権時代の意義、現在教会が置かれている立場、さらに救い主の再臨に備えてこの主の教会は何をなさなければならないかを取り上げてみました。

地の果てまで



大管長
スペンサー・W・キンボール

愛する兄弟姉妹の皆さん、この地区代表セミナーで皆さんとお会いでき、心からうれしく思っている。み業は進展しており、私たちは、全世界の末日聖徒の生活に、主が数数の祝福を与えて下さっていることをこの目で見てきた。しかし、それでもなお、私たちが行なわなければならないことは多い。(これはいつの時代でも言えることだが、まだまだなすべきことは数多く残されているように思う)

私は、教会員の皆さんが援助の必要な人のいることを知った時にすぐにそれに対応できないからといって心配してはいない。むしろ気懸かりなのは、そのような人のいることに気づかないことである。モロナイはあらゆる時代の富者に、安易な生活を送るようになってこの世の物を「貧しい人々、病気の人々および悩んでいる人々よりも愛する」(モルモン8:37) ことのないようにと警告している。さらにモロナイは、「飢えている者、貧しい者、はだかである者、病んでいる者、また悩んでいる者たち」に注意を払おうとしない人々の

いることを述べている(モロナイ8:39参照)。

神権を与えられている兄弟の皆さん、どうか教会のプログラムを運営するのに忙し過ぎるあまりに、使徒ヤコブが「清く汚れない信心」(ヤコブ1:27)と語ったこれらの基本的な務めを忘れることのないようにしていただきたい。

使徒行伝の中に、予言者ペテロが門口に立った時、応対に出たログの話があるが、私はこの物語が好きである。ログは、予言者が戻ってきたという喜ばしい知らせを人々に告げるが、だれもログを信じない。それでも、「彼女は自分の言うことに間違いはないと、言い張った。」(使徒12:15)

同じように、たとえ人々が疑いの眼で見、あざけろうとも、この神権時代に私たちの中に実際に生ける予言者がいることについて揺るぎない確信をもっていただきたい。

この福音が真実であることについての「揺るぎない確信」は、私たちが指導者として、あるいはイエス・キリストに従う者として是非とも得ていなければならないものである。

特に、「揺るぎない」という言葉に注意していただきたい。

今日よく責任を果たしている忠実な聖徒たちが、時折、その奉仕の業を怠ることがある。予言者アルマが、過去に「心を改めた」人々に向かって、「贖いを与える愛を讃美する歌を唱^{うた}いたいと思ったことがあるならば、今もそう思えるか私はたずねたい」(アルマ5:26)と言ったのは、そのような事情からであろう。

私たちは継続して行なう必要がある。善を行なうのに疲れてはならない(教義と聖約64:33参照)。願わくは、私たち全員に主の祝福があつて、私たちが自分の務めや行ないをなす時に、「贖いを与える愛を讃美する歌を唱^{うた}い」それが昨日も今日、そして明日も変わることなく継続できる生活を営むことができるよう祈っている。

さてここで、これまで私が何度も述べてきた事柄を再び繰り返しておきたい。この福音をあらゆる国民、あらゆる人々に宣べ伝えるのは、私たちの義務であり、責任であり、神の命令である。

主がこの世の生涯における最後の週にオリブ山で語られた言葉を読んでみよう。

「王国のこの福音は、すべての国民に証をなさんため全世界に宣べ伝えられん。而して後に、終り……は至るべし。」(ジョセフ・スミス1:31)

そこで私は皆さんにお尋ねしたい。私たちは期待されている通りの発展を遂げているだろうか。現在、主のみたまは福音の宣教の道を備えるために全世界の国々を覆っていると、私たちは感じている。

最近の政治上の出来事の中には、真理を広めることと関係のあることが幾つかある。

あたかも、主が人々や国々に関する事柄を動かし、選民がイエス・キリストの福音を受け入れられるように国々の指導者の許可を取り付け、全世界に「証をなさんため」にこの福音を宣べ伝える準備を急がせておられるかのようなのである。福音の真理を告げる技術のほ



そは、見よ畑は早白くして刈り入れを待つが故なり。また見よ、勢力をつくして鎌に入る者は、亡びずしてその身も霊も救いを得るために庫に積み入るなり(教義と聖約4:4)

とんどもが順調な進歩を遂げているというのに、それを利用する私たちの進歩は多少緩慢である。交通機関の発達に伴って世界が狭くなったとはいえ、世界の人口を考え、中国やソ連、インド、アフリカ大陸、アラブ諸国の人々など、おびただしい数の御父の子供たちの現状を見ると、世界はやはり広い。

世界各国からこの国を訪れる人々、特に学生たちに愛の手を差し伸べようではないか。そして、彼らが福音に関心を持つかどうかに関係なく、私たち末日聖徒がだれよりもまず彼らを兄弟姉妹として真の友情によって暖かく見守ってゆこうではないか。天父の子供たちの中にはだれひとりとして他人と呼ばれる者はいないのである。そして、これはその天父のみ業である。福音の光に照らしてみれば、彼らは、「もはや異国人でも宿り人でもない」のである(エペソ2:19)。

私は、すでに気持ちの上で半ば改宗している人々が、私たちの訪れを待つのに疲れてい



現在この地上で、福音が宣べ伝えられている国々には約30億の人々がいる。私たちがこれらの国々で新たな一步を踏み出すならば、福音は主の再臨の前に全世界に宣べ伝え……られるようになるであろう。

がたは行って」という戒めに忠実に聞き従い始めている。そこで今朝は、この聖句の後半に記されている、どこに行くべきかということを強調しておきたい。その答えは、「すべての国民を教えよ」という私たちに課せられた責務にある。

主がオリブ山の頂に立って、「あなたがたは……エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地のはてまで、わたしの証人となるであろう」（使徒1：8）と言われたことは、何を意味しているのであろうか。これは主が天の家に帰る前に語られた最後の言葉である。

もう一度皆さんにお尋ねしたい。「地のはてまで」とはどういう意味であろうか。イエスはすでに、使徒たちが知っている地域に福音を宣べ伝えておられた。それではこの言葉は、ユダヤの人々を指すのであろうか。それともサマリヤの人々のことであろうか。あるいは極東や中近東に住む数百万の民のことであろうか。「地のはて」とはどこなのだらうか。現在アメリカと呼ばれている地に住む数百万の民のことであろうか。それともギリシャ、イタリアなど地中海沿岸の国々、あるいは中央ヨーロッパに住む数十、数百万の民のことだろうか。主は何を考えておられたのであろうか。

るのではないかと感じるものが時折ある。また、私たちが行動を起こすのにあまりにも長く待ち過ぎ、教会を建て、天父の子供たちを養う絶好の機会を逸しているのではないかと心配になることがある。私たちは細心の注意を払いながら、なお前進をすることができる。どんなことも討議ばかり重ねるよりは、一歩前進した方がよい。建物の建築も机上であれこれと検討するよりは、実際に仕事を進めた方がはるかに事ははかどる。

伝道活動が現在、急激な伸びを示していることを、私たちは心から喜んでいる。各地に新しい伝道部が開設され、古い伝道部は分割されている。もし今19歳から26歳までの資格ある若人の50パーセントが伝道に出るならば（これは現在の状況から見て、きわめて現実的で妥当な数字である）、伝道の力は倍加するであろう。そして、近い将来その力はさらに倍加されるものと私たちは期待している。教会と会員たちはすでに、「それゆえに、あなた

それとも、イエスは全世界の民、すなわちその後幾世紀にもわたってこの世に来るように定められた霊たちをも含んで考えておられたのだろうか。私たちはイエスのこの言葉とこの言葉の意義を軽んじてはいなかったのだろうか。私たちは、福音を必要としている全世界の40億にもものばる人々の中から、年間に20万人の改宗者を得たからといって、それで満足してよいものだろうか。

私たちは癒しの力と力強いプログラムを備えた福音を数限りない人々に伝えることができる。それも福音を紹介するだけでなく、自分たちがどのような生活をしており、また彼らがどのような生活を送って生活を改善できるかを地域社会で示すのである。

私たちはまだ、ほんの第一歩を踏み出した

に過ぎない。私たちは、まだ私たちの国々で最も信仰篤い人々の幾らかが、通常の伝道活動ではない何らかの方法でこの福音を受け入れた段階であると思っている。

地区代表の皆さんにとって重要なことは、指導者や教会員に、必ずしもすべてがそうだというわけではないが、主のみ業の大半は教会の組織や部門を通じて行なわれるということを理解させることである。

このことは、世界がどんなに広く、どれほど多くの人々が私たちの訪れを待っているか考える時に、いつも私の脳裏に浮かぶことである。例えば、私たちはあらゆる機会をとらえて、適切な教会のメッセージをテレビやラジオの電波にのせるようにしているだろうか。

アフリカの国々はどうかであろうか。彼らはこれまで長い間待ち続けてきた。アフリカ大陸には、世界総人口の10分の1以上の人々が住んでいる。これは南アメリカ全体の約2倍である。彼らは、「すべての国民」の中に数えられていないのだろうか。「地のはてまで」の中に含まれていないのだろうか。

幸いにも現在、ブリガム・ヤング大学やその他の教育機関で何名かの黒人学生が教育を受け、末日聖徒の生活様式を学び、教会政体についてもある程度理解していただいている。

先日、私はガーナの一生徒から心温まる手紙をいただいた。その中でこの生徒は、「末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であること」をととても誇りに思っていると述べていた。実は、彼はまだバプテスマを受けていなかったが、それでも彼は自分が末日聖徒だと思っていたようである。そして、間もなくバプテスマと確認を受け、適切な時にアロン神権を授けられて真の末日聖徒になることの喜びを語っていた。さらに、「恐れず来れ聖徒」や「来ませ王の王」のような讃美歌やシオンの歌を歌う時、いつも感動を覚えると述べていた。

つまり皆さんに申し上げたいのは、多くの国々で、私たちだけが与えることのできるさらに明らかな光と真理に人々を備えさせる動



多くの国々で、私たちだけが与えることのできるさらに明らかな光と真理に人々を備えさせる動きが目に見えて活発になっている。

きが目に見えて活発になっているということである。主は主のみたまによって、やがて福音が簡潔な言葉で語られる時のために人々を備えておられる。したがって私たちは準備をしなければならない。

主は、「見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである」(マタイ28:20)と言われた。1830年、主はパーレー・P・プラットとそのほか数名の人々を、重要な使命を託して送り出すにあたって、次のように述べられた。「さらば、われ自らも共に歩いて彼らの真中に在らん。われは父に彼らを擁護すれば、何ものも彼らに打ち勝つものなからん。」(教義と聖約32:3)

言うまでもなく、問題が残されていないわけではない。いわゆる「第三世界」の国々との問題がある。福音に関心を持って集まってくる大勢の黒人たちはまだ読み書きもできず、訓練も十分に施されていない。私たちは、このような人々の子供たちに教育を施し、彼ら

に進歩と成長の原則を教える必要がある。この進歩と成長の原則を学ぶことによって、彼らは霊的、知的面だけでなく、経済的、文化的にも高められるはずである。

しかし、これは私たちが教会歴史の中でこれまでも何度となく行ってきたことである。私たちには、教会のすぐれた教育制度があり、福祉活動の立派なプログラムもある。また指導者を訓練し、系図を教え、伝道活動を推し進める手段を提供する神権組織や、子供、青少年、女性たちのために補助組織のプログラムを行なう機関もある。私たちはできるはずである。なぜなら、主は、御父との仲立ちをするので、何ものも私たちに打ち勝つものはないと約束しておられるからである。これまでアフリカ諸国で様々な時代に大勢の人々が学校や仕事に、あるいは政治、経済社会に関与してきた。アフリカ大陸は広大である。最も大切なのは道路であり、また家庭は私たちのひと昔前よりもひどい状態である。貧困は各地に広がり、ほとんどの国では一人当たりの年間所得がわずかに100ドルを越える程度である。そのような人々に、私たちはもう少し待って下さいと言えるだろうか。そのようなことはできない。ガーナがこの有様だとすれば、ナイジェリア、リビア、エチオピア、象牙海岸、その他のアフリカ諸国はどうだろうか。これらの国々も、日本やベネズエラ、ニュージーランド、デンマークと同じように、私たちにとってなじみのある国とならなければならない。

それでは世界で3番目に大きな国、中国はどうであろうか。中国には世界総人口の $\frac{1}{4}$ 、ほぼ10億の御父の子供たちが住んでいる。そのうち、6億6千万人が北京官語を話している。しかし、私たちのうちでこの北京官語を自由に使いこなせる人が何人いるだろうか。私たちは時間の許されている間に、これらの民に福音を教える備えをしなければならない。もちろん、政治上の問題も含めて、世界各地にはまだまだ多くの障壁が残されている。

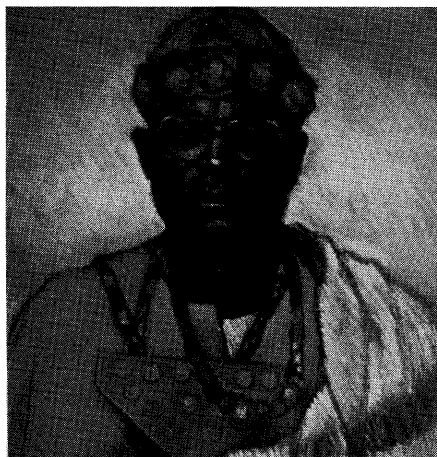
インドはどうであろうか。約7億5千万人の総人口のうち、2億1,300万人がヒンズー語だけしか話することができないという。私たちの中にヒンズー語を話せる人が何人いるだろうか。私たちは、主が「わが福音を携えてインドの地に行け」と命じられる時、彼らを教える備えができていだろうか。

1億4千万の民がいるインドネシアはどうだろうか。7千万人のパキスタン、8千万人のバングラデシュはどうだろうか。合わせて5,100万の人々が住むイスラエルやヨルダン、イラン、イラクはどうであろうか。彼らは皆、真理を求めている。しかも、その真理を知っているのは私たちだけであり、彼らはそれをどこで搜したらよいかすらわからないのである。

ビルマ、ラオス、ベトナム、カンボジア、マレーシア、シンガポール、タイには約1億4,700万人の人々が住んでいる。彼らもジョセフ・スミスの名前を尋ね求める日が間もなく来るであろう。私たちはこれらの国々で、ある程度の成功を収めている。しかし、これらの地域における働きも戦争のためになかなか思うにまかせない。

サウジアラビアはどうだろうか。お金があっても、人には福音が必要である。今の彼らには、お金よりも福音の方が必要のように思われる。4,100万人のイスラム教徒がいるトルコはどうであろうか。私たちは、全世界5億のイスラム教徒に福音を宣べ伝える適切な準備をしているだろうか。どなたかアラビア語を母国語とする1億3千万人の人々に福音を宣べ伝えるために、アラビア語を勉強しているだろうか。

現在この地上で、福音が宣べ伝えられていない国々には約30億の人々がいる。私たちがこれらの国々で新たな一步を踏み出すならば、たとえそれが小さな一步でも、やがてあらゆる血族、あらゆる国語の民の中の改宗者たちが母国の民のために光となって前進を始め、福音は主の再臨の前に全世界に宣べ伝えられ



アフリカ大陸には、世界総人口の10分の1以上の人々が住んでいる。これは南アメリカ全体の約2倍である。彼らは、「すべての国民」の中に数えられていないのだろうか。「地のはてまで」の中に含まれていないのだろうか。

るようになるであろう。

私たちが祈り、そして備えるならば、主は私たちと共にいて下さる。主は私たちの前を歩まれ、右に、また左にいて下さる。そして主のみたまは私たちの心の中にあり、天使たちは私たちを囲んで懐き支えてくれることだろう（教義と聖約84：88参照）。

教会歴史を読んでみると、初期の教会の兄弟たちが非常に勇気をもって世界へ出て行ったことがよくわかる。彼らは、自分で道を見だし、迫害と艱難の中を前進し、福音の門戸を開いた。その結果、扉のちょうつがい¹⁰⁰が弛み、門の中に入ることが許されたのである。恐れを知らないこれらの宣教師たちの働きによって、教会がまだ完全に組織される前に、聖徒たちの住む地方の周囲のインディアンの土地に福音が宣べ伝えられたのである。1837年にはすでに十二使徒が英国を訪れた。そして、1844年にタヒチ、1851年にオーストラリア、1853年にアイスランド、そのほかこの

1850年代にイタリア、スイス、ドイツ、トンガ、トルコ、メキシコ、チェコスロバキア、中国、サモア、ニュージーランド、南アメリカ、フランス、ハワイで福音が宣べ伝えられるようになった。これらの国々での伝道の驚くべき進展と共に、そのすぐ隣の国々で福音が少しも宣べ伝えられていないことを目にする時、一体どうしたものかと首をかしげることがある。このような初期の伝道活動はほとんど、指導者が平原を横切り、芝を植え、家庭を築きながら行なってきた。まさに信仰、それも超人的な信仰であった。主は十二使徒たちにこう言われた。「時至らば、神のみ使い以外にだれもあなた方を救い得ることができなくなる時が来るであろう。……皆さんには、ほかの人にはできない、なすべき仕事がある。」

（*History of the Church*「教会歴史」2：198）

サラが自分に子供が生まれると言われたのを聞いて笑った時、主はこう言われた。「主にとって不可能なことはありませんか。」（創世18：14）サラがこの言葉を天幕の入口で聞いた時、アブラハムは百歳になり、サラ自身は90歳、すでに子供を産む年齢を過ぎていることを知っていた。この年では、子供をもうけることはもうできない。サラにはそれがわかっていて、私たちが多くの国々の福音の門戸を開くことができないと考えているように。

ところが、兄弟の皆さん、サラはアブラハムの息子を産んだ。そして、アブラハムは多くの国民の父となったのである。

また主はエレミヤにこう言われた。「見よ、わたしは主である、すべて命ある者の神である。わたしにできない事があろうか。」（エレミヤ32：27）

主が命じられたことは、必ず成し遂げることができる。私たちは、イスラエルの人々が渡ることができないと思っていた紅海を渡ったことを覚えていると思う。クロス王が川の流れを変え、難攻不落のバビロンの町を陥落させたことも知っている。また、リーハイが渡海の難しい大海を越えて約束の地にたどり

着いたこともよく知っている。私は、主が行なうと決められたことは何でも必ずできると信じている。

しかし、私たちが入っていく準備もしないのに、主が門戸を開けて下さるとは思えない。

私たちは十分に考え、十分に祈り、そして十分な働きを行なっているだろうか。

ここで再び、私が他のセミナーで述べたレーマン人に対する主のみ業について触れておきたい。この偉大な民は確かに、私たちの忠実で、熱心な働きを求めている。私たちはあらゆる機会をとらえてこの福音のメッセージを伝える義務がある。もしそれができなければ、それは私たちの責任である。

最近の報告によれば、ある一地域だけで6名のレーマン人の兄弟が、セミナーの専任職員として働いている。他の地域における教育活動も推して知るべしである。数年前までは、全世界を見渡しても6名といなかった。しかし現在は、一地域だけで6名の職員がいる。これこそ、この福音のメッセージは再びその民に伝えられ、望むらくは、偉大なレーマン人の伝統を受け継ぐ人々を通して宣べ伝えられるという、大いなる予言と約束の成就の始まりである。この大いなるみ業は、あたかも人手によらずに山から切り出されたひとつの石のように、この民の間を転がり進むであろう。そしてレーマン人の世界に、回復された福音の祝福が満ちるであろう。伝道管理部では、伝道の召しを受けるレーマン人の若人がますます増えていると伝えている。レーマン人の地域に、さらに多くのステーキ部やワード部が組織されている。このことを聞いて、私たちは非常に喜んでいる。私たちは彼らに福音を宣べ伝える責任がある。彼らは、私たちの兄弟、姉妹である。私たちにはまだまだなすべきことが多い。この中央アメリカや南アメリカにおけるレーマン人のみ業もまだまだその大部分を私たちの働きに負っている。

私たちはあらゆる機会をとらえてこの福音のメッセージを伝える義務がある。もしそれができなければ、それは私たちの責任である。

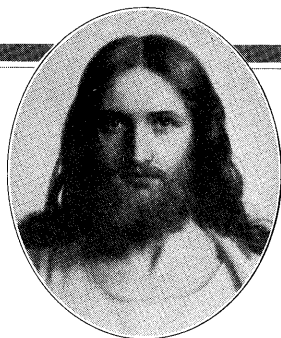
ユダヤ人の兄弟姉妹たちに対する私たちの業は始まったばかりである。皆さんも御存じの通り、彼らとアラブ人の兄弟姉妹たちの間には大きな政治的障壁がある。現在は、困難な時かもしれない。全世界の目は今、彼らに注がれ、平和を待ち望み、祈っている。恒久平和があるとすれば、それはただひとつ、イエス・キリストの福音によってもたらされる平和である。その平和を、私たちはユダヤ人やアラブ人に、またレーマン人や異邦人に携えていかなければならない。あらゆる地方の、あらゆる人々に知らせなければならない。兄弟姉妹の皆さん、私たちのなすべきことはまだまだ多く残されている。

そこで皆さんに、この主のみ業を知恵を用いて常に前進させなければならないこと、そして立ち止まることは許されないことを理解していただきたいと思う。

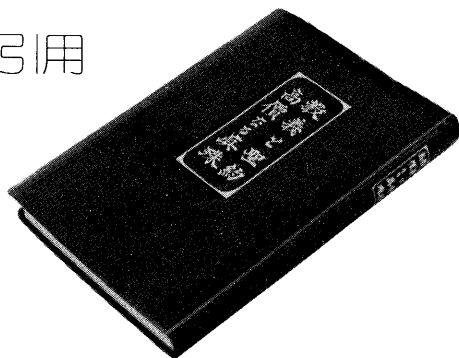
願わくは、この偉大な末日の業に携わる私たち全員に主の祝福があるように。そして、責任を与えられているすべての兄弟姉妹が手を差し伸べ、全力を尽くして働くように、心からへりくだりイエス・キリストのみ名によって祈っている。アーメン。

(1978年9月29日、地区代表セミナーにおける説教より)

救い主はこの時満ちたる神権時代を どのように見ておられるか



教義と聖約からの引用



福音が回復されて間もない頃に福音を受け入れた人々も、農夫、主婦、教師、皮なめし工、かじ屋といった、私たちと何ら変わらない「普通の」人々であった。

教義と聖約が私たちに教えていることのひとつに、そのような人々に救い主がどのように働きかけられたかということがある。教義と聖約には万物が回復され、すべてのものがひとつに集められる時満ちたる時代について、救い主が彼らに、いかに忍耐強く教えられた

かが刻明に記されている。

主のみ言葉をいろいろな角度から研究し、その後で、み言葉そのものに触れ、初期の教会員たちに（私たちにも当てはまる）この神権時代の重要性を教えるために主御自身が与えて下さった啓示を読むと、私たちは一層豊かな知識と洞察力を養うことができる。以下の聖句は、私たちの時代と行く末について救い主御自身が授けて下さったみ言葉である。

この神権時代の目的

「主なるわれ、この世に住める人々に襲い来るべき禍を知れば、わが僕ジョセフ・スミス（二代目）を呼び天より語りて彼に誠命を下せり。

……こは予言者たちの記せし事の成就せんがためなり。

すなわち世の弱き者たち出で来り、人その同胞を議りまた肉の権力に依り頼まざらん様力ありて強き者たちを打ち破らん。

されどこは、あらゆる人々主なる神すなわち世の救い主の名によりて語らんため、信仰もまた世に高まり、わが永遠の誓約は確立せられ、完全なる福音、弱き者たち単純なる者たちによりて世界のいやはてまでも宣べられ、王と統治者との前に宣べられんがためなり。」（教義と聖約 1：17—23）

「全くして欠くることなき完全なる合一とまた神権の時代と、鍵と、権能と、光栄との固き結合出来て、これがアダムアダムの時代より現在に至るまでことごとく明らかにさること、今やまさに先触れを始めんとする時満ちたる神権の時代の先駆をなすに必要なればなり。なお、そののみならずまた世の始めよりいまだ嘗て啓示せられずして、賢く慎みある人々にも明かされざりしことも、この時満ちたる神権の時代には小児にも乳のみ児にも明らかにせらるべし。」（教義と聖約 128：18）

「今の代は誠にわが教会の荒野より立ち上りて出で来るはじまりにして、すなわちそは月の如くさやかに、日の如くうららかに、旗を立てたる軍勢の如くおそろし。」（教義と聖約 5：14）

「そは、われ全能者は世の人々の邪悪を懲さんとて諸々の国民の上にわが手を置きたれ

ばなり。

また、疫病出で来りてわが業の完うせらるるまでこの世より止むことなからん。而して、わが業は正義に適いて短くせられん。

すなわち、ついにいと小さき者よりいと大いなる者に至るまでことごとく、その中に留まれるわれを知りて主に就ける知識に充たされ、目と目と相見人々声を挙げ共に声を合せてこの新しき歌を唱わん。」（教義と聖約 84：96—98）

主は教会員を勇気づけ、強めておられる

「見よ、汝らは幼児なり。今はすべてのことに堪ゆる能わず。されば、汝らは恩恵と真理の智恵に於て生長せざるべからず。

怖るなかれ、幼児らよ。そは、汝らはわがものなり。われは世に打ち勝ちたり。汝らは御父がわれに与えたまいしものに属すればなり。

御父がわれに与えたまいしものは一つも失われることなし。

而して汝らわが声を聞き、われを見、われ在るを知るの日来らん。

この故に、汝ら警めて備えを為せ。」（教義と聖約 50：40—42, 45—46）

「この故に、かくの如く主汝らに言う。汝らはすなわち代々父の血統によりて神権を有つ者たちなり。

何となれば、汝らは肉に由りて正当なる世つぎにして、神の中にキリストと共にこの世より隠されたればなり。

すなわち、この故に汝の生命と神権とは依然残されたり。而して世の始めよりこの方すべての聖なる予言者の口によりて語られたるすべての事の回復する時まで、汝と汝の血統とによりてこれは必ず依然残らざるべからず。

さればもし汝ら絶えずわが善を行い、異邦人の光となり、この神権によりてわが民イスラエルを救う者となれば汝ら幸福なり。」(教義と聖約86：8—11)

「汝らはイスラエルの子らにしてまたアブラハムのすえの子らなれば、必ず権能によりまた救いの手によりて束縛を脱るべきものなればなり。……

故に汝ら氣落するなかれ。……

われ汝らに言う『わが天使らを汝らに先立ちて上り行かしめ、われもまた行く。されば、^{ついに}終に汝ららの善き地を占めん』と。」(教義と聖約103：17, 19—20)

「この誠命^{いままの}を受けたる者たちもこの教会の基礎^{もと}を置き、人に知られぬ所よりまた暗き所より、全地の面に於ける唯一の真にして生命あ(る)……この教会を明るみに出す能力を与えらるるを得。」(教義と聖約1：30)

「われは無學にしてさげすまる世の弱き者たちを召し、わが『みたま』の力によりて諸々の国民を打たしむ。

また、貧しき者柔和なる者たちはわが福音を説き聞かせられ、わが来る時を待ち望みてあらん。わが来る時は近ければなり。」(教義と聖約35：13, 15)

主が示したもうたシオンの姿

「見よわれ汝らに告ぐ、シオンは繁榮して主の栄光そこに留らん。

而してシオンは民の旗標^{はたじろし}となり、民は天下の万国より此所に集り来るべし。

而して万国の民シオンの怖るべきによりておののき、シオンの怖るべき者たちによりて怖る時至らん。主この事を語れり。」(教義と聖約64：41—43)

「すなわちシオンはその美と聖とを増し、

その境域は拡がりそのステーキ部は堅うせられざるべからず。われ誠に汝らに告ぐ、シオンは起ちてその美しき衣を着けざるべからずと。」(教義と聖約82：14)

「およそ日の栄の王国の律法の諸原則によらずんば、シオンを建つこと能わず。これによりて建てずば、シオンをわれに受け入ることかなわざるなり。」(教義と聖約105：5)

「主の大いなる日来る前に、ヤコブは荒野に栄えレーマン人は^{そうび}薔薇の如く華さくべし。

シオンは諸々の丘の上に栄えて諸々の山の上に悦び、彼らはわが指し示したる所に寄り集らん。

見よ、われ汝らに告ぐ、汝らわが命じたる如く出で行け。すべての汝らの罪を悔い改めよ。求めよ、さらば与えられ、叩けよ、さらば開かることを得ん。

見よ、われ汝らの前に立ちて行き、汝らの後にありて守らん。われまた汝らの中に在れば、汝らあわてふためくことなかるべし。

見よわれはイエス・キリストなり。われ速に来るなり。」(教義と聖約49：24—28)

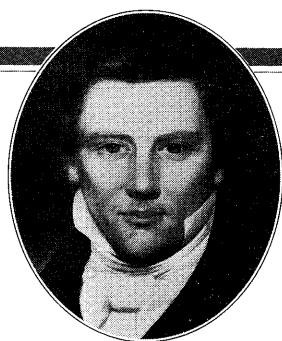
「さて見よ、もしシオン(わが戒めに従わば)、シオンは栄え、拡り、大いに栄光に充ち、偉大となり、且つ恐るべきものとならん。

而して、世の諸々の国民はシオンを崇めて言わん。誠にシオンは、われらの神の市なり。誠にシオンはたおることを得ず、またその場所より移すことも得ず、そは神^{いす}そこに在し主の御手そこにあればなり。

また主、シオンの救いとなりシオンの高きやぐらとなると、その威勢の力によりて誓をなしたまいたればなり、と。

故に、誠に主かくの如く言う。シオンよ喜べ。そはこれこそシオン、すなわち『心の清き者』なればなり。」(教義と聖約97：18—21)

現在の神権時代についての ジョセフ・スミスの言葉



今からおよそ 150 年前、主はジョセフ・スミスを通じてこう言われた。「神の王国の鍵はこの世の人の手に委任され、福音はここより転じ行きて世の果にまでも達せん。あたかも人手によらず山より切り出されたる石の転がり出でて、ついに全世界に充ち満つるが如し。」(教義と聖約65：2)

以来、教会は目覚ましい発展を遂げている。やがて神の王国は世界に満ちるようになるであろう。1979年3月31日の総大会で、スペンサー・W・キンボール大管長はその発展の模様を次のように語っている。「前回……総大会が開かれてから……主の王国は著しい発展と成長を遂げた。……

兄弟姉妹の皆さん、私は……全世界のシオンの進歩と発展を非常にうれしく思っている。会員数は 400 万を越え、多くの人々が続々と教会に入っている。また神殿が建設され、方

方の地に人々の礼拝する集会所が建てられ、……私たちが訪れる各地の教会の著しい発展を目にすることができた。私たちはそのことを非常に喜んでいる。」(『悪に対して家庭を堅固に築く』「聖徒の道」1979年10月号, pp. 2—3)

確かに1830年に人手によらずして山から切り出された石は、転がり出て、今全地に広がりつつある。ジョセフ・スミスは、神が自分を通して回復されたこの教会がただ単に存続するだけでなく、発展し、繁栄することをよく知っていた。またジョセフ・スミスは神の王国やシオンの概念、この時満ちたる神権時代が神の計画にとって重要なこと、また教会がその目的を成就すべく神が導いて下さることをよく承知していた。

ではここで、教会の設立 150 周年を迎えるに当たり、ジョセフ・スミスが予見したこの教会の将来を見てみよう。

「まだ少年の頃、イエスはすでにユダヤ人の王国を統治するに必要な知識を具えておられた。律法や神学の分野において並ぶところのない見識豊かな博士たちを説き付けられ、その知恵に比べれば、彼らの理論や知恵も愚かなものに見えた。しかしイエスはまだ少年であり、自分の身を守ることもできないほど、肉体的には未熟であった。寒さや空腹、そして死に左右される体だったのである。末日聖徒イエス・キリスト教会についても同じことが言える。私たちにはイエスの啓示が与えられており、私たちの持っている知識は、もしも人がそれを受け入れるならば、この地上に義しい政府を築き、全人類にあまねく平和をもたらすに十分である。しかしかつて救い主が子供の時そうであったように、私たちも肉体的な強さに欠け、自分たちの教えを守ることができない。私たちは苦難に遭い、迫害され、打ちのめされなければならない。そして、ヤコブが年老いて、自分自身の世話ができるようになるまで、辛抱強く耐え忍ぶ必要がある。」(Teachings of the Prophet Joseph Smith 「予言者ジョセフ・スミスの教え」 p. 392)

ロッキー山中に定住する聖徒たち

「私は予言した。聖徒たちは引き続き多くの苦難に遭遇し、ロッキー山脈に迫られるであろう。多くの者が背教し、また迫害者たちのために殺されたり、野ざらしの生活と病気のために命を落とす人々もいるであろう、と。それでも、あなた方は生きて歩み、定住地を造る手助けをし、都市を建設し、聖徒たちがロッキー山脈の真ただ中であって力強い民となるのを目にするであろう。」(同上p. 255)

この末日における主のみ業は、最も重大なことのひとつであり、それは人間の理解を越えるものである。またその栄光は筆舌に尽くし難く、その崇高さは至上のものである。それはまた、世の創造から現在に至るまで代々、予言者や義人たちの胸を高鳴らせてきたテーマでもある。



「この業はロッキー山脈を数多くの末日聖徒で満たし、それにイスラエルの長老の口を通して語られるキリストの福音を受け入れるこの山間に住むレーマン人が加わり、彼らは神の王国なる教会と一体となって多くの善きものを生み出すことだろう。」(*Discourses of Wilford Woodruff*「ウイルフォード・ウッドラフ説教集」p. 30への引用)

恵まれた民

「シオンを築くということは、あらゆる時代の神の民が関心を示してきた大事である。予言者、祭司、王たちは特にこのテーマについて語るのを喜びとした。彼らは私たちの時代を楽しみに待ち望んでいた。天からの喜びの訪れに胸を躍らせ、この時代を詩歌に歌い、文章に表わし、また予言した。しかし彼らはそれを見ることもなく世を去った。私たちは神から末日の栄光をもたらすように選ばれた恵まれた民である。この末日の栄光、すなわち時満ちたる神権時代を目にし、それに加わり、前進させるのは私たちの任務である。その時、神は天と地にあるすべてのものを集め、ひとつとされるであろう。その時、予言者たちが語ったように、神の聖徒はもろもろの国、部族、国民、国語の民の中からひとつに集められ、ユダヤ人は1箇所に集められ、邪悪な者も滅ぼされるために集められる。神のみたまは神の民の上にとどまり、他の国民から取り上げられる。こうして天と地にあるすべてのものが、まさにキリストにあってひとつとなるのである。天上の神権者は地上の神権者と一致協力し、これらの偉大な目的を成就する。私たちが、神の王国を進展させるという

ひとつの大事のもとに一致する時、天上の神権者がそれを傍観していることはない。神のみたまは天から降り注ぎ、私たちの真ただ中に留まる。至高者のもとらす祝福は私たちの幕屋に注がれ、私たちの名は後世へと引き継がれる。そして私たちの子孫は立ち上がって、私たちを祝福された者と呼ぶであろう。まだ生まれていない子孫たちは、私たちがみ業の基を据える際に歩んだ道、耐えた苦難、たゆまぬ熱意、そして克服した数知れない厳しい試練について、特別な喜びをもって語ることだろう。そのみ業とは、私たちの子孫もやがて味わう栄光と祝福とをもたらしたみ業、すなわち神と天使が過去の長きにわたり喜びをもって見守ってこられたみ業、昔の族長や予言者たちの心を燃え立たせてきたみ業、そして暗闇の力を破壊し、地球を再新し、神の栄光と人類の救いをもたらすみ業である。」

(*Teachings of the Prophet Joseph Smith*「予言者ジョセフ・スミスの教え」pp. 231—32)

あらゆる大陸、あらゆる聞く耳を持つ者に

「私たちの宣教師は様々な国々へ出で立ち、今や真理の旗が掲げられている。いかなる汚れた者の手も、このみ業の発展を止めることはできない。迫害は威を振るい、暴徒は連合し、軍隊が集合し、中傷の風が吹き荒れるかもしれない。しかし神の真理は大胆かつ気高く、悠然と出で立ち、あらゆる大陸を貫き、あらゆる地方に至り、あらゆる国々に広まり、あらゆる者の耳に達し、神の目的は成し遂げられるであろう。かくして、大いなるエホバは、み業は成ったと告げられることだろう。」

(*History of the Church*「教会歴史」4:540)

重大かつ崇高なみ業

「この末日における主のみ業は、最も重大なことのひとつであり、それは人間の理解を越えるものである。またその栄光は筆舌に尽くし難く、その崇高さは至上のものである。それはまた、世の創造から現在に至るまで代り、予言者や義人たちの胸を高鳴らせてきたテーマでもある。現在は確かに、時満ちたる神権時代であり、天におけると地上におけるとを問わず、キリストなるイエスにあって、すべてのものが主のもとへ集められる時である。そして、世の初めから、聖き予言者たちが語ってきた万物更新の時でもある。その時、先祖に与えられた偉大な約束は成就され、至高者の偉大な、輝かしい、崇高な権能が示されるであろう。……

この末日に達成すべき業こそ非常に重要であり、聖徒たちの精力と技術、才能、能力のすべてを尽くして遂行しなければならないものである。そうする時に、このみ業は予言者たちが描いていた栄光と威厳をもって転がり出るのである。このような重大かつ崇高なみ業を達成するためには、聖徒たちの一致協力が必要である。」(*History of the Church*「教会歴史」4：185—86)

「それはこの末日に、神の威厳をもって頭をもたげる天の王国、すなわち末日聖徒の教会のことではないだろうか。この末日聖徒の教会は、サタンによる嵐や暴風雨にさらされながらも、大いなる海原にあって動かすことも刺し貫くこともできない岩のように、いつまでも堅固に保たれてきた。そして、船をもも沈める大暴風に運ばれ、無数の泡を伴って、

意気揚々たる崖に押し寄せる山のような波にも、教会は今なお恐れることなく敢然と立ち向かっているのである。それでもこの反対の波は、正義に敵対する者たちによって倍加された怒りと虚言のくま手をひっさげて突き進んでくるであろう。……私たちはこの真理の敵対者がこれからも邪悪の淵をかきまわし、人々がより明確に正義と悪とを見分けられるようにと願っている。」(*Teachings of the Prophet Joseph Smith*「予言者ジョセフ・スミスの教え」p. 99)

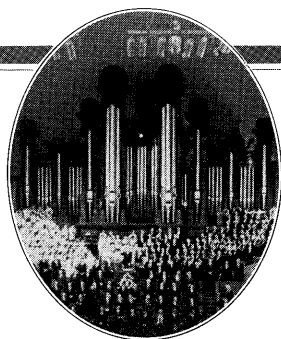
「祭司と王の国」

「この日、……天の神はいにしへの王国にあった秩序をその僕とその民に回復する。……その日、万物は一つとなって完全なる福音、神権時代の中でも完き神権時代、時満ちたる時代の訪れを迎える。またその日、これまで存在し、古代の予言者や賢人が見ることを望みながら果たせずして死んでいったそのものを明らかにし、御自身の教会の中に打ち建てられる。その日、創世の以前から隠しおかれたこと、そしてエホバがこの地上に神の栄光、すなわち日の光栄の栄光を回復し、祭司と王の国をシオン山の神と小羊に永遠に戻すべく備えるために、時至らば僕らに知らせると約束されたことが明らかになる。」(*History of the Church*「教会歴史」4：492—93)

☆

☆

教会150年史



1805年

12月23日、ジョセフ・スミス・ジュニア、合衆国バーモント州シャロンにおいて、ジョセフおよびルーシー・マック・スミスの第4子として生まれる。

1820年

ジョセフ・スミス、最初の示現を見る。御父と御子は、どの教会に加入すべきかというジョセフの問いに答えられる。

1823年

9月21—22日、復活したモロナイが5度にわたりジョセフ・スミスを訪れ、古代の金版の存在を告げ、福音の回復とモルモン経の翻訳に関するジョセフ・スミスの役割について教える。

1827年

1月18日、ジョセフ・スミス、エマ・ヘイ

ルとニューヨーク州サウス・ベインブリッジで結婚する。

9月22日、ジョセフ・スミス、クモラの丘でモロナイからモルモン経の金版を受け取る。同時に、翻訳を助けるものとしてウリムとトミムも授けられる。

1829年

5月15日、ジョセフ・スミスとオリヴァ・カウドリ、バプテスマのヨハネからアロン神権を授かる。ふたりは指示された通りに互いにバプテスマを施し合う。

5月あるいは6月、ジョセフ・スミスとオリヴァ・カウドリ、ペンシルベニア州ハーモニーとニューヨーク州コーズビルの間のサスケハナ河近くで、ペテロ、ヤコブ、ヨハネからメルケゼデク神権を授かる。

6月、モルモン経の翻訳が完了し、3人の見証者、オリヴァ・カウドリ、デビッド・ホイットマー、マーテン・ハリスは示現で

金版を見る。次いで、8人の見証者、クリスチャン・ホイットマー、ジェコブ・ホイットマー、ピーター・ホイットマー・ジュニア、ジョン・ホイットマー、ハイラム・ページ、ジョセフ・スミス・シニア、ハイラム・スミス、サミュエル・H・スミスの証が続く。

1830年

3月26日、モルモン経が出版される。

4月6日、ジョセフ・スミス、ニューヨーク州フェイヤットのピーター・ホイットマー・シニアの家で「キリストの教会」を組織する。この時、法律上の条件を満たすために、ジョセフ・スミス・ジュニア、オリヴァ・カウドリ、ハイラム・スミス、ピーター・ホイットマー・ジュニア、デビッド・ホイットマー、サミュエル・H・スミスの6名が設立者となる。

4月11日、オリヴァ・カウドリ、ホイット

マー家の集会で、新しい教会における最初の公の説教をする。

1830年

6月、ジョセフ・スミス、後に高価なる真珠に収録された「モーセの示現」を明らかにされる。さらに12月には、「モーセの書」が付け加えられる。

6月9日、教会の第1回大会がフェイヤットで開かれる。教会員は27名。

6月30日、サミュエル・H・スミス、教会として最初の公式の宣教師としてニューヨーク州の町々を訪れる。

10月17日頃、4名の宣教師がニューヨーク州のカタログス・インディアン、オハイオ州のワイアンドット族、ミズーリ辺境のショーニー族とデラウェア族への伝道を開始する。その途中、オハイオでシドニー・リグドンとその会衆を教え、バプテスマを施す。



クモラの丘（ジョージ・アンダーソン撮影）

1831年

2月4日、エドワード・パートリッジ、「教会の監督」（教義と聖約41：9）と称される。
8月2日、ミズーリ州ジャクソン郡カウで開かれた式典の中で、シドニー・リグドン、シオンの地を奉獻する。翌日、ジョセフ・スミス、神殿用地を奉獻する。

1832年

1月25日、ジョセフ・スミス、オハイオ州アマーストにおける大会で、大神権の大管長に支持される。後にシドニー・リグドンとジェシー・ガウスが副管長に指名された。この最初の大管長会は、3月8日の啓示により確認される。ガウスは1833年の初めに、フレデリック・G・ウィリアムスに替わる。
2月16日、ジョセフ・スミスとシドニー・リグドン、（聖書の靈感記に従事している時）様々な光栄に関する示現を受ける。（教義と聖約第76章）
6月1日、末日聖徒の最初の出版物「ザ・イブニング・アンド・モーニング・スター」がミズーリ州インデペンデンスで刊行される。編集者はウィリアム・W・フェルプス。

1833年

秋、伝道活動がカナダに広がる。
11月、暴徒の迫害や襲撃のために、聖徒はミズーリ州ジャクソン郡を離れる。
12月18日、ジョセフ・スミス・シニア、教会初の大祝福師に聖任される。

1834年

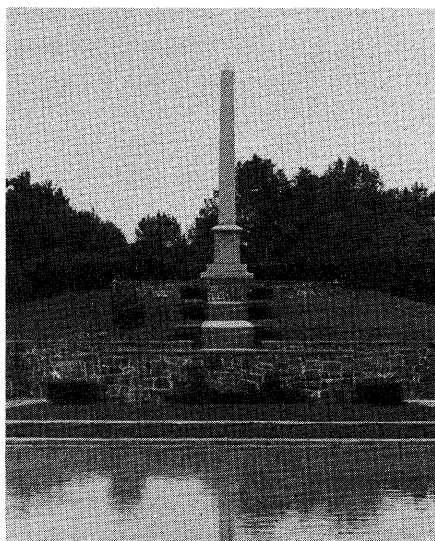
2月17日、オハイオ州カートランドで、ステーキ部長会と高等評議員会が選任される。

また1834年7月3日には、ミズーリ州でも同様の組織がつくられる。

5月1日ー7日、シオンの陣営がミズーリを追われた聖徒たちを救援するために、オハイオ州カートランドからミズーリ州クレ一郡へ向けて行軍を開始する。
このシオンの陣営は6月30日に解散される。

1835年

エマ・スミスの選んだ讃美歌と聖歌の歌集が発行される。
2月14日、モルモン経の3人の見証者たち、シオンの陣営の兄弟たちとオハイオ州カートランドの兄弟たちを集めた集会で、十二使徒を選ぶ。こうして十二使徒定員会が組織される。
2月28日、七十人第一定員会とその7名の会長が指名される。
7月3日、マイケル・H・チャンドラー、オハイオ州カートランドでエジプトのミイ



ジョセフ・スミス記念碑



ジョセフ・スミス・ジュニア

ある安息日の午後のことである。聖餐会で（十二使徒定員会も加わって）聖餐を配った後、ジョセフ・スミスはカートランド神殿の教壇へ退き、幕を下ろした。それからその場にオリヴァ・カウドリと共にひざまずき、厳肅な沈黙の祈りを捧げた。その後ふたりが立ち上がろうとした時、ふたりの前に荘厳な示現が開けた。

「われらは、われらに面して教壇の胸欄に立ちたもう主を見たり。而して、主の脚下にはこはくの如き色したる純金の床ありき。

その眼は燃ゆる炎の如く、頭髮白きこと清き雪の如く、その顔は日の輝きにも勝りて光り輝き、その声は洪水の激する音の如し。誠にエホバの御声言いたもう。

われは始めなり終りなり。われは生ける者なり殺されたる者なり。父と汝らの間の仲保者なり。」（教義と聖約110：2—4）

これは、予言者ジョセフ・スミスが救い主の直接の訪れを受けた事実を証明する、自ら記した証のひとつである。このような訪れを通して、世の人すべてに恵みがもたらされた。すなわち、この神権時代にイエス・キリストの教会が完全なかたちで回復され、使徒ペテロが語っていた万物の更新が現実となって起こったのである。

救い主についてのジョセフ・スミスの証は、彼が死んでも葬り去られることはなかった。この最後の神権時代の幕開けから今日に至るまで、大管長たちはそれぞれ、キリストが生きてましますことを証している。

A handwritten signature in cursive script that reads "Joseph Smith, Jr." with a large, stylized flourish at the end.

ラとパピルスの巻き物を展示。ジョセフ・スミスがこの巻き物を解読し、それを「アブラハムの書」として世に出す。後に、この書は高価なる真珠に収められる。

8月17日、カートランドにおける教会の総大会で、啓示の抜粋を「教義と聖約」として出版することが承認される。

1836年

3月27日、カートランド神殿の奉獻

4月3日、ジョセフ・スミスとオリヴァ・カウドリ、カートランド神殿で、救い主、モーセ、エライヤス、エライジャの訪れを受ける。

6月29日、ミズーリ州クレー郡の市民集会

で、聖徒たちに退去要求が出される。12月までに聖徒の大半がミズーリ州コールドウェル郡に移住する。

1837年

パーレー・P・ブラット、教会初の伝道用パンフレット「警告の声」を発行。

6月4日、ヒーバー・C・キンボールとオルソン・ハイド、英国諸島で伝道を開始するよう召される。そのほかジョセフ・フィールディングやウイラード・リチャーズたちも6月12、13日に英国伝道のために出発する。

1838年

7月4日、ミズーリ州ファーウェストの神殿予定地にすみ石が置かれる。

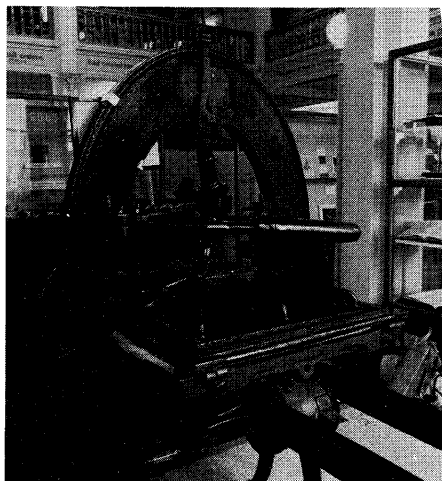
7月6日、カートランド撤退の最終グループのひとつ、「カートランドの陣営」が七十人最高評議員会の指示の下に脱出を始める。

9月21日、ミズーリ州キャロル郡デウイットの聖徒たち、暴徒の襲撃を受ける。暴徒の脅威が10月11日まで続く。この間リバーン・W・ボグズ知事、軍の支援を求めるモルモン教徒の要請を拒否する。

10月26日、ボグズ知事、ミズーリ州から聖徒を追放する撲滅令を発布。

10月30日、「ハウズ・ミルの大虐殺」が勃発、17名の末日聖徒が犠牲となる。これはボグズ知事の撲滅令に呼応した襲撃であった。

11月1日、軍法会議はジョセフ・スミスとその他の者に銃殺刑を宣告するが、A・W・ドニファン准将、それを拒否する。囚人たちはミズーリ州リッチモンドの牢獄に収容される。



E・B・グランデンの印刷機械

11月10日、審問と2週間に及ぶ公判が始まり、その後、ジョセフ・スミスたちはリバティの牢獄に移される。

1839年

1月26日、ブリガム・ヤングと十二使徒会、ミズーリからの聖徒の移動を指揮する委員会を結成する。

4月26日、十二使徒会とその他の教会員はファーウェストの大会で合流し、その後、（教義と聖約第118章の）啓示に従って、十二使徒会は英国諸島への伝道に出発した。

5月10日、ジョセフ・スミス、イリノイ州コマース付近に居を定める。その土地は新しい集合の地としてすでに購入されていた。その地をノーヴーと名付ける。

10月6日、コマース（ノーヴー）がそれぞれに監督を持つ3つのワード部に分けられる。この時以来、監督が管理するワード部が教会の地域区分となる。

11月29日、マーティン・バン・ビューレン

大統領はホワイトハウスでジョセフ・スミスと会見し、その席上、ミズーリ州での弾圧に連邦政府は関与できないと答える。議会にも請願書が提出され、バン・ビューレン大統領と2度目の会合が持たれたが、いずれも徒労に終わる。

1841年

1月19日、ノーヴーにおいて、神殿および宿舎建設の概要を述べた啓示（教義と聖約第124章）が与えられる。神殿の儀式のひとつとして死者のためのバプテスマが紹介される。

1月24日、ハイラム・スミス、1840年9月14日に死去した父の後を継いで教会の大祝福師に聖任される。同時に破門されたオリヴァ・カウドリに替わって大管長補佐に聖任される。

10月24日、オルソン・ハイド、オリブ山の一角で、パレスチナをユダヤ人の集合の地として奉献する。

1842年

3月17日、ジョセフ・スミス、貧しい者や病める者の世話をする目的でノーヴー女性扶助協会を組織。エマ・スミス、サラ・M・クリーブランド、エリザベス・アン・ホイットニーが会長会として召される。

1843年

7月12日、「結婚誓約の永遠性また同じく多妻に関する啓示」（教義と聖約第132章）が記録され、1831年以来告げられてきた「新しく且つ永遠の誓約」の意味がさらに明らかになる。予言者はこの教義をすでに少数

の者に告げており、多妻結婚は1841年から実施されていた。

1844年

1月29日、ジョセフ・スミス、ノーヴーの政治集会で合衆国大統領候補に指名される。

6月12日、予言者、騒じょう罪で逮捕される。彼は自ら裁判に立ち、殺害計画があることを知らされる。

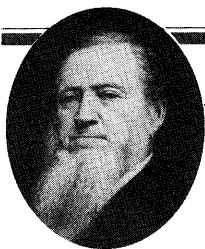
6月22日、ジョセフ・スミスとハイラム・スミス、西部のグレートベースン（大盆地）へ逃れるためにミシシッピ川を渡る。フォード知事が身の安全を保証すると約束したことと、人々の懇請もあって、ふたりは再びノーヴーに引き返し、政府の手に身を委ねる。

6月25日、ジョセフ・スミスとハイラム・スミスらがイリノイ州カーセージに投獄される。

6月27日、ジョセフ・スミスとハイラム・スミス、カーセージの牢獄に襲来した暴徒によって殺害される。ジョン・テイラーは負傷し、ウイラード・リチャーズは無事に逃れる。

8月4日、シドニー・リグドン、ノーヴーの集会で教会の後見人の任命を提唱する。

8月8日、教会の後見人を任命する集会で、シドニー・リグドンは自己の見解を陳述する。ブリガム・ヤングはこの件を午後の集會に持ち越すことを発表する。ブリガム・ヤング、午後の集會で十二使徒会の指導権を主張し、それが教会員の挙手により支持される。



ブリガム・ヤング

「私は、イエス・キリストの福音がまことのものであること、また主のみ業は、記されたものであろうと、語られたものであろうとすべて真理であると証する。

ひとつ質問させていただきたい。この地上に住んでいる人々の中で、この福音が真実であることを証明できるのはだれだろうか。イエス・キリストの福音が真実であり、イエス・キリストが生きてましますことを語れるのはだれだろうか。キリスト教徒と称する人々はそれができるだろうか。いや、彼らにはできない。彼らはイエスが生きておられることを信じ、その確信もあると言うかもしれない。聖書（おもに新約聖書を指す）は真実であると断言するかもしれない。そして聖書に記されていることは救いの計画であり、それは真実であると述べるかもしれない。そのことをはっきりと、しかも厳粛に宣言するかもしれない。

しかし、あえて尋ねたい。イエスが生きてましますことを知っていると言断できる人はだれだろうか。イエス・キリストの福音が真実であり、それが人を救いに導く計画であると言える人はだれだろうか。キリスト教徒と称するすべての人は、この質問に答えていただきたい。しかし、地上に生を受けた人々の中で、そうと言える人はだれもいないと私は確信している。これができるのは、キリストが御自身を現わされた人だけである。（1コリント 2：1—16；12：3 参照）

しかし、キリストが生きてましますことを心底信じていると言う人はいるかもしれない。では、主イエス・キリストの教えが真実のものであると知っているのはだれであろうか。それを知っている人たちがいる。この地上でそれを知っているのは、恐らく彼らだけであろう。それは、イエス・キリストの戒めを守り、みこころを行なっている人たちである。彼らのほかに、そうと言える者はいない。イエスが生きてましまし、その福音が確かなものであると雄々しく、力強く宣言できるのは彼らだけである。」

（ジョセフ・フィールディング・マッコンキー、*Journal of Discourses Digest* 「説教集要録」 pp. 52—53）

Brigham Young

1845年

5月ー6月、ジョセフ・スミスとハイラム・スミス殺害の罪を問われていた9人の被告、無罪の判決を受ける。

9月9日、教会指導者、聖徒たちの避け所としてグレートソルトレーク盆地への移住を発表する。

1846年

5月1日、ノーヴー神殿が献堂される。

7月13日、約2週間前に合衆国軍隊からブリガム・ヤングに届いた要請に応じて、モルモン大隊の志願兵登録を開始する。

9月17日、退去協定に反してノーヴーに残っていた聖徒たちも市から追放される。

1847年

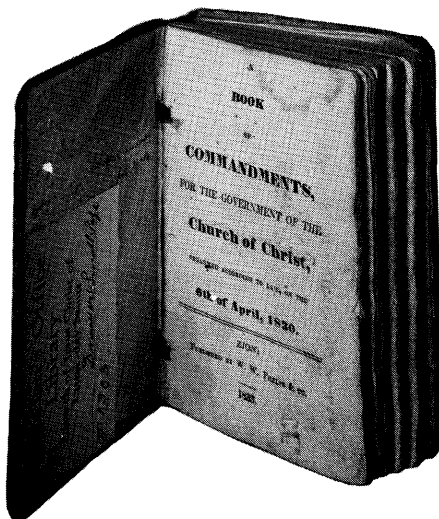
1月14日、ブリガム・ヤング、幌馬車隊の編成をはじめとする西部移住に関する指示を出す。(教義と聖約第136章)

7月22ー24日、ブリガム・ヤングの開拓団、聖徒の居住地を選ぶためグレートソルトレーク盆地に到着し、4月5日にウインタークオーターズを出発した長旅を終わる。

7月28日、ブリガム・ヤング、ソルトレーク神殿用地を選ぶ。

12月5日、ブリガム・ヤング大管長、ヒーバー・C・キンボールおよびウィラード・リチャーズ両副管長からなる大管長会が組織される。全員、1847年12月27日に支持される。

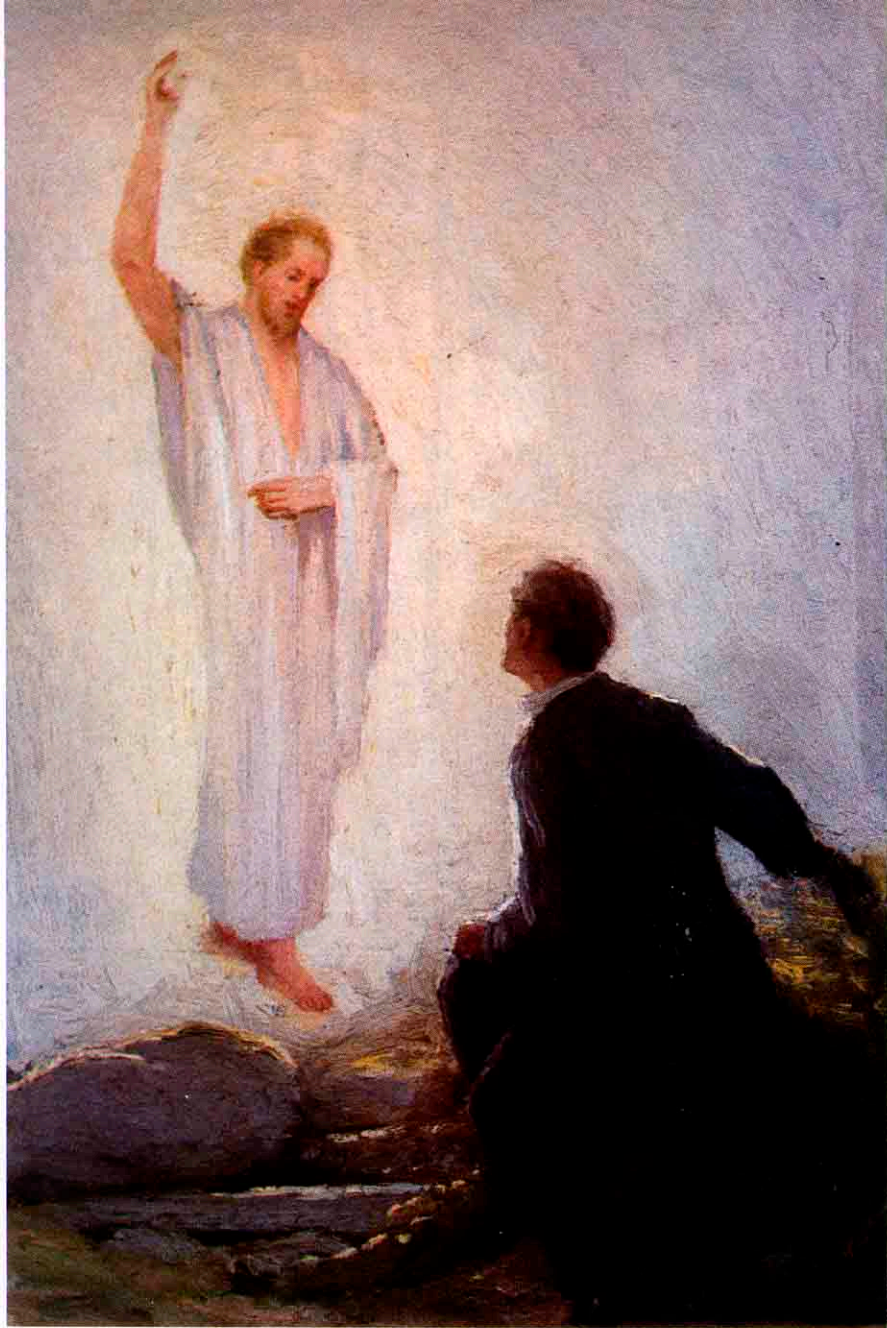
いさしめ
「誠命の書」。キリストの教会を管理する原則を記したこの書は、「教義と聖約」の先駆けとして1833年に初めて印刷された



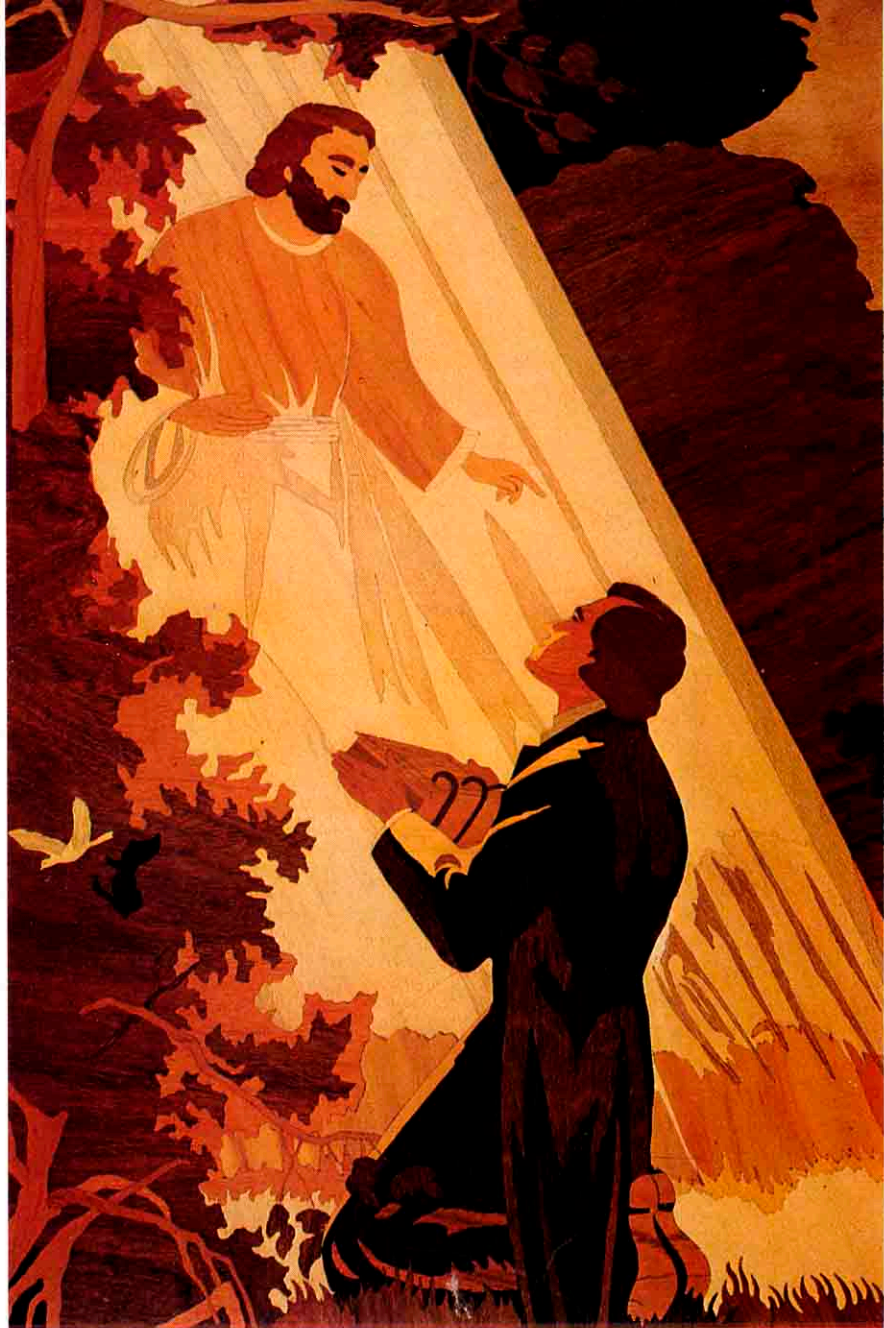
「カートランド安全協会」の銀行券。1837年、オハイオ州カートランドで末日聖徒によって実施された貨幣制度



今日の聖なる森



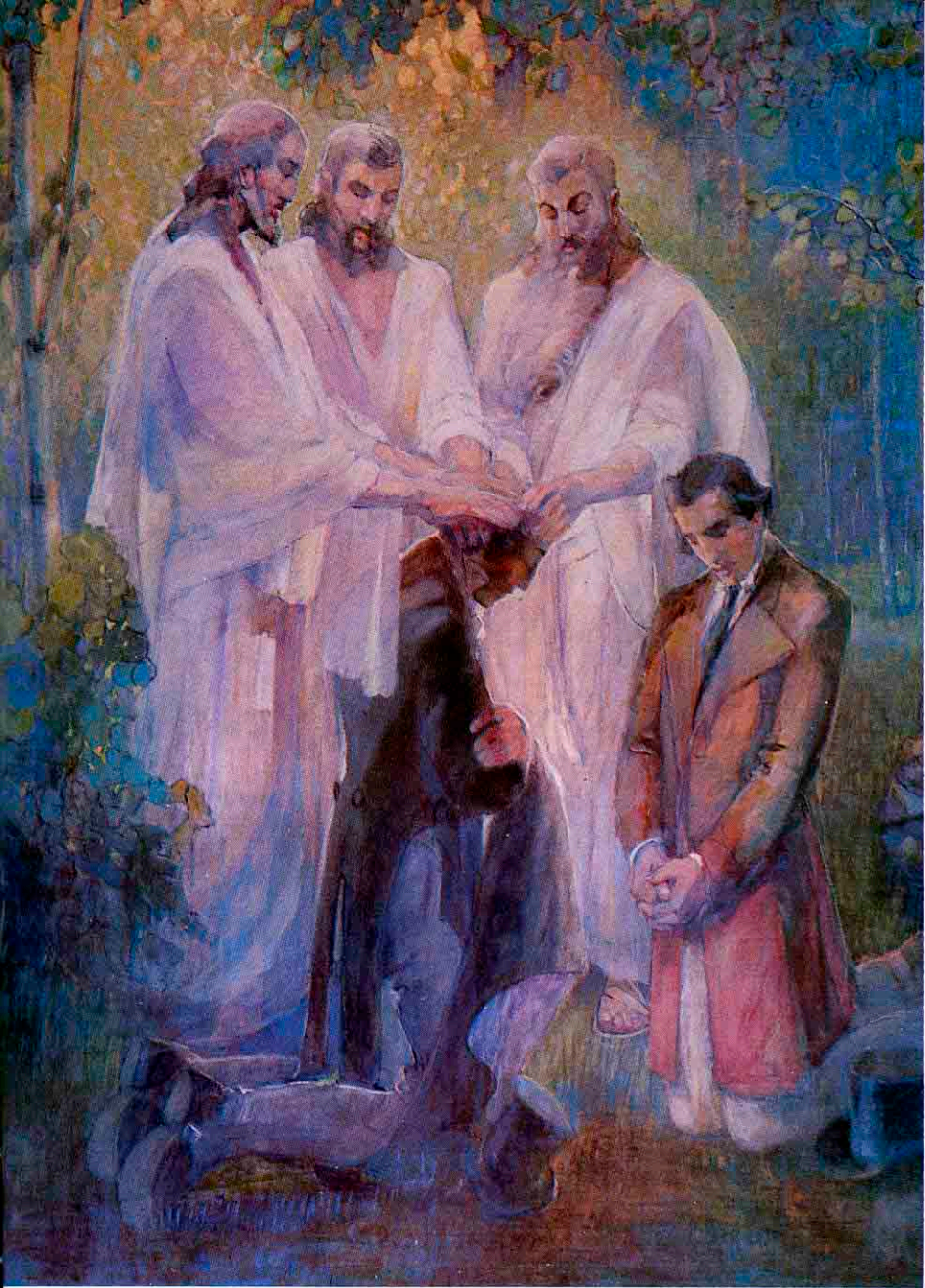
天使モロナイの訪れ（ジョン・ヘイフェン画）



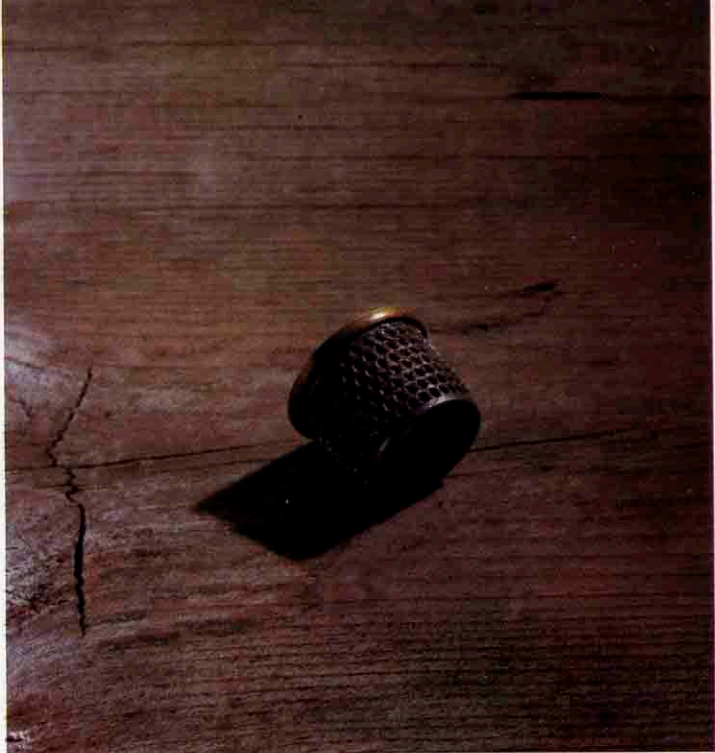
金版を受け取るジョセフ（マックス・レズラー，木彫芸術）



アロン神権の回復。1829年5月15日、サスケハナ河畔でバプテスマのヨハネによりジョセフ・スミスとオリヴァ・カウドリに授けられた（ジョセフ・スミス2：72, 73参照、トム・ロベイル画）



メルケゼデク神権の回復（ミネルバ・タイカート画）



シオンの陣営の行軍当時，ブリガム・ヤングが使用した指ぬき（1835年2月）



ノーヴー軍団でジョセフ・スミスが使用したピストル（1840—44年）



ヒーバー・C・キンボール作の陶器製のつぼ，あるいは水差し



イリノイ州，ノーヴーの「マ
ンション・ハウス」でジョ
セフとエマが使用したろう
そくたて



ジョセフ・スミスの胸像。
エクアドル人による木彫り，
1970年



ミシシッピ川からノーヴーを眺めた光景を描いた絵



1830年4月6日、ニューヨーク州フェイヤットのピーター・ホイットマーの小屋で、末日聖徒イエス・キリスト教会が組織された。設立者として以下の6名の名前が挙げられた。ジョセフ・スミス・ジュニア、オリヴァ・カウドリ、ハイラム・スミス、ピーター・ホイットマー・ジュニア、デビッド・ホイットマー、およびサミュエル・H・スミス。(ウィリアム・ウィッター画)



ミシシッピ川からノーヴー市を望む（ジョージ・アンダーソン撮影）

1848年

5月—6月、コロロギによる穀物の被害。
カモメが飛来してコロロギを襲い、大災害
を免れる。

1849年

ソルトレーク・シティでリチャード・バ
レンタインの日曜学校が始まり、教会の日
曜学校のはしりとなる。

3月5日、デゼルト暫定州が設立され、自
治体の呼びかけが行なわれる。

10月、貧しい人々がこの地に集まってくる
のを援助するために、総大会で「永代移住
基金」が設けられる。この制度は1887年ま
で続く。

1850—54年

スカンジナビア、フランス、イタリア、ス
イス、ハワイ、南太平洋、インド、マルタ、

ジブラルタル、ドイツ、南アフリカで伝道
が開始されるが、ほとんど数年後に中止さ
れる。ロレンゾ・スノーがイタリアで、エ
ラスタス・スノーがデンマークで、またジ
ョン・テイラーがフランスで伝道を開始す
る。

1851年

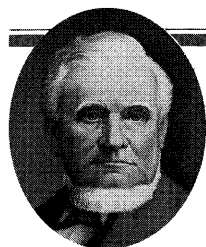
9月、3名の連邦政府任命の役人が、多妻
結婚と、準州の政治に及ぼす教会の悪影響
に抗議してユタを退去する。

1852年

8月28—29日、ソルトレーク・シティの
特別大会で、多妻結婚の教義が初めて正式
に発表される。

1853年

4月6日、ソルトレーク神殿のすみ石が据



ジョン・テイラー

「パウロはイエス・キリストについて語った時、私たちに、イエスはすべての造られたものに先立って生まれた御方であると教えている。なぜなら、イエスによって万物が造られ、すべてがイエスにつくものだからである。目に見えるものも見えないものも、位も主権も、支配も権威も、みなイエスによって造られた。これら一切のものはイエスのみ手によって造られ、イエスのために造られた。そうでないものはひとつとしてない。(コロサイ 1:13-19; ヘブル 1:1-3; ヨハネ 1:1-3; 教義と聖約 76:24 参照)

万物がイエスによって、イエスのために造られたのであれば、私たちのいるこの世界もイエスが御自身のために創造されたということになる。そうであれば、イエス・キリストこそ、この地球の正当な所有者であり、合法的な主権者、統治者である。……

イエスは、人間性をどのようにとらえ、どこに価値を置いたらよいかを御存じである。イエスはかつて今の私たちと同じ状態に置かれたため、欠点や弱点を克服する方法を御存じである。また、人がこの世で直面しなければならない苦難や試練の深さと大きさを十分に理解しておられる。このような理解と経験のあることから、イエスは父として、また長兄として人々に忍耐を示すことがおできになるのである。

私たちは、永遠の世にあってイエスと同じ栄光、昇栄、力、祝福を得ることを目指していると公言するからには、イエスが体験されたと同じ苦難を味わい、困難に耐え、闘い、克服することが必要である。そして、神と天使と人々の前に、高潔、真実、高德、純粋、謙遜などの諸徳を示す時に、イエスと同じように永遠の世における永遠の昇栄が約束されるのである。」(Journal of Discourses Digest「説教集要録」p. 182)

えられる。

1856年

6月9日、最初の手車隊がアイオワ州アイオワ・シティーを出発する。同じ年の暮、2隊の手車隊がいつもより早い寒波に見舞われ、大惨事を招く。手車隊による移住は1860年まで続く。

1857年

3月30日、以前ユタを退去したウィリアム・W・ドラモンド準州判事は、合衆国法務長官に書簡を送り、モルモンの指導者をいろいろな罪状で逮捕するように訴えた。

5月13日、十二使徒評議会会員のパーレー・P・プラット長老、アーカンソー州で伝道中に殺害される。

5月28日、ジェームズ・ブキャナン大統領の命令により、カンサス州フォート・レーベンワースに集結していた連邦軍がユタ準州に進軍してくる。ユタの住民が合衆国に反旗を翻したと考えたからである。これが、いわゆる「ユタ戦争」の始まりである。

7月24日、ブリガム・ヤング、アルバート・シドニー・ジョンストン將軍指揮下のアメリカ軍がユタに近づいているとの報告を受ける。教会指導者は何ら違法行為をしていないとの立場を堅持し、この上家を追われるような軍の侵略は断固阻止することを決定する。

9月15日、ブリガム・ヤングはユタに戒厳令を敷き、ソルトレーク盆地への軍隊の入来を禁止した。政府軍を攪乱、阻止するために武装民兵を各地に配備。外国伝道中の長老たちを召還し、遠隔地の聖徒に教会本

部に近い場所へ避難するよう指示を与える。

1858年

6月26日、ジョンストン將軍の軍隊は、モルモン教徒の引き延ばし作戦により冬季期間中止めにあった後、ソルトレーク盆地へ入る。

1860年

9月24日、最後の手車隊、ソルトレーク盆地に到着する。

1862年

7月8日、多妻結婚を重婚とみなし、犯罪とする一連の連邦法案が初めて議会を通過する。

1863年

3月10日、ブリガム・ヤング大管長、重婚罪で逮捕され、ジョン・F・キニー判事により保釈金2千ドルを科せられる。しかし実際には公判は行なわれなかった。

1867年

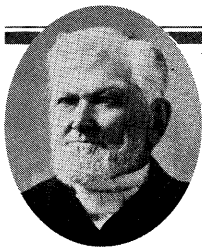
ソルトレーク・シティー、テンプルスクエアのタバナクルが完成。タバナクルにおける第1回大会が10月6日に開催される。

12月8日、ブリガム・ヤング、ユタ戦争中に解散されていた扶助協会を再びワード部で開くよう監督に要請する。

1869年

5月10日、大陸横断鉄道、ユタ準州プロモントリー・サミットで敷設完了。

11月28日、「若い婦人のリトレンチメント協



ウィルフォード・ウッドラフ

「イエス・キリストはユダヤ人のもとに来られ、永遠の福音を与えたもうた。ユダの部族に属する者のひとりとして、イエスは御自分の先祖の家で、彼らに生命と救いの計画を教えられた。それにもかかわらず、イエスほどユダヤ人から憎しみを買った人はいない。当時の大祭司、サドカイ人、宗教家たちは、この地上におけるイエスの最大の敵であった。イエスが何かを行なわれるたびに、彼らはそれは悪魔から来るものと言った。例えば、イエスが悪霊を追い出すと、悪霊の頭ベルゼブルによると言い、盲人の目を開くと、『神に栄光を帰するがよい。あの人が罪人であることは、わたしたちはわかっている』（ヨハネ9：24）と言った。この憎しみはついに主イエス・キリストを十字架に追いやり、死に至らしめた。ユダヤの住民は、自分たちがメシヤを殺しさえすれば、それでイエスのこの世での使命と働きは終わると考えた。何と浅はかな望みであろう。イエスは十字架に掛けられ、その霊が肉体を離れたその瞬間に、肉体を有していた時と同じ力、権威、栄光もろとも神の王国の鍵を受けたのである。そしてなきがらが墓に横たえられている間、ナザレのイエスは獄に捕われている霊のところにやって宣べ伝えられた。そしてそこでの使命が果たされると、イエスの霊は再びその体に戻った。ユダヤ人は、イエスが教えられた原則までも殺すことができたのだろうか。否、イエスは死の縄目を断ち切り、墓に打ち勝ち、栄光に満ちた不死不滅の体と永遠の生命を受け、肉体を有していた時と変わらぬ権能と鍵をすべて携えて出て来られたのである。数人の聖い婦人たちや使徒たちにそのみ姿を現わされた後、主はアメリカ大陸のニーファイ人のもとを訪れ、導きと恵みを施す業に従事された。さらに、イスラエルの十支族を訪れ、彼らにも福音を伝えられた。彼らが戻ってきた時に、ナザレのイエスが不死不滅の体で彼らに何を宣べ伝えられたか、その記録が明らかにされるであろう。十二使徒たちも同じような迫害を受けている。使徒たちの中には、体を引き裂かれた者もいれば、打ち首にされた者、はりつけにされた者もいる。しかし、使徒たちの教えた原則までもユダヤ人たちはこの世から抹殺できたのだろうか。神の王国の鍵を打ち砕くことができたのだろうか。できなかった。彼らには、これらのものを支配する力もなければ、ましてや神の御座や神御自身を滅ぼす力はないのである。」

(Discourses of Wilford Woodruff, G・ホーマー・ダラム編「ウィルフォード・ウッドラフ説教集」 pp. 26—27)

会」(後に「青年女子相互発達協会」と改名)がブリガム・ヤングにより組織される。



時満ちたる神権時代に最初に建設されたカートランド神殿。苦難の中にある聖徒の多大な犠牲の下に建設されたこの神殿は、1833年7月23日に定礎式が行なわれ、1836年3月27日に大いなる喜びと霊的な現われの中で、ジョセフ・スミスによって献堂された。1905年撮影

組織される。

10月16日、ブリガム・ヤング・アカデミー(後のブリガム・ヤング大学)がユタ準州プロボに創立される。

1877年

4月6日、セントジョージで開かれた第47回教会年次大会に関連してセントジョージ神殿が献堂される。ユタ準州内に完成した最初の神殿である。この神権時代になって初めて、死者の結び固めが行なわれるようになった。

4月―8月、ヤング大管長、ステーキ部、ワード部、定員会を再組織し、教会員のために神権者の役務や規範を明確化するように十二使徒会に指示する。

1870年

1月13日、議会で討議中の反モルモン教徒の法案に反対するソルトレーク・シティーの婦人大集会が開催される。このような集会によって、反モルモン教徒の主張と裏腹に、モルモン教徒の女性はユタ準州の教会管理機構と対立していないことが明らかになった。

2月12日、ユタ準州、合衆国の州や準州の中で最初に婦人参政権を認める。

1871年

10月2日、ブリガム・ヤング大管長、多妻結婚の罪で逮捕される。1872年4月25日まで様々な法的手続きがとられ、その間何度か大管長は自宅監禁される。結局、この1年半に及ぶユタでの司法手続きを覆す最高裁の判決が出て、この件は棄却される。

1872年

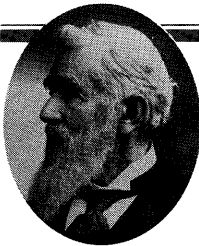
教会の指導者たちに対する訴訟問題があとを断たない。

1874年

5月7日、この日に始まった教会の総大会で、「協同制度」について話される。その結果、広範囲にわたる協同取引事業が発足する。

1875年

6月10日、「青年男子相互発達協会」がソルトレーク・シティー第13ワード部で初めて



ロレンゾ・スノー

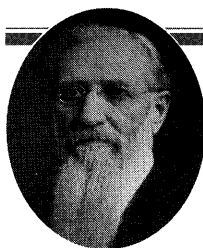
バプテスマを受けて2、3年後のある日のこと、勉強の最中にふと、私はこのみ業が真実であることの知識を得ておらず、「神のみこころを行なおうと思う者であれば、だれでも、わたしの語っているこの教えが……わかるであろう」という約束を実現していないことに心の不安を覚えた。私は本を傍らに置いて家を出ると、陰気な力とやるせない思いに圧倒されそうになりながら野原を歩いた。何とも言い表わし難い雲のような闇が私をとり巻いていた。私は一日の終わりに宿舎から少し離れた森へ行って、ひとりで祈るのが習慣であったが、この時はそうする気にはなれなかった。祈りの気持ちは去り、天は私の頭の上に閉じてしまったように思われた。しばらくして私はいつもの祈りの時間になっていることに気がついたが、夕べの祈りをやめようと思っていた。ただ形式的にいつもの場所に行き、いつものようにひざまずいた。やはりいつものような感動は覚えなかった。

私は祈ろうと努め、口を開いた。と、その時頭上に絹の衣のさらさらというような音を聞いた。そして神のみたまが私の上に降り、私は頭のとっぺんからつま先まで全身くまなく神のみたまに満たされた。何たる喜び、何たる幸福であったことだろう。いかなる言葉をもってしても、この濃い雲のような知的、霊的な暗闇から、光のような知識への変遷を言い表わし得ないであろう。この時私は知識を授けられたのである。私はこの時、神が生きておられ、イエス・キリストが神の御子であること、聖なる神権の回復、完全なる福音に関する完全な知識を得た。それは全く天の原則、天の力、聖霊の中に沈められるバプテスマであった。私はバプテスマの水に沈められた時よりもっとはっきりと肉体的に、体のあらゆる器官に力が及ぶを感じた。そして、歴史的に私たちに伝わっている『ベツレヘムの幼な子』が真に神の御子であるということ、また主が使徒の時代と同様、現在も人の子らに教えを明らかにし、知識を与えたもうということに対する疑いや恐れは、永遠に私の中から拭い去られたのである。私はまったき喜びを得た。自分が望んだ以上のものを得た。私はこのことを無限に言い続けることができると思う。

私は、私がこの至上の喜び、聖なる導きの中にどの位の間留まっていたかはわからないが、私を満たし、とり巻いていた天の要素が次第に退いて行くまで数分かった。私はひざまずいていた姿勢から身を起こした。私の胸は言い表わし得ぬ神への感謝で

はちきれんばかりであった。私は主が、全能なる者のみが授け得るものを私に授けたもうたことを知ったのである。それは世が与え得るいかなる富や名誉にも勝るものであった。その夜床についた時、私は再び同じ示現を見、その後幾晩か同じことが続いた。そのすばらしい栄光に満ちた示現は、その時から今日に至るまで、私の心にありありと残っており、思うたびに全身くまなく広がるみたまの力を感じる。そして私はこれから後も体でそれを感じ続けることができるに違いないと思っている。」(プレストン・ニブレー、*Presidents of the Church*「歴代大管長」pp. 139—40)

Lorenzo Snow



ジョセフ・F・スミス

「私は体中にあふれんばかりの確信を受けたことを証申し上げる。その確信は私の心の底までしみわたり、体のすみずみまで燃え立たせている。そこで、このように皆様の前に立ち、世の人々に証できる機会を心から感謝している。神は私に、イエスがキリストであり、生ける神の御子であり、世の贖い主であることを示して下さい。……私は今自分が生きていることを実感できると同じように、このことが真実であることを証申し上げる。これが地上における私の最後の言葉となるのであれば、父なる神のみ前に立って、私はこの証を知識として体得していることに感謝することだろう。……私はこれが神の王国であり、神がその統治者であることを知っている。神は御自分の民を管理しておられる。また、この教会の大管長たちを導いておられる。それは予言者ジョセフに始まり、世の終わりまで続くであろう。」(フォレイス・グリーン編、*Testimonies of Our Leaders*「我らの指導者の証」p. 47)

Joseph F. Smith

8月29日、ブリガム・ヤング大管長、ソルトレーク・シティの自宅で死去。

9月4日、ジョン・テイラーを会長とする十二使徒評議員会が正式に教会の長たる地位に就く。

1878年

8月25日、ユタ準州ファーミントンで、初めて初等協会の集会が開かれる。この運動は急速に広まり、1880年6月19日には全教会的組織が設けられる。

1879—1906年

伝道部が、メキシコ、トルコ、ソシエテ諸島、サモアに開設される。

1879年

1月6日、合衆国最高裁判所、1862年の「重婚禁止に関する法」によるジョージ・レイノルズの有罪判決を支持する。この法の合憲性が認められ、1880年代はモルモン教徒に対する迫害が一層厳しくなる。

1880年

4月6日、教会の50周年に当たり、この日に始まる総大会で特別記念式典が催される。10月10日、大管長会が組織され、第3代大管長にジョン・テイラー、副管長にジョージ・Q・キャノン、ジョセフ・F・スミスが支持される。

1882年

3月14日、重婚を禁じるエドマンズ法案が下院議会通过。数日後、合衆国大統領の承認を得る。多妻結婚は「不法な同棲」と

みなされ、違反者は公民権を剥奪されることになった。1884年、この法によって、迫害はいよいよ激しさを増す。

8月18日、エドマンズ法に則り、ユタ調査委員会がユタ準州を訪れる。大統領任命の5委員がユタ準州選挙を管理するようになる。さらに反多妻結婚法の遵守と、違反者の選挙資格剥奪を命じる。

1884年

5月17日、ローガン神殿が献堂される。

1885年

エドマンズ法によりユタおよびアイダホでの迫害が強まる。多妻結婚を行なう人々の投獄が相次ぎ、メキシコ、カナダ等へ逃れる人々もあった。

2月1日、ジョン・テイラー大管長、ソルトレーク・シティにおける公開説教を最後に身を隠す。

1887年

2月17—18日、エドマンズ タッカー法案、議会通过する。大統領の署名を待たずに法となる。

その厳しい条項の中には、教会の法人組織の解消、永代移住基金協会の解散および資産没収、婦人参政権の撤回、事実上の教会全財産の没収条件などが含まれていた。しかし、事務所や神殿ブロックの賃借は許された。

7月25日、ジョン・テイラー大管長、ユタ準州ケイズビルで死去。十二使徒会、1889年まで教会の指導権を執る。

7月30日、エドマンズ タッカー法に基づ
(57ページに続く)

じぶんのきろくをつけましよう

じぶんのことが のこせるように、きょうから こじんのきろくをつけましよう。

よげんしゃジョセフ・スミスは、わたしたちに きろくをつけるようにと おしえています。

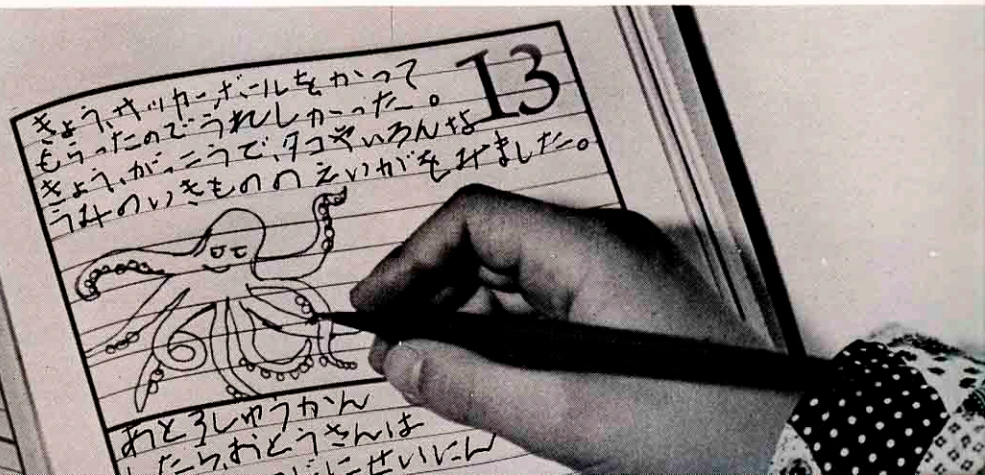
ウィルフォード・ウッドラフ^{だい}大かんちょうは、^{きょうかい}教会にはいったときから、きろくをつけていました。まい^{にち}日1じかんかけて、その^ひ日にあったことや、おもったことをきろくしたのです。

「まい^{にち}日あったことを きろくすることは、みなさんにとって、またみなさんの^こ子どもたちにとって ^{おお}大きなしゅくふくとなるでしょう。まい^{にち}日^{すこ}少しづつ ^{ちい}小さなノートに きろくをつけましよう。」ウッドラフ^{だい}大かんちょうは、こういっています。

とくべつなことだけをきろくするのではなく、その^ひ日にあったこと、したいこと、がっかりしたこともきろくします。そうすれば、あとですぐにおもいだすことができるでしょう。したのようにかくこともできます。

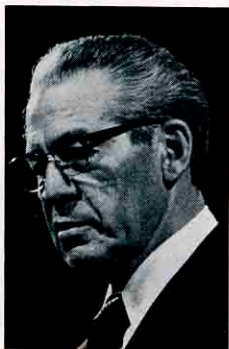
につきちょう、ノート、なんでもいいですから じぶんのきろくをつけましよう。

きろくをつけるときは、につきのように ただその^ひ日おこったことを書くだけでなく じぶんのきもちもそのまま^か書いておきましょう。あかしや、しんこうをつよめたできごと、バプテスマや そのほかの^{きょうかい}教会の^ぎしきをうけたことを きろくしておく、みなさんやみなさんの^こ子どもたちにとっても ^{たい}大へんやくに^た立ちます。





キリストの福音を



だいいちふくかんちやう
第一副管長

N・エルドン・タナー

私が、どのようにして末日聖徒イエス・キリスト教会の会員になったのかお話ししよう。

ふたりの宣教師が、福音をたずさえてニューヨーク州へ来たのは、1832年、教会が組織されて2年目のことです。当時、そこにジョン・タナーという人が住んでいました。彼は、宣教師が町に来て、夜学校で話をするということを目にすると、ぜひ、行ってみたいと思いました。

彼は片足が不自由でいつも車いすに乗っていましたが、積極的で信心深い人でした。彼は、息子に車いすを引かせて、会場に出かけました。そして、一番前にすわりました。

最初の宣教師が背教や福音の回復の必要性について話すのを、彼は熱心に聞いていました。別の宣教師の話にも耳を傾けました。

話が終わると、息子に頼んでふたりの宣教師を紹介してもらいました。

は じ 聡としない

そして、ふたりを家に招いて、朝まで
しほうきょう 宗教について話し合いました。

話が大体終わると、彼は言いました。
「体さえちゃんとしていたら、バプテ
スマを受けるのですが。」

「救い主ならば、あなたの体を治せ
ると思いますか。」

「はい、主のみこころであれば、お
できになるでしょう。」

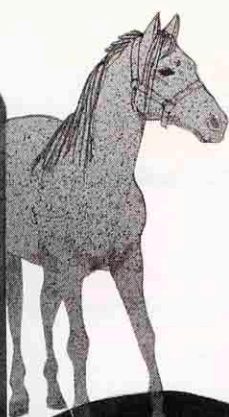
宣教師は、自分たちが長老であるこ
とを告げて、病んでいる人々は、長老
を呼んで祈ってもらいなさい、という
救い主の言葉を話しました。そして、
彼に癒しの儀式を施してほしいかどう
か尋ねました。彼はそれに同意して、
癒しの儀式を受けました。その日のう
ちに、彼は車いすから立って歩けるよ
うになりました。しかも、自分で歩い
て行ってバプテスマを受けたのでした。

世間は、彼を批難し、のけ者にした
ことでしょう。けれども、真理を聞いた
彼は、勇気を持ってそれを受け入れ

たのです。私は、福音をたずさえて来
たこのふたりの宣教師に感謝していま
す。また、ジョン・タナーの勇気に感
謝しています。

その後、彼の家族は信仰を堅く守っ
て生活しました。その信仰は、息子の
ナサン・タナー、孫のウィリアム・タ
ナー、そして私の父ナサン・ウィリア
ムにまで受け継がれてきました。今日、
私がこうしていられるのは、先祖のお
かげです。

現在、道を探して迷っている皆さん、
確かに福音が真実であると知った時に、
どうか、勇気を出してそれを受け入れ
て下さい。その決断は、一生を通じて
最高の決断となるでしょう。主は必ず
皆さんを祝福して下さることをお約束
します。



りっぱなジェyson

サンディ・L・ブレッドソー



ジェysonは、だんろのそばでねころんでしゅくだいをしていました。でもあたまの中はレイバーンさんのうじょうで、うりにだされている小馬のことでいっぱいです。「たった18ドルでかえるのにな……」けれど、18ドルは、ジェysonの^{いえ}家にとっては大金^{たいきん}でした。おとうさんは、せんそうに^い行っていないので、ジェysonが、うちをまもらなければなりません。

ジェysonは、ずっとまえから小馬^{こうま}をほしがっていました。でも、どうやって18ドルもの^{かね}お金を^て手にいれたらよいのでしょうか。ほかの男の子^{おとこ}はみな馬^{うま}

にのって^{がっこう}学校に行くのですが、ジェysonは、くらいうちにおきて、牛^{うし}のちしほりやにわとりにえさをやってから、^{ある}歩いて行くのでした。

ジェysonが、おかあさんに小馬^{こうま}のことをはなすと、おかあさんは、かなしそうにほほえんで、いいました。「ジェyson、ざんねんだけど、うちにはそんな^{かね}お金はないわ。今はおとうさん^{いま}もいないし、それにもうすぐ^{あか}赤ちゃんがうまれるのよ。……」

「そうだ、^{あか}赤ちゃんのことわすれてたよ。女の子^{おんな}だといいなあ。ぼく、いもうとがほしいんだ。」そういうジェysonのかおはにこにこしていました。そして、「ぼくが、もっといっしょうけんめいはたらいたら、ゆりかごをかえるかもしれないね」と、いいました。

「あなたがいてくれるので、ほんとうにたすかるわ。」おかあさんはジェysonをだきしめました。

その夜^{よる}、ジェysonはねむくなるまですっと小馬^{こうま}のことを^{かんが}考えていました。

つぎの朝^{あさ}、ジェysonは^{がっこう}学校へ行く^いとちゅう、店には^みあってあるこうこくを見^みつけました。「男の子^{おとこ}をもとむ。ごご

ゆうがた すいしや ぼ じ かん
か夕方。水車場にて。1時間10セント。」

「1時間10セント。たくさんのお金
になる。学校がおわったら行ってみよ
う。」

その日は、学校がおわるのがまちき
れませんでした。おわりのベルがなる
と、店にむかってかけて行きました。
けれど、少年たちが、長いれつをつく
ってまっているのをみると、ジェイソ
ンはがっかりしました。やっとジェイ
ソンのばんになりました。

「なんさいだね、ぼうや。」男の人が
たずねました。

「10才です。でも、3月で11才にな
ります。ぼくは、よくはたらきます。」

「きみは、ちょっと小さすぎるな。
らい年またおいで。」

ジェイソンは、じつとうごかずにい
いました。「おねがいです。おとうさん
がせんそうに行っていて、うちの中で
男の人は、ぼくだけなんです。いっし
ょうけんめいはたらきますから。」

「おとうさんがせんそうに行ってい
るのか。それじゃあ、きみにしごとを
やってもらうことにしよう。」

ジェイソンは、いそいでかえって、
そのことをおかあさんにはなしました。

「よかったわね。学校と家のしごとの
あいまにするのですから、お金は、じ
ぶんのものにしておきなさい。」

ジェイソンは、うれしくておかあさ
んにだきつきました。ジェイソンは、
小馬にのっているじぶんが見えるよう
な気がしました。

ジェイソンは、水車場でのしごとが
すきでした。でも、べんきょう中にい
ねむりするようになり、そのうえ、朝
おきるのがとてもつらくなりました。
そのうち、ジェイソンのお金はだんだ
んふえて、18ドルに近づいてきました。
おなじように、赤ちゃんがうまれてく
る日も近づいてきました。

つぎのきゅうりょう日にジェイソン
は、お金をかぞえてみました。ぜんぶ
で19ドル10セントありました。やっと
小馬がかえるのです。ジェイソンは、
小馬のことばかり考えていたので、に
わにとめてある馬車にぶつかりそうに
なりました。それは、フランク先生の
ものでした。「赤ちゃんがうまれたん
だ。」ジェイソンは、家の方へいそいで
走って行きました。とつぜん、ジェイ
ソンはかなしくなりました。「ゆりかご。
赤ちゃんのゆりかごがない。ぼくのせ
いじゃない。おかあさんは、ぼくがは
たらいたお金は、ぼくがすきなように
つかっていいっていった。でも、わが
ままかな……」入口のドアをゆっくり
あけて、そっと中をのぞいてみました。
おばあさんが、だいどころにいました。

「おばあちゃん、男の子それとも女の子。」

おばあさんはにっこりして、小さな声でいいました。「しーっ。おかあさんがねむっているから。こっちにきて、赤ちゃんをみてごらん。」

赤ちゃんはせんたくかごの中で、もうふにくるまっていました。「おばあちゃん、赤ちゃんてとっても小さいね。」

「おかあさんは赤ちゃんのなまえをジェニーにしたんだよ。ジェニーはおまが赤ちゃんのときとそっくりですよ。」

ジェイソンはかがんで、ジェニーの小さなゆびを見ました。「ぼくは、今、この家をまもらなくてははいけない。ジェニーのゆりかごがないのに小馬をかうことなんかできない。」ジェイソンは考えました。

「おばあちゃん、ぼく、ちょっとおもいだしたことがあるんだ。すぐにかえってくるから、おかあさんにそういつておいて。」

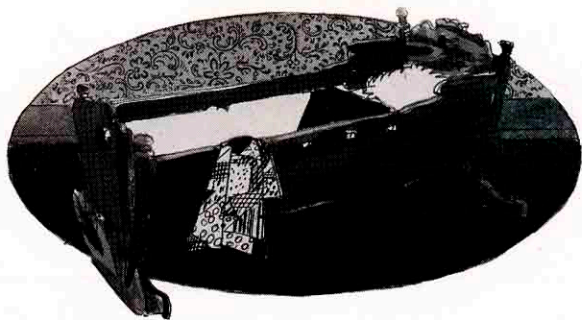
ジェイソンは外にでると、店までいちもくさんにかけていきました。店のしゅじんのライトさんは、木で細工するのがとくいでした。

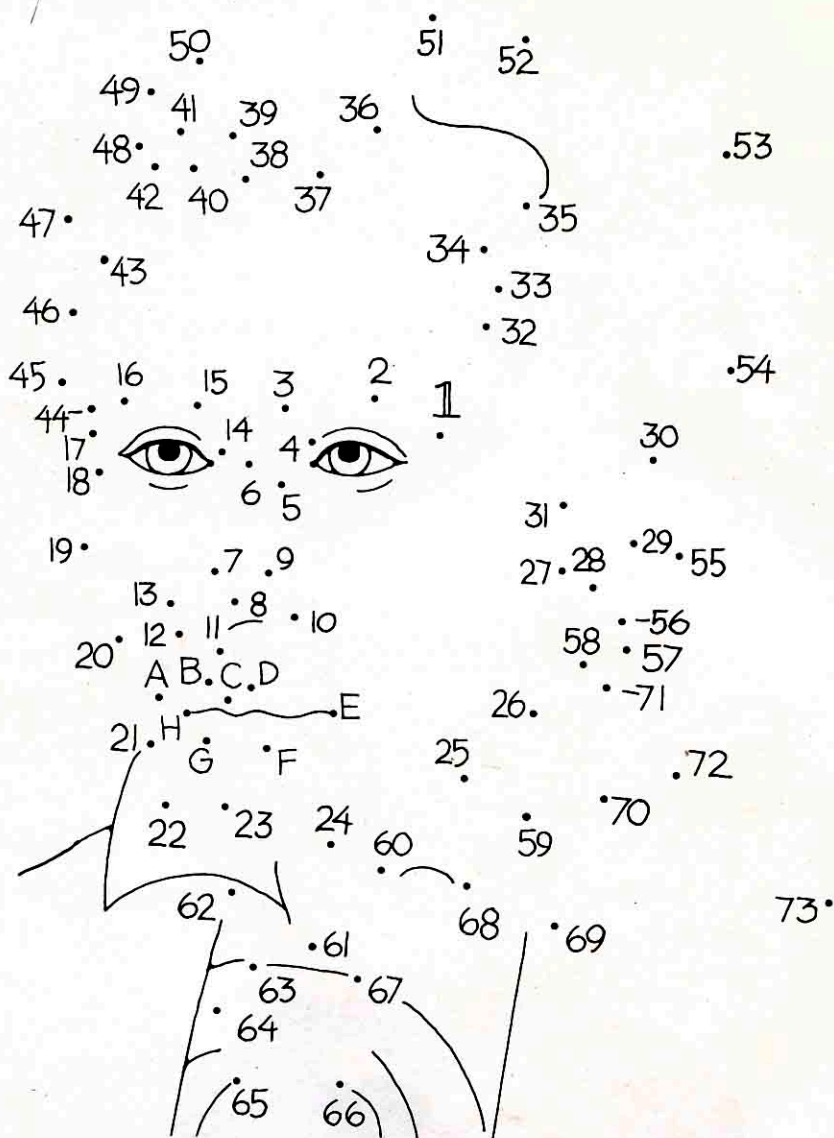
「ライトさん、ぼくにいもうとができたんです。いもうとのためにゆりかごがほしいんですけど……いくらですか。」

「きみは、よくはたらいっているから、9ドルで、とびきりすてきなのをつくってあげよう」と、ライトさんは、目をかがやかせながらいいました。

「ありがとうございます。」ジェイソンがかえろうとしたとき、ショーウィンドーの中に、赤ちゃんのようふくが見えました。「あのきれいなふくはいくらですか。ジェニーのためにかってやりたいんです。」

ジェイソンはげんきよく、口ぶえをふきながらうちにかえりました。おかあさんやジェニーのことを考えるだけで、ほんとうにしあわせになりました。





てんをむすんでみましょう。

てんからのおし 天からの教え

いま 今 から 174 年前の 12 月 23 日、バーモント州 シャロンの
小さな町に男の子が生まれました。男の子は、は
たらき者のお父さんの名前をとって、ジョセフと名づけ
られました。

ジョセフが 14 歳の時です。天父とイエス・キリストが、
ジョセフの前にすがたを現わされました。おふたりは、
目に見える人間の体を持っておられました。

その時からジョセフの人生は変わりました。ジョセフ
は、天からの教えによってすべてのことを学び、親友の
オリバー・カウドリといっしょに、神権を受けました。
こうして、再びイエス・キリストの教会が地上に建てら
れたのです。ジョセフはまた、神様の助けによって、「モ
ルモン経」をほんやくしました。

ジョセフは、救い主と同じように、迫害者の手によっ
て 30 代でこの世を去りました。

私たちが受けているたくさんのめぐみは、すべて、ジ
ョセフが天からの教えに従って教会を設立したことによ
ります。このことを覚えておきましょう。



オーバーのぼたんをはめると、エミリーは^{おいそ}大急ぎで^{おか}丘にかけ上がりま^{ひがし}した。東の空には^{そら}太陽が^{ないよう}のぼり、^{だいへい}大平^{げん}原は^{あか}明るく^{かがや}輝いています。

あのずっと東がイギリスかしら。生まれ育った家^{いえ}を^{あと}後に^{にし}して、^きいったい^しどの^しほど^し西へ^き来た^した^しの^しで^ししょう。

「エミリー、^{しゅっぱつ}出発^{どう}だぞ」お父^{ちち}さんの^{こゑ}呼^{こゑ}ぶ^{こゑ}声^{こゑ}が^しま^すす。

エミリーは、ゆっくりと丘を下りて、手車の長い列^{ながい}を^{まえ}前^{うしろ}の方^{うしろ}へ^{ある}歩^{ある}いて^い行^いき^まじ^ました。さあ、また新しい旅^{あたらしい}の^{たび}一^{いち}日^{にち}が^{はじ}始^{はじ}ま^りま^すす。

エミリーのお父^{ちち}さんは、車^{くるま}に^{むす}ほ^{むす}ろ^{むす}を^{むす}か^{むす}ぶ^{むす}せ、^いロー^いプ^いで^いし^いっ^いか^いり^いと^い結^いび^いつ^いけ^いると^い言^いい^いま^いし^いた^い。」「お前^{まえ}の^{あか}赤^{あか}い^{あか}オー^{あか}バー^{あか}は^{あか}便^{べん}利^りだ^りね。ど^とんな^とに^と遠^とく^とか^とら^とでも^とす^とぐ^とわ^とか^とる^とよ。」「でもエミリー、ひとり^{ひと}で^{ひと}あ^{ひと}ま^{ひと}り^{ひと}遠^とく^とへ^と行^いっ^いて^いは^いだ^いめ^いよ。ま^まい^ま子^こに^こな^こっ^こて^こし^こま^こう^こで^こし^こょう^こと^こ、お母^{かあ}さん^{かあ}が^い言^いい^いま^いし^いた^い。

「わたしがなぜ毎朝^{まいあさ}列^{れつ}の^{いちばん}一^{いち}番^{ばん}後^ごろ^ろに^い行^いっ^いて^い東^{ひがし}の方^{ほう}を^みる^みのか、お父^{ちち}さん^{ちち}と^とお母^{かあ}さん^{かあ}に^はま^まった^まく^くわ^わか^から^らない^いん^いだ^だわ。た^たぶ^ぶん、わ^わた^たし^しほ^ほど^どイ^いギ^いリ^いス^すの^い家^{いえ}が^こい^こし^しく^くない^いの^ので^でし^しょう^うね。」エミ^いリ^りー^りは^は思^{おも}い^{おも}ま^まし^した^た。

ドーチェスターにあるわらぶき屋根^{やね}の^{いえ}家^{いえ}や^{いえ}ライ^{らい}ラ^らック^くの^のし^しげ^げみ、^よ夜^よ明^あけ^けに^にさ^さえ^えず^ずる^るこ^こま^まど^どり^りを^を思^{おも}い^{おも}出^だす^すだ^だけ^けで、^{なみだ}エミ^いリ^りー^りは^は涙^{なみだ}が^があ^あふ^ふれ^れて^てき^きそ^そう^うで^でし^した^た。^{たいよう}太^{たい}陽^{よう}を^を背^せに、^{なが}長^{なが}い^{なが}手^て車^{くるま}の^{れつ}列^{れつ}は^{ぜんしん}前^{ぜん}進^{しん}し^して^てい^いき^きま^ます。「オー^あバー^あを^をぬ^ぬぎ^ぎな^なさい。だ^だん^だだ^だん^だあ^あつ^つく^くな^なっ^{かあ}て^てき^きま^ます^すよ。」お母^{かあ}さん^{かあ}の^{こゑ}声^{こゑ}に、エミ^いリ^りー^りは^はわ^われ^れに^に返^{かえ}り^りま^まし^した。そ^そし^そて、^{かあ}し^しか^かた^たな^なく^くお母^{かあ}さん^{かあ}の^い言^いう^うと^とお^おり^りに^にし^しま^まし^した^た。

アメリカ^{しゅっぱつ}に出^あ発^{はつ}する^あ朝^あ、お^おば^ああ^あさん^あが^がエミ^いリ^りー^りに^にこ^この^のオー^あバー^あを^をく^くれ^れた^たの^ので^です。目^めに^にい^いっ^{なみだ}ぱ^ぱい^い涙^{なみだ}を^をた^ため^めて、お^おば^ああ^あさん^あは^は言^いい^いま^まし^した、「な^しぜ^し宗^{しゅ}教^{きやう}の^ため^めに^にイ^いギ^いリ^りス^すを^を捨^すて^てな^なけ^けれ^れば^ばな^なら^らない^いの^ので^でし^しょう。も^もう^う2^に度^どと^と会^あえ^えな^ない^いと^と思^{おも}う^うと。」そ^そし^そて、エミ^いリ^りー^りの^て手^てを^と取^とっ^いて^い言^いい^いま^まし^した、「さ^さあ、こ^これ^れを^を持^もっ^して^てい^いら^らっ^わし^しや^やい。こ^これ^れは、私^{わたし}が^じ自^じ分^{ぶん}で^でつ^つむ^むい^いで^でそ^そめ^めた^たオー^あバー^あで^です^すよ。私^{わたし}や^い家^{いえ}の^こと^とを^をわ^わす^すれ^れな^ない^いよ^うに、い^いつ^つも^も放^{はな}さ^さな^ない^いで^でい^いて^てお^おく^くれ。」

毎^{まい}日^{にち}毎^{まい}日^{にち}が^がゆ^ゆっ^すく^くり^りと^と過^すぎ^ぎて^てい^いき^きま^ます。そ^その^のた^たび^びに、エミ^いリ^りー^りは^はお^おば^ああ^あさん^あや^やイ^いギ^いリ^りス^すか^から^ら遠^とざ^ざか^かっ^てい^いき^きま^ます。け^けれ^れど、一^{ひと}足^{あし}進^{しん}む^むご^ごと^とに^に手^て車^{くるま}隊^{たい}は、ま^まだ^だ見^みた^たこ^この^のな^ない^い「シ^しオ^おン」へ^へと^と近^{ちか}づ^づ

いていくのです。夜、キャンプの火を
かこ^{ひとびと}囲んで、人々は「シオン」のことを
はな話していました。だれも、エミリーの
ようにさみしがったりこわがったりし
ないのでしょうか。

旅は、日増しにきつくなってきました。
ある夜、キャンプファイヤー
を囲んで、エイムス隊長が話をしまし
た。「みんなも知っているように、道が
だんだんけわしくなってきた。そこで、荷を
にぐるま^{ふる}荷車も古くなってきた。そこで、荷を
かる^な軽くするために何かひとつ置いていく
ようにしてもらいたい。」

次の朝、たくさんの持ち物が道のわ
きにだ^{あか}出されました。「エミリー、その赤
いオーバーを置いていきなさい。」エミ
リーの胸はしめつけられるようでした。
「お父さん、お願い。これだけは持つ
ていかせて。みんなのめいわくになら
ないようにいつも自分で持っているか
ら。このオーバーは、おばあさんが作っ
てくれたんですもの。」すると、お母さ
んが言いました、「もうすぐ冬だし、持
っていった方がいいか
も知れないわ。持てな
い時はお母さんが手伝
ってあげましょう。」お
父さんは、しばらくふ
たりの顔を見ていまし
たが、エミリーの気持

ちがわかったようでした。「自分で持つ
というのなら持つていってもいいだろ
う。だが、手車に入れることはできな
いよ。隊長に従わなければならないか
らね。」

ある朝、エミリーはお父さんの後ろ
を歩いていました。見上げると、雪に
おおわれた山々が、西の地平線にそっ
と連なっています。数日後手車隊は山
を越えることになっていました。使い
古した手車は、一足進むごとにキーキ
ーと音をたてます。人々は、疲れ弱り
はてている体にむち打って前進し続け
ました。

午後になると、エミリーはもう一歩
も前に進むことができなくなりました。
オーバーは、いつもよりずっと重く感
じました。道のわきで少し休んでいこ
う、そう思っ^{おも}てエミリーは草の間にこ



しを下ろしました。手車隊は、列をなして山道をくねくねと進んでいきます。あおむけになると、雲がゆっくりと流れていきました。なんと気持ちがよいのでしょう。

とつぜん、エミリーは起き上がりました。あたりはまっ暗です。いつのまにかねむってしまったのです。みんなに追いつかなくちゃ、そう思っただけ出そうと思いましたが、何も見えません。「落ち着こう」エミリーは自分に言いかけると、祈り始めました。「天のお父様、無事に夜を過ごせますようお守り下さい。そして、あした両親がわたしを見つけてくれるよう助けて下さい。」

エミリーは、平安な思いに満たされました。暗やみもこわくありません。赤いオーバーを着ると、暖かさが心のなかまでしみてくるようでした。

イギリスでの思い出やおばあさんや古い家は、エミリーにとってとても大切なものにかわりはありません。けれど、今こうしてひとりしていると、新しい家のことをしきりに考えるようになりました。いつか、おばあさんも一緒に住めるかも知れません。

朝の光が空を照らし出すと、悲しみもさみしさも消えてしまったように思いました。エミリーは、いつものよう

に丘に登って朝日を見ました。

前は、家がこいしくて東の方ばかり見ていましたが、きょうは西の方を向いています。西、そこには、新しい家があるのです。

すると、遠くに人の姿が見えました。ひとりが手をふっています。「エミリーだ。あの赤いオーバーは確かにエミリーのだ。」お父さんの声です。

エミリーは、丘をかけ下りました。「お父さん、まいごになってごめんなさい。」涙がほおを伝いました。

「赤いオーバーがなかったら、おまえを見つめることができなかったかもしれない。みんな、赤いオーバーのおかげだよ。」

「ありがとう、お父さん。このオーバーはこれからもずっと大切なものだけれど、私、家はイギリスだけじゃないってわかったの。そして、愛は、このオーバーだけじゃないってわかったの。新しい家に行くの、待ちどおしいわ。」

「ひとばんのうちに、ずい分おとなになったね。」お父さんは、エミリーを強くだきしめました。

ふたりは、ならんで西の空を見上げました。



勇氣ある行ない

これは、予言者^{よげんしや}ジョセフ・スミスの命^{いのち}を救^{すく}った、デニス・ハリスとロバート・スコットというふたりの少年の物語です。

なかなか、りこうそうなふたりだな。

こんや、ジョセフ・スミスのことではなしをするからきなさい。



これは、じゅうだいなことだ。
ちよくせつ^{よげんしや}予言者に
はなしたほうがいい。



予言者^{よげんしや}は少年たちを家^{いえ}に入れ、
話^{はなし}を聞きました。

たいへんなことになったな。
すまないが、そこへ行って、
ようすをさぐってきてくれないか。



デニスとロバートは、
こころよく引き受けました。

ひとびと
人々は、にくしみで
にえたぎっていました。

ジョセフ・スミスは、
にせ言者だ。
おお、大うそつきだ！

ふたりは集会に出ては、そのよ
うすをジョセフ・スミスに知ら
せました。ついに、最後の集会
の日になりました。

ふたりとも、これでさいごだ。
なんのやくそくも
するんじゃないよ。

ぶきを持ったみはりが、
ふたりにいろいろ質問しました。

やつと家の中に入れてもらいましたが、そ
こには、ナイフや銃を持った人々がジョセ
フ・スミスを殺そうとしていました。

男たちはふたりに、ジョセフ・ス
ミスがにせ言者で
あることを信じさせ
ようとした。

ひとびと
人々はみな、ジ
ョセフ・スミスを
殺すことをちか
かって、ふたり
にもそうするよ
うに言いました。

ふたりは、そこからにげよう
としましたが、捕えられてし
まいました。

そして、
地下室に
連れて
行かれました



もう一度言う、
ちかいを立てろ。



とつぜん、人々の中から「やめろ」
とさけぶ声が出て、剣はそのまま止
まりました。



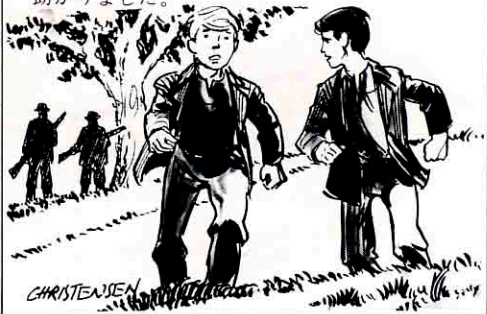
けれども、ふたりは、かたくこばみました。
剣がふたりの前にふり上げられました。



人々は、デニスとロバートがきずを
おって、問題が大きくなるのをおそ
れたのでした。男たちは、予言者を殺
す計画をだれかに話したら殺すぞと
言って、ふたりをおびやかしました。

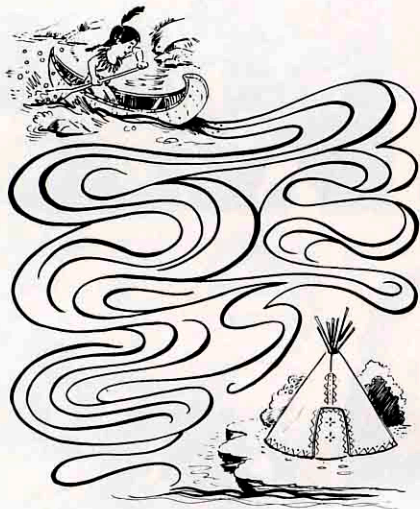


銃を持った見はりが、しばらくふたりの後を
ついてきました。もし、きょうのことを話せ
ば、ふたりは殺されてしまいます。けれども、
ふたりはやくそくどおり予言者に知らせまし
た。勇気あるふたりのおかげで予言者の命は
助かりました。





おもちゃばこ



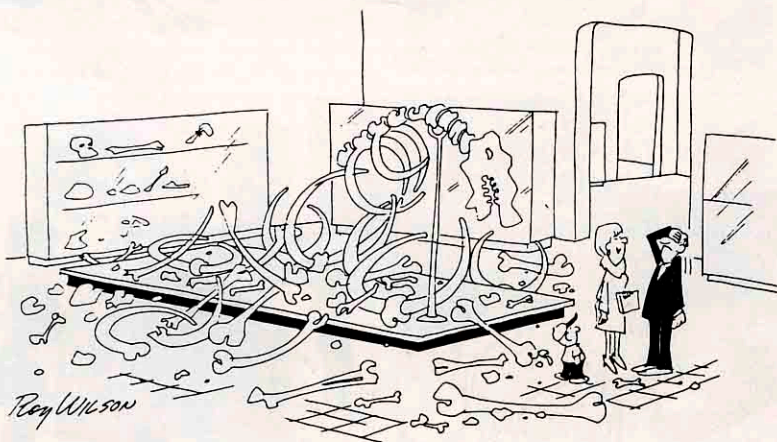
おうちにかえりたいよ

インディアンのおとこの子が、うちにかえるにはどのながれをいけばよいでしょう。

あてはめましょう

1から10のことばのいみと、もっともちかいものをアからコの中からえらんでください。

1. バプテスマ ()
 2. じゅうぶんのいち ()
 3. したがう ()
 4. いましめ ()
 5. いのり ()
 6. ゆるし ()
 7. せんきょうし ()
 8. かんどく ()
 9. せいさん ()
 10. だんじき ()
- ア. 天のお父さまとはなすこと
 イ. そのときだけは、なにもたべないこと
 ウ. いただいたものから10分の1を神様にさげること
 エ. ワード部のお父さん
 オ. 末日聖徒イエス・キリスト教会にはいるためにうける儀式
 カ. いやなことをゆるしてわすれること
 キ. いわれたことをおこなうこと
 ク. イエス・キリストの福音をおしえる人
 ケ. わたしたちの主、イエス・キリストをきねんするパンと水
 コ. 天のお父さまが、わたしたちにおあたえになったきまり



うちのむすこは、ほんとうにいたずらで…

いて教会に対する告訴が相次ぎ、永代移住基金協会は解散し、その資産は国庫に没収される。

1888年

5月21日、マントイ神殿が献堂される。

1889年

4月6日、扶助協会第1回中央大会がジャーナ・D・H・ヤング会長管理の下に、ソルトレーク・シティーのアセンブリーホールで開催される。

4月7日、大管長会が組織される。第4代大管長としてウィルフォード・ウッドラフ、副管長としてジョージ・Q・キャノン、ジョセフ・F・スミスが支持される。

1890年

9月24日、ウィルフォード・ウッドラフ大管長、「公式の宣言」を発表する。前年には教会は新たな多妻結婚をまったく認めなかったこと、また前年には多妻結婚を唱道しなかったことを告げると共に、国の法律に従い、法律で禁じられた結婚は止めるよう教会員に忠告する旨を宣言する。

10月6日、この「公式の宣言」は教会総大会で全会一致で採択される。

1893年

1月4日、合衆国大統領ベンジャミン・ハリソンは、1890年11月1日以前に多妻結婚を行っていた人々全員に特赦を与えた。ユタ委員会は直ちに準州における選挙権回復の決定を下す。

4月6日、ソルトレーク神殿、ウィルフォ

ード・ウッドラフ大管長により献堂される。

10月25日、合衆国大統領グローバー・クリーブランドは、教会所有の財産返還の決定を議会に提出する。それから3年後の1896年3月28日、不動産返還の覚書きが議会通过し、大統領の承認を得る。

1894年

8月27日、グローバー・クリーブランド大統領は「重婚禁止に関する法」により公民権を剥奪された人々に対して特赦と市民権の回復を宣言する。

1896年

1月4日、グローバー・クリーブランド大統領、ユタ準州を合衆国の州に昇格する宣言書に署名する。

1898年

9月2日、ウィルフォード・ウッドラフ大管長、カリフォルニア州サンフランシスコで死去する。91歳。

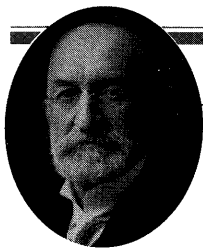
9月13日、ロレンゾ・スノー、第5代大管長となる。ジョージ・Q・キャノン、ジョセフ・F・スミスが副管長に選ばれる。

1899年

5月8日、ロレンゾ・スノー大管長、ユタ州セントジョージで開かれた大会で、「すべての末日聖徒が……主のみこころを行ない、什分の一を完全に納めるべき時が来た」と宣言する。

1901年

8月12日、ヒーバー・J・グラント長老、



ヒーバー・J・グラント

「私は神が生きておられることを知っている。イエスはキリストであり、ジョセフ・スミスは神の予言者である。福音の樹木は生きてすくすくと伸び、よき実をたくさんつけている。私は手を伸ばして福音の果実を手にした。そして味わったところ、非常に甘く、その甘さはこれまで味わったどの果実よりも勝っていた。この靈感は、この福音の力を知っているすべての末日聖徒にもたらされるものである。これが生命と救いの計画である。神は生きておられ、イエスはキリストである。イエスはこの偉大なみ業における隅のかしら石である。このみ業を導いておられるのはイエスであり、イエスはこれからもそうされるであろう。」(*Testimonies of Our Leaders*「我らの指導者の証」 p. 50)

Heber J. Grant

日本の地を奉献し、伝道を開始する。その後2年間に、十二使徒会のフランシス・M・ライマン長老はアフリカ、パレスチナ、ギリシャ、イタリア、フランス、ロシア、フィンランド、ポーランドの地を奉献する。

10月10日、ロレンゾ・スノー大管長、ソルトレーク・シティーのビーハイブハウスで死去。

10月17日、ジョセフ・F・スミス、第6代大管長に聖任される。副管長としてジョン・R・ワインダー、アンソン・H・ランドが召される。

1904年—1907年

十二使徒のリード・スムート長老が合衆国

上院議員の席に就くのを許可するか否かに関する2年半に及ぶ合衆国上院の調査が世間の注目を集める。ジョセフ・F・スミス大管長を含む教会幹部の多数が上院委員会で証言する。

1912年

ソルトレーク・シティーのグラナイト高等学校でセミナリーが発足する。末日聖徒の青少年にとって大切な週日の教育プログラムが始まる。

11月8日、大管長会のデビッド・O・マッケイ長老を委員長とする相互調整委員会が設置される。この委員会は教会補助組織プログラムの不必要な重複を避け、スケジュ

ールの調整を図るために設けられた。

1914年

1月, 扶助協会, 4つの一般テーマに基づいて初めてテキストを製作する。

1916年

6月30日, 大管長および十二使徒会, イエスに適用される「父」の称号の用い方を明確にした教義の解説を発表する。

1917年

10月2日, イースト・サウス・テンブル通り47番地に, 教会管理本部ビルが完成する。

1918年

10月3日, ジョセフ・F・スミス大管長, キリストの贖罪の意味について深く考えて

いた時, 死者の救いと救い主が死後霊界を訪れたもうたことについての示現を受ける。

11月19日, ジョセフ・F・スミス大管長, 80歳の誕生日の6日後に死去。当時インフルエンザが流行していたため, 公開の葬儀は行なわれなかった。

11月23日, ヒーバー・J・グラント, ソルトレーク神殿の十二使徒会の集会で大管長に支持され, 任命される。アンソン・H・ランド, チャールズ・W・ペンローズが副管長に選ばれる。

1919年

11月27日, ヒーバー・J・グラント大管長, ハワイのライエに合衆国本土外で初めての神殿を献堂する。1915年6月に用地が奉獻された後間もなく着工されていたものである。



インデペンデンスの神殿用地 (B・H・ロバーツ撮影)

1920—1821年

十二使徒会のデビッド・O・マッケイ長老
とリバティー・ステーキ部のヒュー・J・
キャノン部長、大管長会の要請により教会
伝道部の調査のために55,896マイル（およ
そ9万キロ）の旅行をする。太平洋諸島、
ニュージーランド、オーストラリア、アジ
アの聖徒を歴訪し、次いでインド、エジプ
ト、パレスチナを訪れ、ヨーロッパの各伝
道部を訪問する。

1923年

1月21日、西海岸初のステーキ部として、
ロサンゼルス・ステーキ部が設立される。
8月26日、ヒーバー・J・グラント大管長、
アルバータ神殿を献堂する。

1925年

12月6日メルビン・J・バラード長老、南

アメリカに伝道部を開設し、アルゼンチン
のブエノスアイレスに本部を置く。アメリ
カにおける正式な伝道活動の始まりとなる。

1926年

アイダホ州モスコで、最初のインステイ
テュートが開かれる。

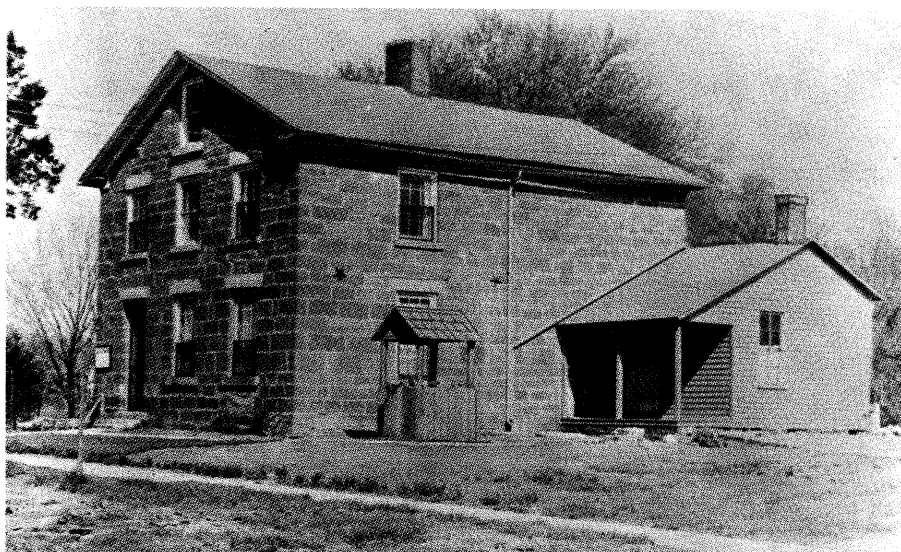
1927年

10月23日、ヒーバー・J・グラント大管長、
アリゾナ州メサでアリゾナ神殿を献堂する。

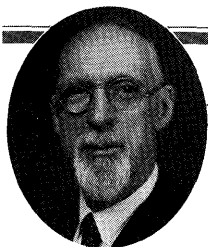
1930年

教会はB・H・ロバーツの不朽の大作「教
会概史」全6巻を出版する。

4月6日、ソルトレーク・シティ、タバ
ナクルにおける総大会で教会設立100周年
記念が祝われる。



1844年6月22日、予言者ジョセフ・スミスとその兄ハイラムが怒れる暴徒のために殉教したイリ
ノイ州カーセージの牢獄。予言者ジョセフは銃弾を受け、牢獄の2階の窓から落ちた



ジョージ・アルバート・スミス

「私はこれまでもそうであったが、今もなお自己を高め、鼓舞し、自分自身の力ではなく、世の贖い主が宣言された栄えある真理を教える力をたまわっている。私は主のみ顔を拝したことはないが、主のみたまの導きを受け、間違いなく主の存在を感じてきた。私は贖い主が生きておられること、また主は、主の教えを広めるという私の地道な努力に喜んで応えて下さることを知っている。人の教えが、永遠の父なる神から啓示された真理に取って代わることは決してない。この地上に住む人々が福音を受け入れ、その教えに従って生活を築かない限り、個人の幸福も世界平和も永遠に続くことはないであろう。福音は、信じてそれを行なう者に救いを得させる神の力である。また、時の初めから終わりまですべてを知っておられる愛の深い御父の思いやりある勧告の言葉である。主はこう言われる。『これは道である。この道を歩め。されば永遠の生命と永遠の進歩、永遠の幸福を手にすることができるであろう。』主が生きておられ、いつの日かすべての人がそれを悟ることを思うと、私の全身は震える。

救い主は私たちが生きるために死なれた。そして、死と墓に打ち勝ち、主の教えに従うすべての人に栄えある復活の望みを抱かせて下さったのである。」(Testimonies of Our Leaders「我らの指導者の証」p. 53)

1934年

12月9日、ニューヨーク・ステーク部が設立される。ノーヴー脱出以来、ミシシッピ川以東における最初のステーク部となり、またモルモニズム発祥の州での最初のステーク部となる。

1936年

4月、貧しい教会員や困っている失業者の必要を満たす福祉プログラムが正式に発表される。

4月、ステーク部伝道部の管理が七十人最高評議員会に託され、その後全ステーク部にステーク部伝道部が組織される。

1939年

11月6日、戦争勃発に伴うヨーロッパから宣教師の引き揚げが完了する。南アフリカ、太平洋諸島に留の宣教師は1940年に帰国する。



デビッド・O・マッケイ

「あらゆる理想の中で最高のものは、ナザレのイエスの教えであり、その生涯である。また、本当の意味で最も優れた人物は、最もキリストに近い人物である。

心の中で真剣にキリストについて考えることによって、自分になれるべき人物、取るべき行ないが決まってくる。キリストの聖なる属性を学び、その教えを受け入れた人であれば、必ずやその中に自分を高め、磨いてくれる力を認めるはずである。事実、すべての人は、人類に及ぼし得るこの最も大いなる力を行使できるのである。」(クレア・ミドルミス編、*Cherished Experiences from the Writings of President David O. McKay*「懐しい経験：デビッド・O・マッケイ大管長の著作より」p. 24)

David O. McKay

1941年

4月6日、大管長会、総大会で十二使徒会補助の役職を新たに発表する。同時に初の十二使徒会補助が召され、支持される。

1943年

3月7日、ナヴァホ・スーニー伝道部が開設される。インディアンを対象とした20世紀で初めての伝道部である。

1944年

5月、教会歴史の中でアダム・オンダイ・アーマンと称されるミズーリの土地を教会が購入したことが発表される。
11月、これまで約8万人の教会員がそれぞ

れ自国の軍隊に入隊する。

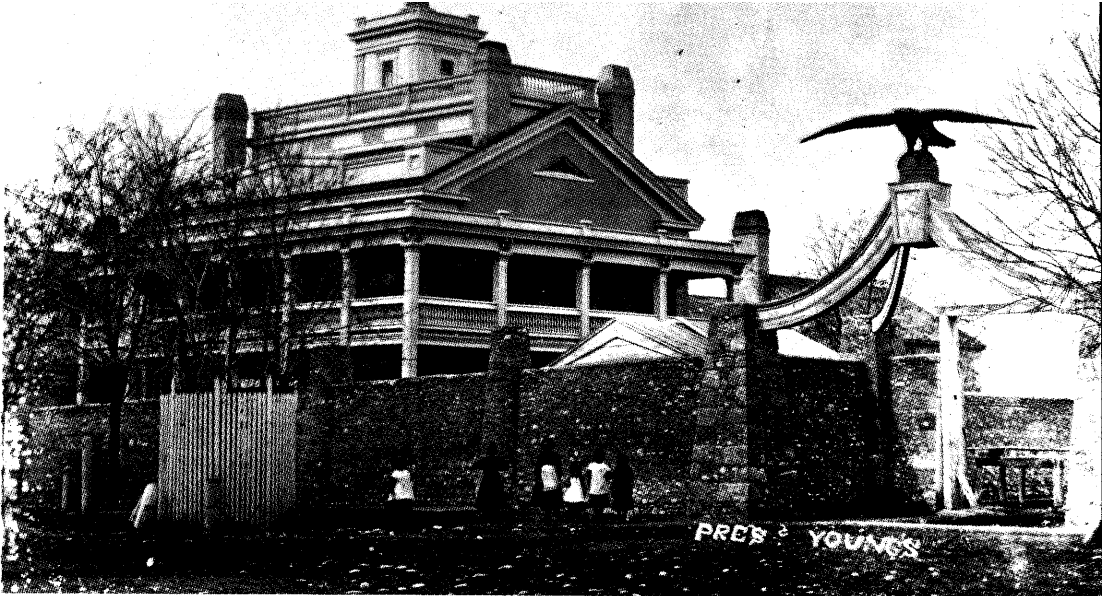
1945年

5月14日、ヒーバー・J・グラント大管長が死去する。

5月21日、ジョージ・アルバート・スミス大管長に支持される。副管長としてJ・ルーベン・クラーク・ジュニア、デビッド・O・マッケイが選ばれる。

9月、大管長会、戦争中に閉鎖した地域へ再び伝道部長を召す。これは1946年まで続けられ、伝道部長の任命がすむと直ちに宣教師が派遣される。

9月23日、アイダホ・フォールズ神殿が献堂される。



ブリガム・ヤング大管長とその家族が住んだソルトレーク・シティーのビーハイブハウス

1946年

1月、教会はヨーロッパの聖徒に食糧や衣服を供給する。その後数年間にわたってこの援助が続けられる。

2月、エズラ・タフト・ベンソン長老は戦争で身寄りを失った聖徒を見舞い、教会の援助物資を分け与え、教会支部の建て直しを図り、ヨーロッパの教会員の物心両面にわたる必要を満たすよう力を注ぐ。

1947年

1月、大管長会は太平洋伝道部の部長としてマシュー・カウリー長老を任命し、その中に含まれる7つの伝道部の管理を託す。
7月24日、ブリガム・ヤングのソルトレーク盆地到着100年祭を祝う。

12月、ヨーロッパの困窮者を救援するために断食日が定められる。集まった21万ドルを政府機関に委託。そのほかにも教会独自でヨーロッパの聖徒に援助物資を送り続け

る。1947年末までに、貨車90台分以上の食糧をヨーロッパへ輸送する。

1949年

4月5日、福祉プログラムを教会の恒久的プログラムにすることが発表される。

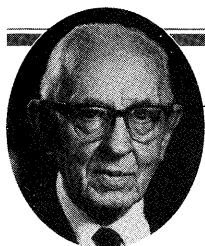
7月10日、中国伝道部が組織され、香港に伝道本部が置かれる。

1951年

4月4日、ジョージ・アルバート・スミス大管長が死去する。

4月9日、デビッド・O・マッケイ、第9代大管長に支持される。副管長として、スチーブン・L・リチャーズ、J・ルーベン・クラーク・ジュニアが選ばれる。

7月20日、朝鮮戦争により、宣教師に召される若い長老の数が減少したため、大管長会は七十人を召す。その結果多数の既婚男性が専任宣教師となって働くようになる。



ジョセフ・フィールディング・スミス

「私はヨブのようにこう言うことができる。『わたしは知る、わたしをあがなう者は生きておられる、末の日に彼は必ず地の上に立たれる。』（欽定訳ヨブ19：25より和訳）私は知っている。主は人々を罪から贖うためにこの世においてになった。そして主の贖いによって、すべての人が死から贖われるのである。復活の後、すべての人はおのおのその身にてなしたる行ないに従い、善を行なった者は昇栄を、悪を行なった者は滅びを受ける。私は知っている。心から悔い改めて福音を受け入れた者もまた、キリストの血によって贖われる。なぜなら主は次のように言われているからである。

『すべての者に代りてこの苦しみをわが身に受けたり。されど、人もし悔い改めずば誠にわれと同じ苦しみを受けざるべからず。』（教義と聖約19：16—17）主と言えども、悔い改めない罪人の罪をその血で清めることはなされない。また、責任のとれる年齢に達しない幼な子も、罪ありとされないので、キリストの血によって贖われる。したがって、神の正義と憐みを否定する幼児のバプテスマの必要を唱えることは、はなはだしく神を嘲弄することである（モロナイ8：9参照）。私は、ナザレのイエスが肉における神の独り子であり、御自身の中に生命^{いのち}を持ちたもう御方であることを知っている。この喜ばしい真理のゆえに、主が私たちを死と墓から、さらに悔い改めによって個人的な罪からも贖うことが可能になったのである。人は悔い改めて福音を受け入れ、罪の赦しを得るために水に沈められるバプテスマを受け、権能ある者から按手礼を受けて聖霊を授からなければ、神の王国に入ることはできないことを、私は知っている。」

（*Testimonies of Our Leaders* 「我らの指導者の証」 p. 165）

Joseph Fielding Smith



ハイラム・スミスが使用した時計



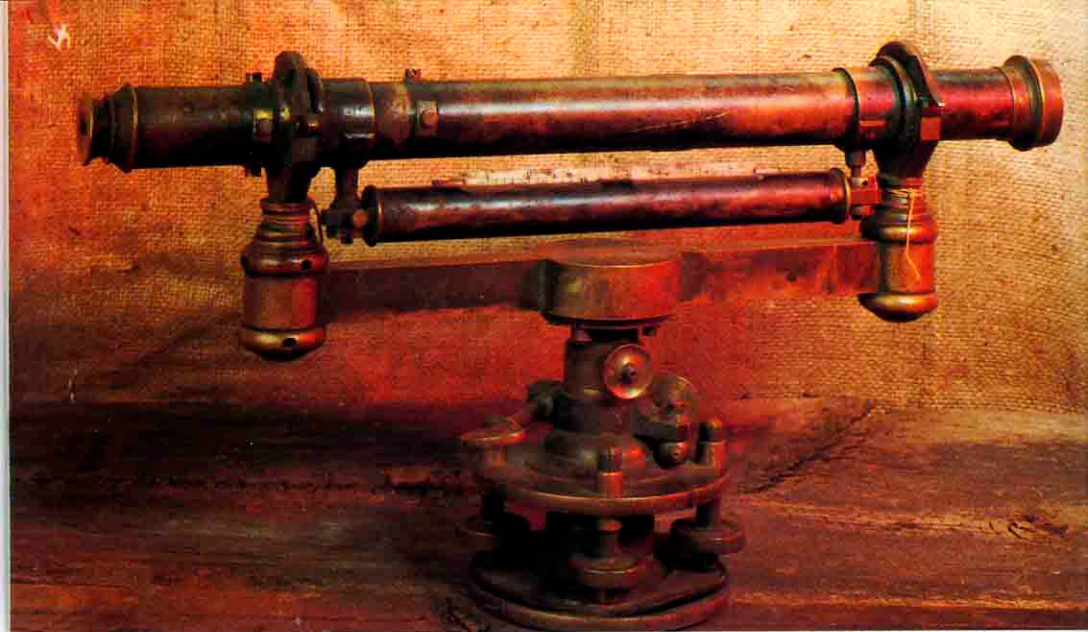
ウインタークォーターズ
(C・C・A・クリスチャンセン画)



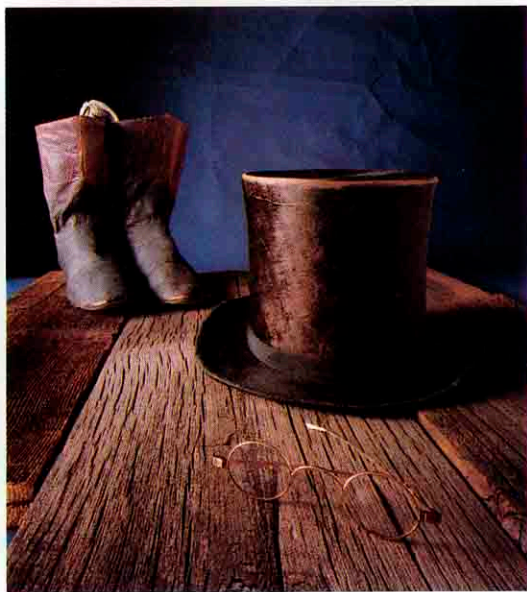
ジョセフ（左）とハイラムのデスマスク

メイソヘッド近くのブレイトンのサムセツト通り





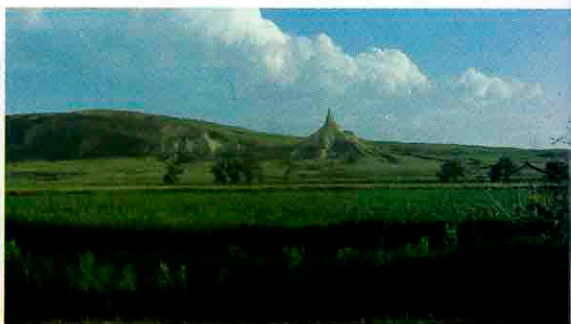
ソルトレークの峡谷の調査に使用されたトランシット（測量用転鏡儀）



ブリガム・ヤング大管長の帽子と長靴、メガネ



リベカウインターズの墓。(ブルース・エルム撮影)



ネブラスカ州チムニーロック (ブルース・エルム撮影)



ワイオミング州ガーンズィの近くにある幌馬車のわだち (ブルース・エルム撮影)



今日の移住者峡谷（ブルース・エルム撮影）



ウイリーの入江（ブルース・エルム撮影）



ソルトレーク・シティー、ビーハイブハウスにあるブリガム・ヤングの寝室。この部屋にあるすべての調度品は、ヤング大管長によって使用されたものである。(1856—1877年)



1901年、日本で伝道したヒーバー・J・グラントが持ち返った日本のアルバム



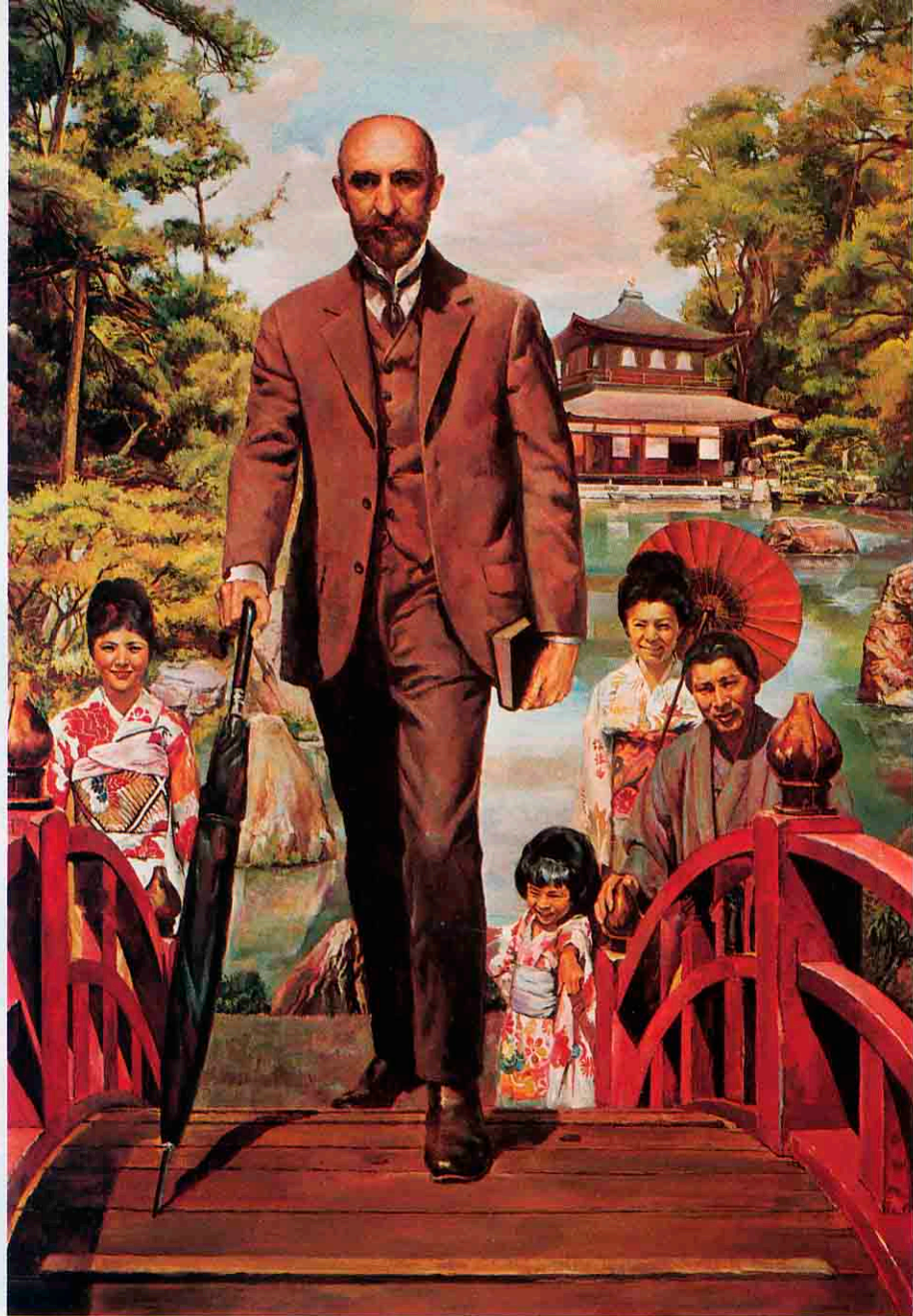
ヒーバー・C・キンボール所有の望遠鏡 (1846—1855)



ノーヴー神殿から運び出された使徒の長椅子



ブリガム・ヤング大管長が使用した道具箱



1901年、日本での伝道を開始するヒーバー・J・グラント長老（デイル・キルバーン画）

1952年

宣教師のために「福音を教えるための系統的なプログラム」が刊行される。これにより、全教会的に伝道の標準計画が定められる。

6月、デビッド・O・マッケイ大管長、オランダ、デンマーク、スウェーデン、ノルウェー、フィンランド、ドイツ、スイス、ウェールズ、スコットランド、フランスなどのヨーロッパの支部、伝道部を1カ月半にわたって歴訪する。途中、スイスのベルンでヨーロッパ最初の神殿建設用地を選ぶ。11月25日、十二使徒評議員会会員エズラ・タフト・ベンソン長老、合衆国新大統領ドワイト・D・アイゼンハワーにより農務長官に任命される。ベンソン長老は8年間その職に従事する。

1954年

1月2日、デビッド・O・マッケイ大管長、ロンドン、南アフリカ、中南米訪問の旅に出る。2月中旬に帰国。当時教会にあった全伝道部の公式訪問を完了する。

1955年

1月—2月、デビッド・O・マッケイ大管

長、南太平洋の伝道部へ歴史的訪問を行なう。約7万2,500キロに及ぶ旅行をし、ニュージーランド神殿用地を選び、ハワイにチャーチカレッジを建設する計画を検討する。

8月—9月、タバナクル合唱団、ヨーロッパ公演旅行を行なう。

9月11日、ベルン近郊のスイス神殿が献堂される。

1956年

3月11日、デビッド・O・マッケイ大管長、カリフォルニア州でロサンゼルス神殿を献堂する。

10月3日、ソルトレーク・シティの扶助協会ビルが献納される。

12月、神権指導者訓練プログラムが始められる。四半期ステーク部神権会、同じく四半期指導者会、そのほかステーク部大会に関連したいろいろな指導者会が紹介される。

1958年

4月20日、デビッド・O・マッケイ大管長、ニュージーランド神殿を献堂する。

9月7日、デビッド・O・マッケイ大管長、ロンドン神殿を献堂する。

1960年

1月、教会はヨーロッパにおける大規模な建築プログラムの計画に着手する。1961年初頭までに、北米以外の教会が存在する世界各地に建築本部が置かれ、地域毎に建築宣教師プログラムが実施される。

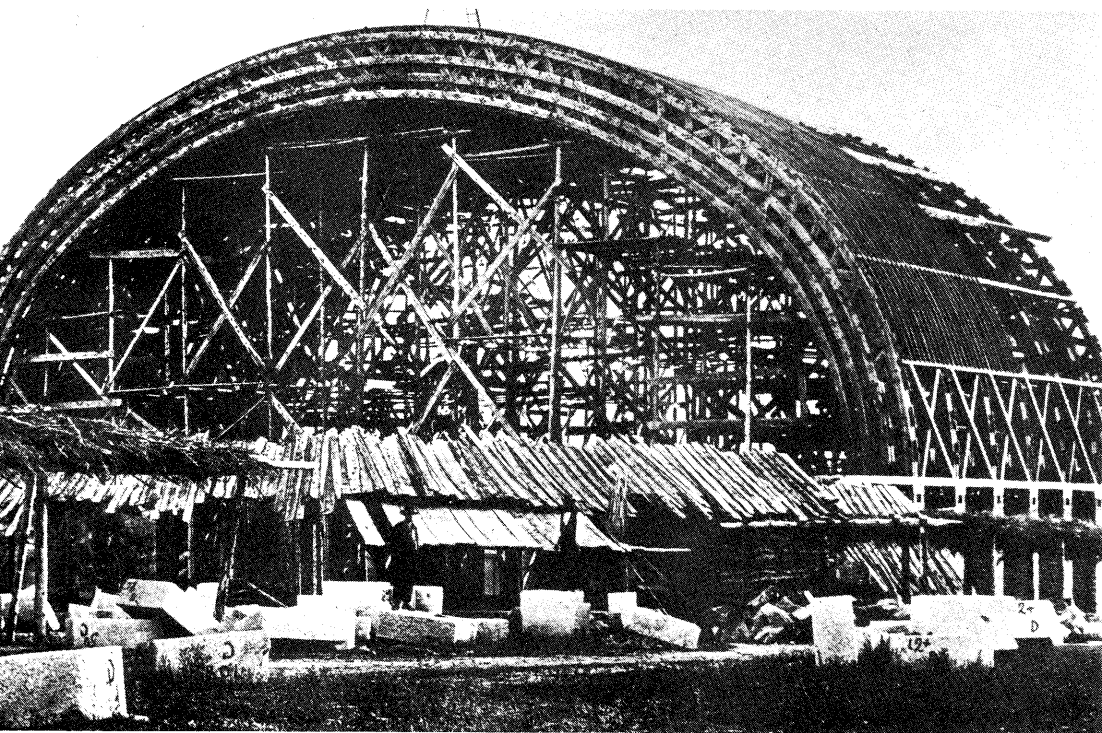
3月27日、ヨーロッパ（英国）とオーストラリアに、それぞれ最初のステーク部が設



1860年頃のソルトレーク・シティの市街地



聖徒の最初の帆馬車隊がノーヴーを発ち西部へ向かった
1846年2月4日、ちょうど同じ日にニューイングランド
など東部諸州の教会から、235名の教会員がサミュエル・
ブラナンと共に、ニューヨークを発ち、カリフォルニア
に向かった。1846年7月29日、現在のサンフランシスコ、
イエルバ・ブエナに到着した。



1865年、建築中のソルトレーク・タバナクル（C・R・サベージ撮影）



ハロルド・B・リー

「この数日の間に、私の信仰は一層強くなり、確固たるものになってきたようである。この大会を終わる前に、是非皆さんに申しあげておきたいことがある。この大会は主が不在のまま行なわれてきたのではないということである。これは主の教会である。主は教会の中心であるここ以外のどこへ行かれるだろうか。主は人をなおざりにされるような御方ではない。いつも私たちに関心を寄せておられる。そして私たちが主の導きに従うよう望んでおられる。主は実在の御方である。天父もまたしかりである。私はそのことをはっきりと知っている。私がひとえに願うことは、主が召され、皆さんが支持して下さったこの貴い地位にふさわしい者となることである。

私はこれまで語られてきたことが真実であることを心から証する。私たちが今携わっているこの業はまさしく主のみ業であることを一点の疑いもなく確信している。人類が救われる道は天が下^{あた}にこのみ名をおいてほかにないのである。」(『聖徒たちに与える祝福』「大会報告1970—72」p. 419, 1972年10月)

立される。

3月、宣教師になる年齢が20歳から19歳に引き下げられる。

1961年

3月12日、英語圏外初のステーキ部がオランダに設立される。

6月—7月、全伝道部長を対象とした第1回セミナーで、6課から成る新しいレスンプランが紹介される。同時に、会員による伝道プログラムも紹介される。全世界の伝道部を9地域に分け、各地域に教会幹部が配属される。

9月30日、ハロルド・B・リー長老、総大会の神権部会でコーリレーション(相互調整)活動について初めて公式に発表する。

11月、外国で伝道する宣教師のために語学訓練所がブリガム・ヤング大学に設置される。1963年に、語学訓練伝道部となる。

1962年

12月3日、スペイン語圏で初のステーキ部がメキシコシティに組織される。

1963年

12月、教会の地下記録保管庫がリトルコック

トンウッド・キャニオンに完成し、1966年
6月22日に奉献される。

1964年

1月、ホームティーチングの新プログラム
が1963年後期のステーキ部大会で紹介され、
その後全世界で実施されるようになる。
11月17日、デビッド・O・マッケイ大管長、
オークランド神殿を献堂する。

1965年

1月、「家庭の夕べ」プログラムが始まり、
「家庭の夕べ」のテキストが発行される。
1970年10月、月曜日が全教会の家庭の夕べ
の日と定められる。
2月、イタリア政府、教会の伝道を許可す
る。1862年以降イタリアでは伝道活動が停
止されていた。
3月、3代にわたる家族の記録を提出する
系図プログラムが始まる。

1966年

5月1日、ブラジル、サンパウロに南米初
のステーキ部が組織される。
10月、ポーランドのデブニカ・カサブに教
会の支部が組織される。

1967年

3月、教会統一機関誌が、9カ国語で創刊
される。現在は「国際機関誌」となり、17
カ国語で発行されている。
9月29日、十二使徒会地区代表の役職が新
たに発表され、69名の地区代表が召されて
訓練が始まる。
11月、ジョセフ・スミスが高価なる真珠を

翻訳中に所有していたエジプトのパピルス
の一部がニューヨーク中央美術館から寄贈
される。

1968年

12月、ポーランドと韓国で、系図記録のマ
イクロフィルム撮影が始まる。

1969年

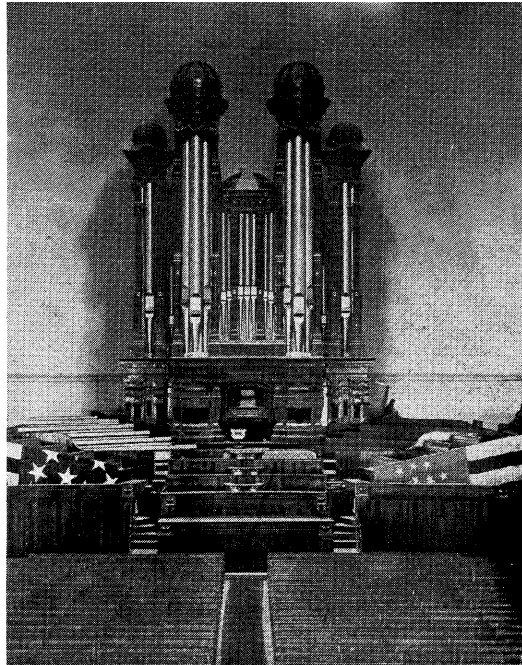
6月、スペインに初めて宣教師が派遣され
る。1年後の1970年7月1日、スペインに
独自の伝道部ができる。
8月3—8日、世界記録会議がソルトレー
ク・シティーで開かれる。
11月、1969年11月1日に、東南アジア伝道
部が正式に開かれる。シンガポールに伝道
本部を置く。1970年1月には、インドネシ
アに最初の宣教師が派遣される。

1970年

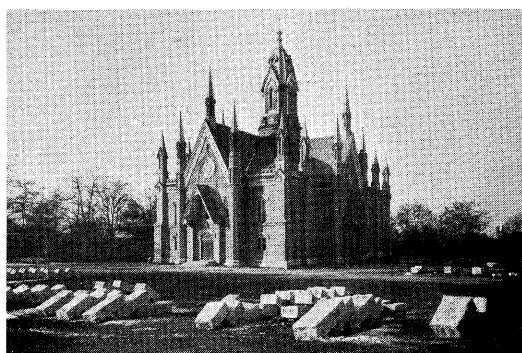
1月18日、デビッド・O・マッケイ大管長
が死去する。
1月23日、ジョセフ・フィールディング・
スミスが新たに大管長となり、副管長とし
てハロルド・B・リー、N・エルドン・タ
ナーが選ばれる。
3月15日、アジア初のステーキ部が日本の
東京に組織される。
3月22日、アフリカ初のステーキ部が南ア
フリカのトランスバールに組織される。

1971年

1月、新しく相互調整された教師養成プロ
グラムが開始される。
7月、医療宣教師プログラムが始まり、2



ソルトレーク・タバナクルの内部



今日でも、テンプルスクエアで最も美しい建物のひとつといわれるアセンブリーホール。1877年に着工され、1880年に竣工、1882年に献堂された。前景の石は、神殿建築に使用され、各部所に配置するために番号が付されている。

名の宣教師が派遣される。

8月27—29日、教会初の地域大会が英国の聖徒たちのためにマンチェスターで開催される。

1972年

1月、成人アロン神権者プログラムに代わって、長老見込み会員プログラムが紹介される。

1月18日、ジョセフ・フィールディング・スミス大管長、オグデン神殿を献堂する。

2月9日、ジョセフ・フィールディング・スミス大管長、プロボ神殿を献堂する。

7月2日、ジョセフ・フィールディング・スミス大管長が死去する。

7月7日、ハロルド・B・リー長老新たに大管長となり、副管長としてN・エルドン・タナー、マリオン・G・ロムニーが選ばれる。

11月、28階建ての教会本部ビルが完成する。

1973年

全伝道部のための新しい伝道レスンプランが完成する。これは、1961年の伝道レッスンに代わるものである。

2月、教会最初の農業宣教師が合衆国を発ち、グアテマラ・エルサルバドル伝道部に派遣される。

3月8日、アジア大陸で初めて、東洋では3番目のステーキ部が韓国の京城に組織される。

12月26日、ハロルド・B・リー大管長が死去する。

12月30日、スペンサー・W・キンボール長老、新たに大管長に任命される。副管長と



スペンサー・W・キンボール

「これら古代の偉大な使徒たち、同じ主なるキリストのみ業に携わった兄弟たちの証に加えて、私自身の証も述べさせていただきたい。私は、イエス・キリストが生ける神の御子であり、世の人々の罪のために十字架におかかりになったことを知っている。

イエス・キリストは私の友であり、私の救い主、私の主、そして私の神である。

私は、聖徒の皆様が主の戒めを守ることができるように、そして主のみたまを受け、日の光栄の王国において主と共に永遠の受け継ぎにあずかることができるようにと心から願っている。」（「聖徒の道」1979年2月号、p.120）

末日の予言者たちの声は、威厳をもって響き渡る。救い主を知っている者、愛している者として語っているからである。その言葉には、次のジョセフ・スミスの靈感あふれる宣言に見られる同じ確信と力があふれている。ジョセフ・スミスのこの宣言は、回復された福音のメッセージのすべてを要約しているようである。

「而して、われら御父の右に御子の栄光を見、その無上完全なるものを受けたり。

またわれら、聖き天使らおよび御座の前に聖とせらるる者たちが神と子羊とを拝み、しかも永遠に神と子羊とを拝むを見たり。

さて、この子羊に就きて為されたる様々の証の^{あげく}挙句、われらの為す最後の証はすなわち『主は実に生きたもう』こと^{これ}なり。

われらは、彼がすなわち神の右に座したもうを見たり。また、御父の生みたもう独子なりと証したもう声を聞けり。

すなわち諸々の世界は彼の手により、彼の手を経て、また彼に^た因りて先に作られ、また現に作られ、これに住む者たちも皆神より生れたる息子と娘なることを証したもう。」（教義と聖約76：20—24）

してN・エルドン・タナー、マリオン・G・ロムニーが選ばれる。

1974年

8月28日、タイにおける最初の末日聖徒の集会所がデビッド・B・ヘイト長老により献堂される。

11月19日、ワシントンD.C. 神殿が献堂される。



ドイツの聖徒たちのもとに送られるオランダのじゃがいも。

第一定員会会員に召され、七十人第一定員会会長会が再組織される。S・デルワース・ヤング長老に代わって、フランクリン・D・リチャーズ長老が先任会長に召される。

1975年

5月3日、大管長会は地域管理制度を発表し、合衆国およびカナダ以外の地域に在住して教会活動を管理する6名の十二使徒会補助を召す。年末には、8地域に分けられる。

6月27日、ソルトレーク・シティーでの補助組織の大会を取り止めることが発表される。代わって、各地区のステーキ部の全神権組織および補助組織の指導者のために年次地区集会が行なわれることとなる。

10月3日、スペンサー・W・キンボール大管長、七十人第一定員会の設立を発表。総大会で定員会会員3名を支持する。

1977年

1月1日、大管長会は総大会の予定を新たに発表する。4月と10月の第一日曜日とその前日の土曜日に一般大会を、さらに金曜日に地区代表セミナーを開催することとなる。

1月14日、管理監督会地域監督が初めて、メキシコ地域の教会の実務を指示するために召される。合衆国、カナダ以外の他の8地域にも地域監督の置かれることが6月4日に発表される。

2月5日、大管長会は教育課程や活動プログラム、スカウティングを含む宗務面の管理を十二使徒評議員会に、実務面の責任を管理監督会に託すことを発表する。

2月21日ー3月11日、スペンサー・W・キンボール大管長、地域大会へ出席のため1カ月にわたる南米旅行をした折に、メキシコ、グアテマラ、チリ、ボリビアの元首と会見。次いでホワイトハウスにジミー・カーター

1976年

4月3日、総大会の出席者は、全会一致でジョセフ・スミスの日の光栄の王国に関する示現とジョセフ・F・スミスの死者の贖いに関する示現を高価なる真珠に付加することを支持する。

5月1日、韓国京城ステーキ部、京城郊外約10キロの場所にアジア初の福祉農場を持つ。

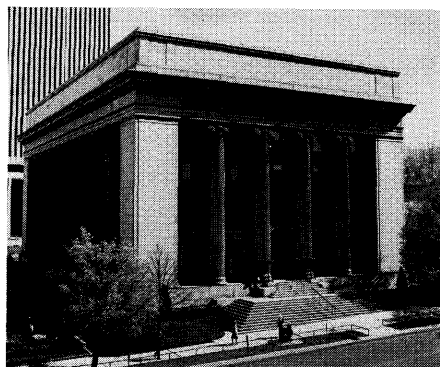
10月1日、十二使徒会補助は全員、七十人

大統領を訪問する。

5月14日、若い男性プログラムが改編され、中央若い男性会長会が新たに召されて、神権役員会の青少年部門の指示の下で働くこととなる。

5月22日、新たに教会活動委員会が組織され、文化芸術と体育活動の相互調整を図ることが発表される。同様の委員会が地元でも設置される。

7月1日、世界的な教会員の増加に伴い、従来「地域」と呼ばれていた地理的区分がゾーンに変更され、全世界11のゾーンがさらに地域に細分されることになった。七十人第一定員会会員がゾーンアドバイザーあるいは地域担当教会幹部となる。



ユタ州ソルトレーク・シティーの末日聖徒イエス・キリスト教会本部ビル

キンボール大管長にあらゆる人種のふさわしい男性に神権が授与されるとの啓示が下されたことを発表する。

6月13日、スペンサー・W・キンボール大管長、ハワイ神殿を再献堂する。

6月18日、カナダのケベック州モントリオール・ステーク部、仏語を使用する北米大陸初のステーク部として、十二使徒評議員会会員のトーマス・S・モンソン長老により組織される。

6月18日、合衆国内最初の地域大会がハワイ州ホノルルで開催される。

7月1日、キンボール大管長、イリノイ州ノーグーの扶助協会女性記念像を献納する。

8月11日、初等協会創立100周年記念祭が行なわれる。

9月16日、キンボール大管長および教会指導者はタバナクルとそのほか世界中1,400カ所に集まった婦人のための特別大会で話をする。

10月26日、宣教師の訓練はすべて、宣教師訓練センターで行なわれることになる。

10月30日—11月2日、スペンサー・W・キ

1977年

10月15日、大管長会、サモアに神殿を建設する計画を発表する。

10月26日、十二使徒評議員会のリグランド・リチャーズ長老、エルサレムのオリブ山の斜面にオルソン・ハイド記念公園（2ヘクタール）を建設することを発表する。

1978年

2月3日、大管長会、サウスウェスト・ソルトレーク郡サウスジョーダンに新しい神殿を建設する計画を発表する。

3月31日、大管長会、1979年以降、ステーク部大会は年4回から年2回にすることを発表。教会員の時間的、経済的その他の負担を軽減するための変更である。

5月27日、ワシントン州シアトルの神殿の起工式が行なわれる。

6月9日、大管長会、スペンサー・W・

ンボール大管長、サンパウロ神殿を献堂する。
12月15日、ブラジルのリオデジャネイロ、
ニテロイステーキ部で、ヘルベチオ・マル
チノス兄弟が黒人として初めて、ステーキ
部長会の一員に召される。

1979年

2月18日、イリノイ州ノーヴーに、1,000番
目のステーキ部が設立される。かつてのノ
ーヴーステーキ部は1839年10月5日に組織
され、1846年に解散されている。

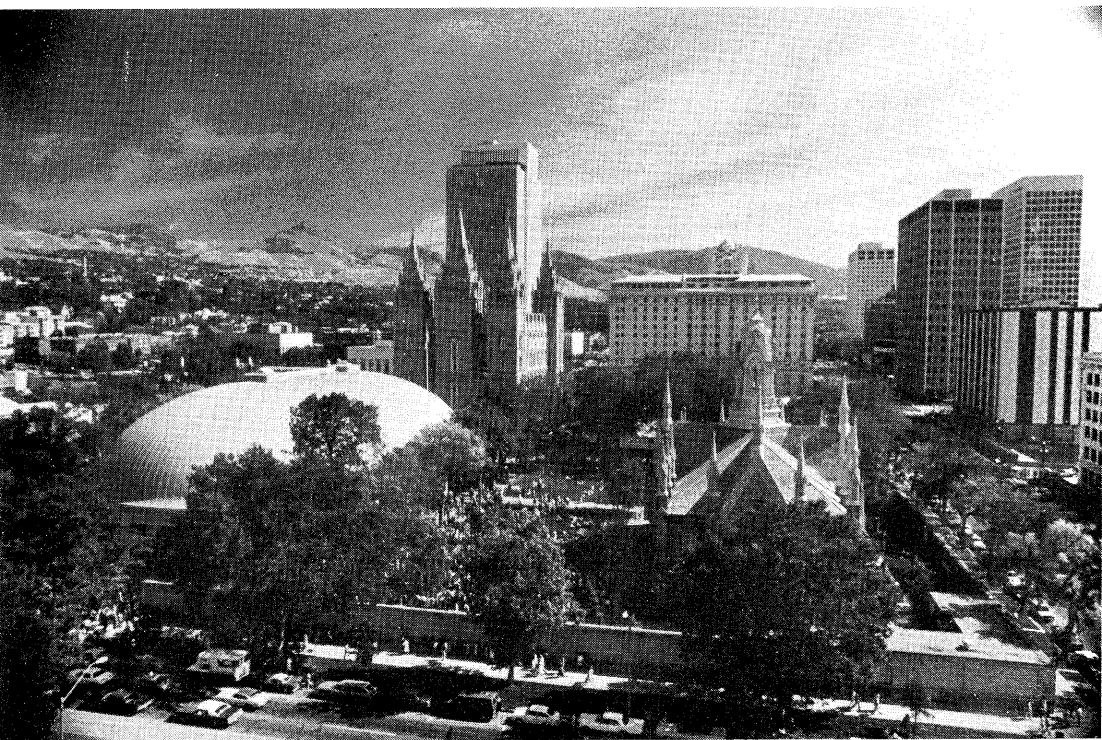
3月30日、大管長会、教会の宗務、実務面
の諸事を管理するために評議会制度を紹介

する。中央レベルでの相互調整評議会なら
びに地域、複合地区、ステーキ部、ワード
部の評議会が教会の全プログラムを包括す
るようになる。

6月9日、ジョーダンリバー神殿の起工式
が行なわれる。

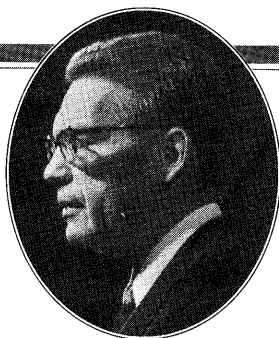
7月15日、タバナクル合唱団、1929年7月
15日の放送開始以来50周年を祝う。

10月24日、オリブ山の西斜面を開発して造
ったオルソン・ハイド記念公園が献納され
る。1841年10月24日、オルソン・ハイドはこ
の地に立ち、散乱したユダの残りの子孫の集
合の地として、このイスラエルを奉献した。



今日のテンプルスクエアとソルトレーク・シティ

輝かしき福音



十二使徒定員会会員
ブルース・R・マッコンキー

現在、この地上には輝かしい神の福音があり、広く宣べ伝えられている。私たちは全世界の人々にこのことを知らせようではないか。

人手によらず山から切り出された石が転がり始めていることを、すべての人々に伝えようではないか。やがてこの石は人の創ったすべての王国を粉々に打ち砕き、全地に満ちることだろう。

今や末日聖徒に「わが先祖らの末の世に顕されんことを熱心なる期待も待ち望みしもの」が降り注がれ、「何事も一つとして隠さること」のない約束の時代が到来しているのである（教義と聖約121：27—28参照）。このメッセージをすべての人々に伝えようではないか。今日人々の心の闇を貫き通している日の光栄の輝きは、やがて完全なる輝きをもって燃えあがるであろう。基はすでに据えられ、主の宮居はこの地上に次々と建設されている。

恵み深い父なる神は、神のすべての子供たちが神の恩恵と祝福にあずかれるように、この末の時代に完全な、永遠の福音を回復して下さった。そして信仰をもって従う人々が救いと昇栄を得られるようにして下さったのである。

父なる神と御子イエス・キリストは、そのみ声と、そしてある時には天使を仲立ちとして、かつて人間が有していたすべての鍵と権能と神権とを、ジョセフ・スミスとその同胞に授けられた。そして、ジョセフ・スミスたちはこの地上の王国、すなわち神の王国を再び設立した。この王国が末日聖徒イエス・キリスト教会である。この教会は、キリストを信じ、主の律法に従うすべての人々に福音の導きと恵みを施し、救いをもたらすものである。

完全な永遠の福音とは何であろうか。

それは救いの計画、すなわち神の子供たちを救う天父の永遠の計画である。



それは、霊の子供たちをもうけることであり、前世で教えと試しを受け、無数の世界を創造し、(私たちについて言えば)この地球という惑星に受け継ぎを得たことである。

それは、肉体の死と霊の死をもたらしただムの墮落であり、死を無効にし、律法によって生命と不死不滅を明確に示した神の御子の贖いの力である。

それは、すべての律法、礼式、儀式であり、すべての真理、権能、執行であり、人に不死不滅と永遠の生命とをもたらすあらゆる鍵と神権とその特権である。

それは、キリストの贖罪、人類の贖い、開かれた墓、そして驚異と栄光に満ちた永遠の生命である。

それは、信仰、悔い改め、バプテスマであり、みたまの賜、天よりの啓示、そして語り尽くせないほど偉大な聖霊の賜である。

それは、永遠の結婚と永遠の生命、そして永遠の昇栄である。また御父や御子とひとつになり、共にその王座に座して永遠に支配することである。

それは、この試しの生涯における試練と苦難であり、悲しみと苦痛と死である。それは、世に打ち勝ち、この世と地獄の力を退け神の道を歩み続けることであり、神の戒めを守って同胞に仕えることである。

そして最終的に、アブラハム、イサク、ヤコブをはじめ、すべての聖なる予言者たちと共に、二度と退くことなく神の王国に永遠に住まうことである。

福音の恵みはそれぞれの神権時代に与えられる

主が救いの計画を新たに啓示されて、人がそれ以前に天より授けられていた栄光と驚嘆すべきみ業だけに頼る必要がなくなった時、

人手によらず山から切り出された石が転がり始めていることを、すべての人々に伝えようではないか。やがてこの石は人の創ったすべての王国を粉々に打ち碎き、全地に満ちることだろう。

それを福音の神権時代と呼ぶ。この神権時代には、諸々の鍵と権能と神権の回復が伴うこともあれば、伴わないこともある。例えば、モーセの神権時代に代わってイエスが訪れた時にはこれらの回復が行なわれたが、エノクとノアの神権時代が始まった時にはこの回復はなかった。

これまでに幾つの神権時代があったかは定かでない。恐らく、数多くの神権時代が存在したことであろう。また、それぞれが存続した期間や、他の神権時代への移行についても正確に知ることはできない。今の私たちに言えることは、人々に救いに関する真理を受け入れる備えができると、恵み深き神がその時代の人々に必要な真理を明らかにされたということである。

私たちは時満ちたる神権時代に生を受けている。すなわち、現在は数々の神権時代のすべてが集約された神権時代である。これまでの神権時代に存在したあらゆる「鍵と権能と栄光」とが与えられている。聖典に記されている神権時代からそれぞれ特有の鍵と権能を持つ天使が遣わされ、「その神権の時代、その

権能、その鍵、その誉、その威厳、その栄、その神権の権能」(教義と聖約128：21)を宣言したのである。

パウロが約束したように、時満ちたる神権時代に「神は天にあるもの地にあるものを、ことごとく、キリストにあって一つに帰せしめようと」(エペソ1：10)される。過去という大河が、ことごとく現在という海に流れ込むのである。すでに鍵と権能はすべて私たちに与えられている。そして結局、すべての教義と真理が明らかにされるはずである。

時満ちたる神権時代

1842年にジョセフ・スミスは次のように記している。「それは全くして欠くことなく完全なる合一とまた神権の時代と、鍵と、権能と、光栄との固き結合出来、これがアダムの時代より現在に至るまでことごとく明らかにさるること、今やまさに先触れを始めんとする時満ちたる神権の時代の先駆をなすに必要なればなり。」(教義と聖約128：18)そして、鍵と権能を回復した人として、モロナイ、ペテロ、ヤコブ、ヨハネ、ミカエル、ガブリエル、ラファエル、「およびミカエルすなわちアダムより現在に至るまでの天使ら」(教義と聖約128：21)を挙げている。この「天使ら」の中には、バプテスマのヨハネ、モーセ、エライジャ、エライヤス、そのほか私たちの知らない多くの天使も含まれていると思われる。これら古代の予言者たちがそれぞれの権威と権能を携えて、どのような順序で訪れたかは明確にされていない。しかし、以下のような順序で訪れたと考えることができる。

1. モロナイ

この古代のニーファイ人は、1823年9月21

日の夜に初めてジョセフ・スミスの前に現われ、一晩中、モルモン経や福音の回復、末日に起こる出来事について教えと勧告を与えた。その後、この少年ジョセフの手に金版を渡し、そして「エフライムの一片の木の記録の鍵を託した。」(教義と聖約27：5)

ジョセフ・スミスは、神の賜と力によりこの金版の記録を翻訳し、「モルモン経」として出版した。この聖典には完全な永遠の福音が記されており、この聖典はキリストが神の御子であることを証し、ジョセフ・スミスの召しに関する予言の記録を明らかにし、聖書が真実であることを証明している。

2. バプテスマのヨハネ

1829年5月15日、ザカリヤの子ヨハネがジョセフ・スミスとオリヴァ・カウドリにアロン神権とその鍵を授けた。これは、「悔い改めの福音、罪を赦すために水に沈むるバプテスマ」などの備えの福音を授けるものである。また、昔レビの子孫が行なったように主に捧げ物を捧げる権能も付与された(教義と聖約13参照)。こうして、ヨハネがこの世で人人に悔い改めを宣べ伝え、キリストの最初の降臨に備えさせたように、人の子の再臨に人人を備えさせる道が開かれたのである。

3. ペテロ、ヤコブ、ヨハネ

その後間もなくして、キリストの時代に大管長会を構成していた3人の兄弟が、聖なる使徒職を含むメルケゼデク神権を再び地上にもたらし、王国の鍵を回復し、時満ちたる神権時代の鍵を授けた。(教義と聖約27：12；81：2；128：20参照)

地上における神の王国(すなわち教会)の鍵とは、この地上の、主にかかわるすべての事柄に指示を与える権利と権能のことである。

ペテロ、ヤコブ、ヨハネの訪れにより、私たちの時代に教会が再び設立され、全世界の人人に福音を宣べ伝えるための権能とその使命が与えられた。

4. モーセ

イスラエルの偉大な立法者モーセは、救い主によく似た生涯を送り、イスラエルの民をエジプトでの奴隷の境遇から解放して約束の地へと導いた予言者である。また1836年4月3日に、カートランド神殿でジョセフ・スミスとオリヴァ・カウドリに現われ、(1)「世界の四隅よりするイスラエル人の集合と」、(2)「北の国より十の支族を導き来ることの鍵」(教義と聖約110:11)とを授けた。

その時以来、散乱したエフライムと他の支族が、力と栄光を増し加えながら、あたかもエジプトの束縛から逃れるかのようにアメリカの山々に向かって集合してきた。しかし、現在では世界各国に存在するシオンのステーク部に人々が集合している。イスラエルの集合は実際に起こっている。やがて失われた十支族が戻って来る時、彼らは末日聖徒イエスキリスト教会の大管長の下に集まってくるであろう。なぜならば、この教会の大管長は、この偉大なみ業を指示し、管理する鍵を有しているからである。

5. エライヤス

モーセに続いてエライヤスが現われた。しかし、この予言者がだれであるかは定かでない。この名前や称号で呼ばれた予言者は大勢いた。ノアもそのひとりである。ここで言うエライヤスは明らかにアブラハムの時代に生きていた人であり、アブラハム自身であるとも考えられる。それはともかく、エライヤスが「アブラハムの福音の時代を^{わた}委し」たので

ある(教義と聖約110:12)。すでに与えられていたキリストの福音でなく、アブラハムの福音である。つまり、その昔アブラハムは神から偉大な使命を託された。その使命はアブラハムとその子孫が、「この世に在りてもまたこの世の外に在りても、空の星の如く数多くして絶ゆることなく、すなわち浜の砂は数えらるゝとも彼らを数え尽し得ざるべし」(教義と聖約132:30)という約束である。

ジョセフ・スミスの記録によれば、エライヤスが実際にふたりに語った言葉は、「われらとわれらの子孫によりてすべてわれらの後の世の人々祝福を受くべし」(教義と聖約110:12)ということであった。さらに喜ばしいことに、アブラハムの結婚制度が回復された。この制度によって家族の永続が可能になり、永遠の生活ができるようになった。

6. エライジャ

アブラハム、イサク、ヤコブをはじめ他の先祖に与えられたこれらの約束をすべて(予言者たちの子孫である)私たちの心にはっきりと刻み込むために、エライジャが訪れて、この世の主の僕たちに結び固めの権能を授けた。この結び固めの権能によって、生者、死者を問わず、すべての儀式が天においても地においても結ばれることとなった。(教義と聖約110:13—16参照)

7. ミカエル、すなわちアダム

私たちの始祖ミカエルは、その権能と栄光と偉大さにおいてキリストの次に位する王子であり、この地上で初めて肉体を受けた「すべての人の最初なる者」(モーセ1:34)である。また、すべての子孫を管理する管理大祭司であり、この地球に関するすべての事柄を支配し、統治する神権を有する方である。

私たちは時満ちたる神権時代に生を受けている。すなわち、現在は数々の神権時代のすべてが集約された神権時代である。これまでの神権時代に存在したあらゆる「鍵と権能と光栄」とが与えられている。

アダムはどのような鍵と権能を回復したのであろうか。これはあくまでも推測であるが、アダムはこの地上にやがて神とキリストの王国となる諸々の王国を統治する管理権を再び回復した。そしてアダムの訪れにより、人は再び神権の力を通して「国々の軍勢に敢然と立ち向かう」（霊感訳創世14：31より和訳）ことができるようになった。また福千年に備えて地球が更新され、エデンの園の状態、死や悲しみがなく福音の栄光が全地に満ちる状態にあずかれるようになったと思われる。

8. ガブリエル、すなわちノア

ノアは邪悪な世の人々に福音を宣べ伝え、洪水による死から自分を含めて8人の命を救った。ノアはその言葉に聞き従う人々に、物心両面の救いをもたらした。

そのノアの所有していたすべての鍵がこの世に住む主の予言者に再び授けられた。それがどのような鍵であるか断言することはできない。しかし、福音を宣べ伝える権能と、従順に最後まで耐え忍ぶ備えのできた人々に物心両面の救いをもたらす権能が、この地上に

再び回復されたことは確かである。ノアの洪水が邪悪な人々を呑み込んだように、来るべき炎が「神を認めない者たちや、わたしたちの主イエスの福音に聞き従わない者たち」（IIテサロニケ1：8）を焼き尽くすであろう。

9. ラファエル

ラファエルについて詳しいことはわからないが、いずれかの神権時代から遣わされた、特別な鍵と権能を持つ人であることは確かである。エノクの神権時代を名乗るみ使いがほかにいないので、ラファエルはエノク自身であるか、またはエノクの神権時代を代表するだけかであると思われる。

エノクの時代に主の民はシオンを建設し、身を変えられて天に取り上げられた。その神権時代からもたらされた鍵とは、地上に福千年の時代を開くものではないだろうか。もちろん御存じのことと思うが、エノクの市は福千年の日に天から降りてきて、地上に建設されるシオンとひとつになる。

10. その他の天使たち

そのほかにも、私たちは知らないが、鍵と権能を回復した天使がいるはずである。しかし、確信を持って言えることは、かつて地上に存在していたすべての鍵と、権能と、神権はすでにすべて回復されているということである。このようにしてジョセフ・スミスと同胞にもたらされた鍵と権能は、現在大管長会と十二使徒会に授けられている。しかし、ある意味において、神の先任使徒以外でそれを行使している人はいない。なぜなら、これらの鍵は管理権であり、したがって一時にただひとりの人、すなわち教会の大管長だけが行使できるからである。

主はこれらの鍵と兄弟たちについて次のよ

うに述べておられる。

「汝らすなわち十二使徒会、および汝らの助言者および指導者として任命を受けたる者たち、すなわち大管長会員にこの神権の権能末の世にこれを最後に附与せらる。而して、この末の世に時満ちたる神権の時代存するなり。

汝らの保つこの権能は、創世の始めより何れの世にても神の神権の時代を受けたるすべての者の^{かんれん}関聯するものにして、誠にわれ汝らに告ぐ、汝らの受けたる神権の時代の鍵は、汝らの先祖より伝わりしものにして、ひっきょう天より汝らに伝来せられしものなり。

われ誠に汝に告ぐ、見よ、汝の天職は如何に大いなるか。」(教義と聖約112:30—33)

さてここで、私たちが現在受けている事柄と、これから受ける事柄とが、私たちの生活やみ業の遂行にどのような影響を与えるか考えてみよう。この神権時代の特色の中には確かに輝かしいものがあり、聖徒は福音の喜びと永遠の驚くべきみ業とを享受している。しかしその一方で、聖徒や世のすべての人々に深い悲しみと苦しみをもたらす出来事が今後も引き続き起ころうとしている。それらは疫病や荒廃の形をとって「万国の民に限りなく」(教義と聖約101:10)注がれるであろう。

現代における祝福

では、私たちに与えられる祝福と驚嘆すべきみ業について考えてみよう。

私たちが受けている神権、鍵、儀式、救いの計画はすべてかつて啓示されたものと同一である。それは完全な永遠の福音であり、御父の王国において永遠の生命を享受できるように人々を結び固めるものである。

私たちは律法に定められたあらゆる儀式を執行する完全な権能を有する正当な執行者で

私たちの時代は、歴史上最も栄光に満ちた神権時代である。この時代に悪は滅び去り、真理が勝利を得る。これまでにその基が据えられてきた。私たちは現在、その基の上に主の宮居を建設している。しかし、まだまだなすべきことは多く残されている。

ある。そしてこれらの儀式は、人がいと高いところより権能を授かり、栄光の中に不死不滅となってよみがえる備えをし、「^{かしこ}彼処に置かれたる諸天使諸神の前を通り過ぎ」(教義と聖約132:19)最高の栄に進んで神々となるために欠くことのできないものである。

私たちは、ペテロや古代の使徒たちのように、王国の鍵を持っている。したがって、私たちが地上において結びあるいは解くことは、正当な行為として天においても永遠に結びあるいは解かれるのである。

私たちは聖霊の賜を受けており、程度の差はあれ、みたまの賜をすべて享受している。したがって、啓示を受け、示現を見、天使の訪れを受け、自らを聖め、この罪と悲しみの世にありながら神のみ顔を拝することができるのである。

私たちは今、万物の回復、イスラエルの集合、シオンの建設の途上にあり、人の子の再臨に備え、正義と平和の中に福千年を迎える過程にある。

私たちは、主の再臨の日を待ち望むようになりたい。そして私たちは選ばれて、主と共に

に一千年間の統治につき、究極的にはアブラハム、イサク、ヤコブと共に神の王国に住まいを得て二度と追われることのないようになりたいと願っている。

私たちは、これまでの神権時代になかったような神聖な約束を受け、大いなる慰めを得ている。それは、福音とそれに属するすべての事柄が二度とこの地上から取り去られることはない、という約束である。また、主の教会と王国は決して滅びることがなく、回復が必要となるような世界的な背教は二度と起こらず、やがて「水が海をおおっているように、主を知る知識が地に満ちる」（イザヤ11：9）という約束である。

私たちは、「主の来りたもうその日にはすべての事を顕したまわん」（教義と聖約101：32）という約束からも慰めを得ている。そして、その日には次の約束が完全に成就するのを目にするに違いない。「また世の始めよりいまだ嘗て啓示されずして、賢く慎みある人々にも明かされざりしことも、この時満ちたる神権時代には小児にも乳のみ児にも明らかにされるべし。」（教義と聖約128：18）

現代の試練

次に、末日における荒廃と動乱と試練について考えてみよう。

私たちはそのような出来事を歴史上のどの時代よりも多く目にすることになる。全世界の至る所で、地震や洪水、疫病、飢饉が起り、あらゆる国家と民族の間に戦争や荒廃、破壊、殺人を見るであろう。ガデアントン流の結社がその同胞の財産を略奪し、犯罪、墮落、不正行為が方々に増加し、情欲、不道德な行為、性的倒錯行為、またソドムとゴモラのあらゆる罪惡が洪水のごとく全地を覆うで

あろう。時満ちたる神権時代は、主がぶどう園を焼き払う準備をされる時である。すべて腐敗したものは焼き捨てられ、邪悪な人々に報復と滅亡とが下される時である。ノアの時代と同じことが、人の子が再臨される日に起こるであろう。

このような中で主の聖徒たちは、「聖地に立ちて動くことなかるべし」（教義と聖約45：32）と命じられている。個々の聖徒に降りかかる試練は、過去の時代に主の民に注がれたものと何ら変わりはない。試練と艱難があらゆる世代の人々に降りかかる。私たちは欲望を制して世の惡に打ち勝つことができるかどうか、自分を十分に吟味するためにここにいる。人生は決してたやすく送れるようには計画されていない。苦難を受け、死を味わい、またキリストについての証と永遠の生命への希望のゆえに自らの命を犠牲にする人がいるかもしれない。しかし、すべてはアダムの時代から現代に至るまで主の民が経験してきたことであり、永遠の計画の一部なのである。福音のために自分の「すべて」を捧げる人は、備えられた住まいにおいて主の「すべて」を受け継ぐはずである。

現代の神権時代の前途

それでは、いと高き神の聖徒を待ち受けているものは何であろうか。

私たちの時代は、歴史上最も栄光に満ちた神権時代である。この時代に惡は滅び去り、真理が勝利を得る。これまでその基が据えられてきた。私たちは現在、その基の上に主の宮居を建設している。しかし、まだまだなすべきことは多く残されている。

救いの教義と王国の奧義に関して、古代の多くの聖徒が持っていたように、完全な知識

と理解とを得なければならない。エノクとその民が持っていた知識を得ることさえできたら、あるいはジェレド人やニーファイ人のように、モルモン経の封じられた部分を読むことができたなら、どんなに素晴らしいことであろうか。しかし、すでに主から授けられているモルモン経や教義と聖約、ジョセフ・スミスが靈感によって聖書の一部を改訳したものを完全に信じることなしに、それらの真理が与えられるだろうか。進化論を信じながら、創造に関する完全な知識を主から受けることができるだろうか。

私たちは、昔の人々が持っていたような信仰をもたらす従順と個人の正義とを身に付けなければならない。その信仰とは、さらに多くの奇跡を行ない、山を動かし、国々の軍勢に敢然と立ち向かう信仰である。猛火を鎮め、海を分かち、獅子の口を封じる信仰である。あらゆる障害を克服して、神のみ前に立つ信仰である。信仰は段階を追って強まるものである。病人を癒す信仰を得ずに、どうして山を動かし海を分かち信仰を持つことができるだろうか。

私たちはさらに日々の生活の中で主のみたまの導きを受け、すべてのことにおいてみたまと調和し、「兄弟を己が身の如くに思い」（教義と聖約38：24）、同胞の中にひとりも貧しい人がいないようにし、私たちの善い行ないを見た人々が天にいます私たちの父をあがめるようにしなければならない。什分の一の律法に従わずに、どうして奉獻の律法に従うことができるであろうか。簡潔でわかりやすい救いの教義を受け入れることができずに、今後啓示される複雑で、限りない真理をどうして自分のものにすることができるだろうか。

私たちは、福音の律法と儀式に従うことによって自分の身と霊を完全なものとし、神と

同じように光の中を歩まなければならない。そうすれば、身を変えられる時がきた時に、天の王国においてエノクとその市に加わる備えができていないはずである。私たちの中に、天使の訪れを受け、主のみ顔を仰ぎ、神とキリストのみもとに昇って御二方に似た者となる、今その備えができていない人が何人いるであろうか。

私たちはまた、すべての国々の、すべての人に福音を宣べ伝えなければならない。このことをキリストの再臨に先立って行なわなければならない。現代は伝道の時代である。教会に改宗したすべての教会員はバプテスマの水の中で、「いついかなる時でも、どのような所に居ても、どんなことについても、死に至るまでも神の証し人に」（モーサヤ18：9）なると誓約する。ところが現在、この偉大な務めに関してすでに行なわれていることはごくわずかに過ぎない。世界中で何十億という人人がいまだに暗闇の中を歩み、喜ばしい救いのおとずれを告げるために神が遣わされる人人から、警告の声を聞く望みもなくさまよっている。私たちはさらに多くの宣教師と勇気ある会員を必要としている。自らの時間と財産を捧げ、全世界の国々の心の正しい人々に喜びと希望をもたらすために働く人が必要である。

私たちはもっと多くの先祖の名前を探し出し、彼らのために主の神殿で救いと昇栄の儀式を執行しなければならない。私たちの時代は、代理の儀式を行なう偉大な神権時代である。ふさわしい聖徒と、霊界で福音に聞き従う人々は、神のあらゆる祝福を受け継ぐことができる。神はすべての子供たちを愛し、全員が永遠の王国において救いを得るように願っておられる。そこで数多くの神殿を建設し、人名抄出プログラムを拡大し、そして幕のか

私たちは、すべての国々に建てられるシオンのステーキ部に、イスラエルの民を集めなければならない。また、すべての民族とすべての国民の中にシオンを建設し、避け所となるシオンのステーキ部を打ち建てなければならない。私たちのメッセージは全人類に対するものであり、この福音以外に、救いと昇栄をもたらす力はないのである。



なたに在る同胞のためにさらに多くの代理の儀式を執行する必要がある。時至らば、私たちはミズーリ州ジャクソン郡に神殿を建てることになっている。またエルサレムにも神殿が建てられる。世界中の多くの国々に数多くの聖なる宮居が建てられることは言うまでもないことである。

私たちは、すべての国々に建てられるシオンのステーキ部に、イスラエルの民を集めなければならない。また、すべての民族とすべての国民の中にシオンを建設し、避け所となるシオンのステーキ部を打ち建てなければならない。私たちのメッセージは全人類に対するものであり、この福音以外に、救いと昇栄をもたらす力はないのである。

私たちはまた、主の再臨のために民を備えさせなければならない。私たちは主の民であり、主の福音を受け入れ、主の用向きを有てる者である。私たちは時間や才能、財産のすべてを捧げ、主の王国の建設のために役立てなければならない。すべてのものを犠牲にするように求められたら、たとえそれが自分の生命であっても、捧げるべきである。万事に忠実であった人々に与えられる永遠の富に比べれば、それはわずかな犠牲でしかない。

予言者たちの予言したように、救い主がシオン山の頂に立たれ、地上の王国が主のものとなるのは、この神権時代である。この輝かしい福音は今も永世にもわたって栄え得てあろう。教会員として、主の民として、末日聖徒として、今私たちは福音の栄光を過去の土台の上に築き上げ、偉大なエホバが次のように言われるその時までみ業を推し進めようではないか。

「み業は成った。来たりて、汝の主の喜びに入れ。我と共に我が王座に座せ。汝は我と、また我が父と今ひとつになった」と。

集会の短縮化

去る2月1日、大管長会は、家族がもっと一緒に活動できるように、新しい集会スケジュールを発表しました。合衆国およびカナダではすでに3月2日からこの新しいスケジュールの下に集会が実施されており、ほかの地域でも5月4日から実施される予定です。

これまで15のステークス部で試験的に行なわれてきましたが、このプログラムによると、集会は少なくなり、集会時間も大幅に短縮されます。このプログラムの実施に伴い、組織の役員、特に日曜学校の役員と教師に大幅な変更が生じるものと思われます。

この短縮化スケジュールの下に、神権会、日曜学校、聖餐会、およびこれまで週日に行なわれてきた補助組織の集会がすべて日曜日の3時間以内に行なわれるようになります。(「日曜日の集会スケジュール」表参照)

この大幅な変更によって、自由な時間が増え、家族と一緒に過ごす時間が多くなります。それと同時に、福音を教え、安息日を正しく過ごす責任が個々の家族に、これまで以上に課せられるようになります。

大管長会は全神権指導者へのメッセージの中で、このプログラムを実施する目的は、「教会員が家族の生活や個人の福音の勉強、自己改善、クリスチャンとしての奉仕に専心する時間をもっと多くとれるように」するためであると述べています。

「私たちはまた、集会の短縮化スケジュールを採用することにより、省エネルギー運動を支持すると同時に、集会やその他の活動に出席する教会員の交通費の負担の軽減に役立つと考えています。

また、この新しい集会スケジュールにより、教会堂でのエネルギー使用量は減少するに違

いありません。

この集会時間の短縮に伴って、安息日を正しく守るという責任がこれまで以上に個人の会員と家族の上にかかってくるようになります。そこで教会員はもっと多くの時間を、個人的な聖典の勉強や家族を中心とした福音の勉強に注ぐようにして下さい。そのほか、家族の絆を強める、病気の人や外出できない人を訪問する、他の人々に奉仕する、個人と家族の記録を書く、糸図の仕事をする、伝道活動を行なうなど、安息日にふさわしい各種の活動をよく計画し、実施するようにしていただきたいと思います。

この新しい集会と活動のスケジュールが、教会員にさらに豊かな霊的成長をもたらすよう期待しています。すべての末日聖徒の家庭は、家族にとって大切な場所、家族が生涯を実りあるものとし、相互の愛と支持、感謝、励ましを見いだせる所とならなければなりません。

このスケジュールによって、家族は週日の時間に余裕ができ、公民として地域社会の改善や、誠実な人々が公職に就けるように積極的な働きかけを行なうこともできます。」

さらに大管長会はこの短縮化プログラムによって、「あまり活発でない会員や非教会員を安息日の集会に招待しやすくなるでしょう」とも述べています。

今回の集会の短縮化に当たって、大管長会が特に望んでいることは、個人や家族、また教会の指導者が教会の集会や家族会議、家庭の夕べなどを十分に活用して、教会員や非教会員に福音を教えることはもとより、自分の家族の生活に福音を生かすように力を注いでほしい、ということです。

日曜日の集会短縮化スケジュール

(目 的)

日曜日に集会を統合して行なう目的は、(1) 福音を学び、福音に従って生活し、福音を教える責任が個人と家族にあることを再び強調すること、また(2) 教会員がもっと多くの時間を福音の個人学習や他の人々への奉仕、有意義な活動に充てることができるようにすることである。新しい集会スケジュールは、以下の主要な目標をもって定める。

1. すべての末日聖徒の家庭が、家族の大好きな場所となり、また家族が自らの生活を豊かなものとし、愛と支持、感謝、励ましを相互に示し合える場所となるようにする。
2. 家庭を中心とした安息日の活動を強調する。
3. 全会員のために、週日の活動プログラムにもっと柔軟性を持たせる*。
4. 教会員の交通費の負担を軽減すると共に、家族そろって教会に行き、また家族と一緒に教会の活動に参加する機会を与える。
5. 省エネルギーに努め、また教会の活動への参加に伴う出費を可能な限り軽減する。

* ひとつの建物を複数のワード部で使用している所では、各ワード部のために週日の活動の日を指定するとよい。

日曜日の集会スケジュール

第1案

70分	聖 餐 会				
10分	休 憩				
40分	日曜学校クラスレッスン			初等協会 開会行事	託 児
10分	休 憩			初等協会 クラス レッスン	
10分	休 憩			初等協会 活動時間	
40分	聖 餐 会			初等協会 活動時間	

3 時間

第2案

10分	開会行事：任意 (監督会の指示の下に)		開会行事	開会行事 (クラスで)	初等協会 開会行事	託 児
40分	メルケゼテク 神 定 員 会	アロン 神 権 定 員 会	扶助協会	若い女性	初等協会 クラス レッスン	
10分	休 憩				初等協会 活動時間	
40分	日曜学校クラスレッスン				初等協会 活動時間	
10分	休 憩					
70分	聖 餐 会					

3 時間

150周年記念行事

教会設立 150 周年の今年は世界各地でこれを祝う式典や行事が盛り沢山——。

日本でも、ステーキ部や伝道部でいろいろな催し物が計画され、中にはすでに
行なわれているものもあります。

今月は「聖徒の道」150 周年記念特集号にちなんで、日本の 150 周年記念行事
を取り上げてみました。

日本大阪北ステーキ部

4月6日	神権会、昌栄学校、聖餐会 の特別プログラム
4月12日	150年祭前期大会 (作詩、作曲、美術展)
11月24日	150年祭後期大会 (扶助協会年次大会「スピーチ ドラマ、コーラス他」)

日本名古屋ステーキ部

5月1—5日 演劇公演、その他

日本大阪ステーキ部

5月5日	体育祭
	扶助協会年次大会(ロードショー)
11月24日	文化祭(ミュージカル)
	年間を通して系図デーを設ける

日本福岡ステーキ部

4月19日	前夜祭
5月20日	アトラクション
5月(未定)	献血運動
	カンパニア難民救済チャリティデー
	SAP演劇祭

日本岡山伝道部

8月(未定) エメラルドの祭典「SAPの各宿
各家庭で150周年を記念した「家
庭の夕べ」を行なう

日本福岡伝道部

4月6日	
5月11日	神権会特別レッスン
6月15日	
4月29日	運動会
6月23日	SAP演劇祭
7月26日	初等協会学芸会
8月26日	扶助協会文化公演会
10月10日	SAPバレーボール大会

なお、日本札幌伝道部、日本東京南伝道部、日
本名古屋伝道部、日本神戸伝道部については現
在計画中につき、記載できませんでしたのでご
了承下さい。



日本札幌スキー部

4月19-20日	SAFスキー大会
4月26-29日	SAFスキー大会
6月24日	SAFスキー大会
8月4-9日	SAFスキー大会
8月15-16日	SAFスキー大会
9月23日	スキー大会

日本仙台伝道部

4月3-5日	スキー大会
4月18-19日	スキー大会
4月24-25日	スキー大会
8月15-16日	スキー大会
9月23日	スキー大会

日本東京北伝道部

4月3-5日	スキー大会
4月18-19日	スキー大会
4月24-25日	スキー大会
8月15-16日	スキー大会
9月23日	スキー大会

日本東京北スキー部

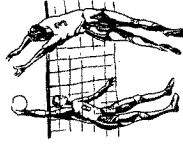
4月3-5日	スキー大会
4月18-19日	スキー大会
4月24-25日	スキー大会
8月15-16日	スキー大会
9月23日	スキー大会

日本横浜スキー部

4月3-5日	スキー大会
4月18-19日	スキー大会
4月24-25日	スキー大会
8月15-16日	スキー大会
9月23日	スキー大会

日本東京スキー部

4月3-5日	スキー大会
4月18-19日	スキー大会
4月24-25日	スキー大会
8月15-16日	スキー大会
9月23日	スキー大会



昨年12月10日付、「北海道新聞」に、札幌第2ワード部の潟沼佳代姉妹の書いた『アメリカと私』と題する随想が紹介されました。それは、地元ゆかりの有島武郎を記念した有島青少年文芸賞（北海道新聞社、有島武郎記念会共催）の最優秀作品として選ばれるという喜ばしい記事でした。

彼女の作品は高校生、社会人を含めた応募作 126 篇の中から選ばれた非常に価値あるものです。

彼女は、3年前、合衆国ユタ州プロボの小学校に9カ月間学び、そこで得たいろいろな体験をつづっています。

それにはまったく異なった文化、人種の中での『アメリカ』や『世界』が子供なりの確かな目と心でとらえられています。素直にしかも、鋭く描かれた作品からは、子供のもつ豊かな感受性がひしひしと伝わってきてほんとうに心を動かされます。

誌面のスペースの関係で彼女の作品はここに載せることはできませんが、当編集部に送られた彼女の証と、北海道新聞に掲載された受賞の喜びの記事を皆さんに御紹介します。

“有島青少年文芸賞”受賞にあたって

北海道にゆかりのある「カインの末裔」や、「生まれ出ずる悩み」を書いた有島武郎を記念して、文学作品を募集するのが、有島青少年文芸賞です。

去年の11月中旬、私も「アメリカと私」という随想を書いてそれに応募しました。応募した動機は、父が募集要項をもってきてくれたこともありましたが、多くの人に、私のアメリカでのすばらしい経験を知ってほしかったからです。ですから、この随想を書く機会があったことを心から神様に感謝しています。

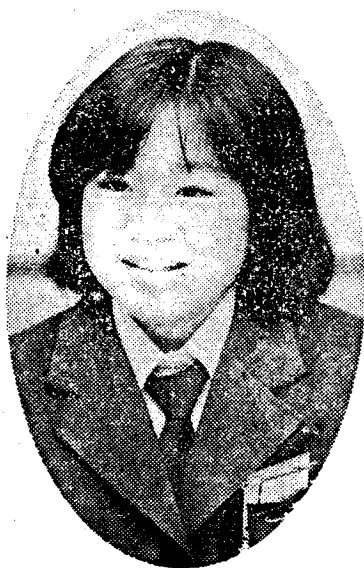
「アメリカと私」の内容を手短かに紹介しましょう。ジュリーという女の子がラオスからやってきました。ジュリーとは髪の色がにていたせいか、私は特別に親しみを感じずぐになかよしになりました。ジュリーは戦戦を避けて、飢えと恐怖の中をようやくの思いで、アメリカに移住してきたのです。また、ジュリーだけではなく、アフリカからは黒人の子もきていました。そんな中でえた経験から、人種がちがってもみんな神様の子供なんだという気持ちが、とても私の心の中で強くなっ

てきました。

ちょっと話題を変えてみたいと思います。現在世界には、同じ神様の子供でも、私とはちがって、戦争のために死んでいたり、飢えで苦しんでいる子供がたくさんいます。以前テレビで「バングラデシュの子供達は飢えている」というのを見ました。栄養失調になる子がたくさんいます。その子たちは、おなかだけが風船のようにふくらんで、手足は骨と皮です。そして、まもなく死んでしまうのです。このことを考えると、私達はどんなにたくさんの祝福をうけているかしれません。私の場合も、あたたかい家があって、愛する家族が側にいて、毎日、母のつくったおいしい食事が食べれます。これだけでも、どんなに大きな祝福でしょうか。私は、本当にぜいたくな気持ちを捨てて、不平を言わず、いつも神様の祝福があることをよく頭に入れておきたいと思います。また、この地上に戦争やあらそいをなくして、すべての人が神様の福音を聞いたらどんなにすばらしいだろうかとも思います。

「童話作るのが大好き」

有島文芸賞最優秀
 湯沼さん(札幌市の年
 小中一)



「最優秀なんて…」と喜び
 を語る湯沼さん

「びっくりです」

第十七回有島青少年文芸賞（北海道新聞社、有島武郎記念会共催）の最優秀賞は、札幌市白石区南一年、湯沼佳代さん（こ）札幌市白石区もみじ台東七ノ五ノ四、道教育大岩見沢分校助教授、湯沼誠三さんの長女！が最優秀に選ばれた。受賞作の随想「アメリカと私」は、三年前、米国で過ごした一年近い生活の思い出をつづったもので、子供の目と心でとらえた米国民、世界観が生きていて感動されている。佳代さんは小学生のころから童話を書くのが好きだったという。文学少女、だが、まだあどけなさを残る明るいお嬢さんである。（一面の社告参照）

米国生活生き生き描く

「応募したのは、お父さんが作から、まさか入賞なんて、とびひっくりです」。両手をもちあげ、品募集の切り抜きを見せられて、らめていました。最近はずっと、とびひの上に置いて、話す佳代さん「出してみたい」と勧めてくれたり、忘れていました。最優秀さん、目を見つめ、光り、真つ白

な顔がこぼれる笑顔がいかにもうれしかった。

アメリカに行ったのは小学四年のとき。父親の誠三さんが在外研究員として派遣され、家族一揃にユタ州アロバート市で約九カ月を過ごした。「アメリカと私」では、学校生活やマタの行事などを追って体験したことが書かれ、言葉の悩みや人種の問題にも触れているが、「二人種が違っても言葉がわからなくても、心は通じ合える」ということが最も印象に残り、それがこの随想の中でも一番言いたかったことだと佳代さん。

小学三年のころ、園上の時間に、自分で、お話を作り、それを絵にかいたことがあった。「あれから自分で童話を作るのが面白くなつて、時々書いてきました。だから小学生時代の夢は、将来、童話作家になることだった。だが、中学校に入ってからちょっと変わった。小学校の先生になりたい、という。そのためにもっと勉強をしよう。でも、なかなか時間を作ってくれられず、童話を書き続けたいと思ってます」とさわやかな表情だった。

です。

私がこの随想を書いたことは、私の生涯の中でとても大切なことになると思います。私はこのような祝福をくださった天のお父様に心から感謝いたします。

それから、私が受賞したことを知って、教会に来ておられない兄弟姉妹が電話をくださいました。私はそのことをとてもうれしく思いました。なぜなら「もう一度教会に行ってみませんか」とお誘いする機会があったから